

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事設計図

A-00	図面リスト	A-21	改修後トイレ3階平面詳細図	M-01	機械設備工事特記仕様書1
A-01	改修工事特記仕様書1	A-22	改修後トイレ1階展開図	M-02	機械設備工事特記仕様書2
A-02	改修工事特記仕様書2	A-23	改修後トイレ2階展開図	M-03	衛生設備器具リスト
A-03	改修工事特記仕様書3	A-24	改修後トイレ3階展開図	M-04	衛生設備1階平面図(改修)
A-04	改修工事特記仕様書4	A-25	改修後トイレ1階～3階天井伏図	M-05	衛生設備2階平面図(改修)
A-05	改修工事特記仕様書5	A-26	改修後建具配置図・改修後建具表各階共通・改修後TB姿図	M-06	衛生設備3階平面図(改修)
A-06	改修工事特記仕様書6	A-27	部分詳細図	M-07	衛生設備生徒用トイレ1・2階平面詳細図(改修)
A-07	改修工事特記仕様書7	A-28	仮設計画図	M-08	衛生設備生徒用トイレ3階平面詳細図(改修)
A-08	改修工事特記仕様書8			M-09	衛生設備生徒用便所1・2階平面詳細図(現況)
A-09	改修工事特記仕様書9			M-10	衛生設備生徒用便所3階平面詳細図(現況)
A-10	改修工事特記仕様書10	E-01	電気設備工事特記仕様書1	M-11	換気設備生徒用トイレ1～3階平面詳細図(改修)
A-11	メーカーリスト	E-02	電気設備工事特記仕様書2	M-12	換気設備生徒用便所1～3階平面詳細図(現況)
A-12	設計概要・外部仕上表・内部仕上表				
A-13	附近見取図	E-04	電灯盤改修		
A-14	配置図	E-05	1階平面図		
A-15	校舎1階平面図	E-06	2階平面図		
A-16	校舎2階平面図	E-07	3階平面図		
A-17	校舎3階平面図	E-08	生徒用便所電灯撤去改修図		
A-18	改修前トイレ1階～3階平面図	E-09	生徒用便所1階電灯コンセント設備図		
A-19	改修前トイレ1階～3階展開図	E-10	生徒用便所2階電灯コンセント設備図		
A-20	改修後トイレ1階～2階平面詳細図	E-11	生徒用便所3階電灯コンセント設備図		

特記事項	令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一
	- SCALE	- SCALE	- SCALE	SCALE	
	図面リスト				
	DW.	CK.	NO. A-00	DATE 03-09	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

建築改修工事特記仕様書

【1】工事概要					
1. 工事場所 京都府船井郡京丹波町市場丸ヶ野4番地					
2. 敷地面積 m ²					
3. 建築物概要					
棟名	構造	階数	建築面積(m ²)	延べ面積(m ²)	備考
管理棟・教室棟	RC造	3	122.4		

4. その他

【2】適用範囲					
現場説明書(質疑回答書を含む)、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。すべての設計図書は相互に補完するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官房官庁常総部監修 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(平成31年版)をいう。(以下、これを「改修仕様」という。)					
本書に特に記載のない事項にあっても、すべて、「改修仕様」の適用を受けるものとする。					

【3】工事区分					
設計図書による。 別契約の施工上密接に関連する工事との取扱い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。					

【4】工事仕様					
1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修仕様」のほか別記の適用基準による。 2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。 4. 項目及び特記事項に記載の()内表示番号は「改修仕様」の当該項目、当該図又は当該表を示す。					

章 項目 特記事項						
一般共通事項	① 適用基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 平成31年版 (監修:国土交通省) ● 建築工事標準詳細図 平成28年版 (監修:国土交通省) ○ 敷地調査共通仕様書 令和元年版 (監修:国土交通省) ○ 建築構造設計基準 及び参考資料 平成30年版 (監修:国土交通省) ○ 公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 平成31年版 (監修:国土交通省) ○ 公共建築工事標準仕様書 平成31年版 (監修:国土交通省) ● 公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編) 平成31年版 (監修:国土交通省) ● 公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編) 平成31年版 (監修:国土交通省) <p>(注: 監修欄「国土交通省」は国土交通省大臣官房官庁常総部を示す)</p>				
	② 建築材料等	<p>本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監督職員の承諾を受ける。</p> <p>下記材料品目は、国土交通省大臣官房官庁常総部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿(最新版)」にある材料とする。</p> <p>また、同評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督職員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとすることができる。(評価名簿によるもの)</p> <p>床型枠用鋼製ダッキプレート(フローティング)、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材(ジョットコ形、現場調合形)、押出成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材(防水立上部)、陶磁器質タイル、既製調合モルタル(タイル工事用)、既製調合目地材、ルーフドレン、吸水調整材(吸水用)、アルミニウム製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前類(シリカ箱錠、レバーハンドル、シリカ本締り錠)、クローザー類(アーチローザー、シリカローザー、ワーリング)、自動扉機構(制御装置・駆動装置、検出装置)、自閉式上吊引戸機構(手動開き式)、重量シャッタ、軽量シャッタ、オーバーハンドドア、ガラス(ガラス板ガラス、型板ガラス、網入板ガラス、線入板ガラス、熱線吸収板ガラス、倍強度ガラス、熱線反射ガラス)、ガラスブロック(中空)、防水剤、現場発泡断熱材、リーアクセラ(3000N、5000N)、可動間仕切、移動間仕切(スライド、スライド)、トイレブース、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム(屋上緑化システム、屋上緑化軽量システム)、トップライト、エポキシ樹脂、タイル部分張替え用接着剤、ポリマーセメントモルタル、錆鉄製ふた(マンホールふた・弁排ふた)</p>				

特記事項

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項																																	
一般共通事項	③ 特別な材料の工法	設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。	一般共通事項	④ 風圧力及び積雪に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分 風速(Vo) ● 3.2 ○ (平成12年5月31日建設省告示第1454号) 地表面粗度区分 ○ I ○ II ● III ○ IV 多雪地域の指定 ● なし ○ あり	仮設工事	① 定場その他	労働安全衛生法、建築基準法、建設工事公衆災害防止対策要綱その他の関係法令に従い、適切な材料及び構造のものとし、適切な保守管理を行う。																																	
	⑤ 現場代理人	本工事の施工にあたっては、工事請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。																																							
	⑥ 工事工程報告	月報は毎月末日に〆め、翌月5日までに提出する。 日報は監督職員の指示による。 週報は毎週()曜日に提出する。																																							
	⑦ 工事実績情報の登録	(1.1.4) 適用する (適用事項は、現場説明書による) ○ 適用しない																																							
	⑧ 設備工事との取扱い	施工範囲 ● 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ● 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ○ 駆動装置が電動による建具類の二次配線及び操作スイッチ ○ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 施工図 設備機器の位置、取合等の検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。																																							
	⑨ 施工図等の取扱い	(1.2.3) 施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。																																							
	⑩ 工事写真	(1.2.4) 工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編(最新版) (国土交通省大臣官房官庁常総部監修)によるほかは監督職員の指示による。 下記のものを監督職員に提出する。																																							
		<table border="1"> <tr> <td>部数(一枚につき)</td> <td>分類・規格</td> <td>原版の大きさ(mm)</td> </tr> <tr> <td>着工前 ● 1 ○</td> <td>● カラーサービス版</td> <td>○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td>工事中 ● 1 ○</td> <td>● カラーサービス版</td> <td>○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td>完成時 ()箇所 内 ● 2 ○</td> <td>● カラーサービス版</td> <td>○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td>()箇所 外 観 ○ 2 ○</td> <td>○ カラーキヤビネ版</td> <td>○ 60×70以上</td> </tr> <tr> <td>()箇所</td> <td></td> <td>○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ 60×70以上</td> </tr> </table>		部数(一枚につき)	分類・規格		原版の大きさ(mm)	着工前 ● 1 ○	● カラーサービス版	○ 24×36以上	工事中 ● 1 ○	● カラーサービス版	○ 24×36以上	完成時 ()箇所 内 ● 2 ○	● カラーサービス版	○ 24×36以上	()箇所 外 観 ○ 2 ○	○ カラーキヤビネ版	○ 60×70以上	()箇所		○ 24×36以上			○ 60×70以上																
	部数(一枚につき)	分類・規格		原版の大きさ(mm)																																					
	着工前 ● 1 ○	● カラーサービス版		○ 24×36以上																																					
工事中 ● 1 ○	● カラーサービス版	○ 24×36以上																																							
完成時 ()箇所 内 ● 2 ○	● カラーサービス版	○ 24×36以上																																							
()箇所 外 観 ○ 2 ○	○ カラーキヤビネ版	○ 60×70以上																																							
()箇所		○ 24×36以上																																							
		○ 60×70以上																																							
	写真をデジタル写真で撮影する場合には、完成写真については有効画素数300万画素程度、工事写真は有効画素数130万画素程度とし、黒板の文字等の内容が判読できる精度を確保するものとする。 完成写真撮影場所は、監督職員の指示による。																																								
	○ 完成写真撮影業者は、監督職員の承諾する撮影業者(建築写真専門業者)とする。 適用する																																								
11 電気保安技術者	(1.3.3) 現場説明書による																																								
12 施工条件	(1.3.5) ⑬ 発生材の処理等																																								
13 発生材の処理等	(1.3.12) ○ 引渡しを要するもの () ○ 工事現場において再利用を図るもの、再資源化を図るもの () ○ 指定副産物の搬出(詳細は現場説明書による) ○ アスファルトコンクリート塊 ○ セメントコンクリート塊 ● 建設発生木材 ○ 指定副産物の処分地(詳細は現場説明書による) ● 指定地処分 (京都環境保全公社) ○ 自由処分 (最寄りの再資源化施設へ搬出すること) ○ 指定副産物以外の搬出 ○ 構外搬出適切処理 ○ () ○ 特別管理産廃棄物																																								
14 調査のための破壊部分の補修	(1.5.3) 既存破壊部分の補修方法 ○ 図示による ○																																								
15 技能士	(1.6.2) <table border="1"> <tr> <td>工事種別</td> <td>適用する技能士の技能検定における選択作業</td> </tr> <tr> <td>仮設工事</td> <td>○ とび作業</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工事</td> <td>○ 鉄筋組立作業</td> </tr> <tr> <td>コンクリート工事</td> <td>● 左官作業 ○ 型枠工事作業 ○ カット・送工作業</td> </tr> <tr> <td>鉄骨工事</td> <td>○ 構造物鉄骨工作業 ○ とび作業</td> </tr> <tr> <td>アーチ及びALC・セメント工事</td> <td>○ カット・アーチ工事作業 ○ ALC・セメント工事作業</td> </tr> <tr> <td>カーテンウォール工事</td> <td>○ 金属製カーテンウォール施工業 ○ ピル用カーテン施工業 ○ ガラス工事作業</td> </tr> <tr> <td>防水工事</td> <td>○ アルキル系防水工事作業 ○ シーリング防水工事作業 ○ カルボン系塗膜防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業 ○ 合成ゴム系防水工事作業 ○ 塩化ビニル系防水工事作業 ○ 改質アフルオレオントチ工法防水工事作業</td> </tr> <tr> <td>石工事</td> <td>○ 石張り作業</td> </tr> <tr> <td>タイル工事</td> <td>○ タイル張り作業</td> </tr> <tr> <td>木工事</td> <td>● 大工工事作業</td> </tr> <tr> <td>屋根及びとい工事</td> <td>○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業</td> </tr> <tr> <td>金属工事</td> <td>● 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業</td> </tr> <tr> <td>左官工事</td> <td>● 左官作業</td> </tr> <tr> <td>塗装工事</td> <td>● 建築塗装作業</td> </tr> <tr> <td>建具工事</td> <td>○ ピル用カーテン施工業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア施工業 ○ プラスチック系床仕上工事作業 ○ ポード・仕上工事作業 ○ カーペット系床仕上工事作業 ○ 壁作業</td> </tr> <tr> <td>内装工事</td> <td>○ 排水工事</td> </tr> <tr> <td>排水工事</td> <td>● 建築配管作業</td> </tr> <tr> <td>舗装工事</td> <td>○ 溶融セメント・マーカー工事作業 ○ 加熱ペイント・マーカー工事作業</td> </tr> <tr> <td>植栽工事</td> <td>○ 造園工事作業</td> </tr> </table>	工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業	仮設工事	○ とび作業	鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業	コンクリート工事	● 左官作業 ○ 型枠工事作業 ○ カット・送工作業	鉄骨工事	○ 構造物鉄骨工作業 ○ とび作業	アーチ及びALC・セメント工事	○ カット・アーチ工事作業 ○ ALC・セメント工事作業	カーテンウォール工事	○ 金属製カーテンウォール施工業 ○ ピル用カーテン施工業 ○ ガラス工事作業	防水工事	○ アルキル系防水工事作業 ○ シーリング防水工事作業 ○ カルボン系塗膜防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業 ○ 合成ゴム系防水工事作業 ○ 塩化ビニル系防水工事作業 ○ 改質アフルオレオントチ工法防水工事作業	石工事	○ 石張り作業	タイル工事	○ タイル張り作業	木工事	● 大工工事作業	屋根及びとい工事	○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業	金属工事	● 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業	左官工事	● 左官作業	塗装工事	● 建築塗装作業	建具工事	○ ピル用カーテン施工業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア施工業 ○ プラスチック系床仕上工事作業 ○ ポード・仕上工事作業 ○ カーペット系床仕上工事作業 ○ 壁作業	内装工事	○ 排水工事	排水工事	● 建築配管作業	舗装工事	○ 溶融セメント・マーカー工事作業 ○ 加熱ペイント・マーカー工事作業	植栽工事	○ 造園工事作業
工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業																																								
仮設工事	○ とび作業																																								
鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業																																								
コンクリート工事	● 左官作業 ○ 型枠工事作業 ○ カット・送工作業																																								
鉄骨工事	○ 構造物鉄骨工作業 ○ とび作業																																								
アーチ及びALC・セメント工事	○ カット・アーチ工事作業 ○ ALC・セメント工事作業																																								
カーテンウォール工事	○ 金属製カーテンウォール施工業 ○ ピル用カーテン施工業 ○ ガラス工事作業																																								
防水工事	○ アルキル系防水工事作業 ○ シーリング防水工事作業 ○ カルボン系塗膜防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業 ○ 合成ゴム系防水工事作業 ○ 塩化ビニル系防水工事作業 ○ 改質アフルオレオントチ工法防水工事作業																																								
石工事	○ 石張り作業																																								
タイル工事	○ タイル張り作業																																								
木工事	● 大工工事作業																																								
屋根及びとい工事	○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業																																								
金属工事	● 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業																																								
左官工事	● 左官作業																																								
塗装工事	● 建築塗装作業																																								
建具工事	○ ピル用カーテン施工業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア施工業 ○ プラスチック系床仕上工事作業 ○ ポード・仕上工事作業 ○ カーペット系床仕上工事作業 ○ 壁作業																																								
内装工事	○ 排水工事																																								
排水工事	● 建築配管作業																																								
舗装工事	○ 溶融セメント・マーカー工事作業 ○ 加熱ペイント・マーカー工事作業																																								
植栽工事	○ 造園工事作業																																								
16 施工の検査等	(1.6.5) 見本施工の実施 ○ 適用する() ○ 適用しない																																								
17 化学物質の濃度測定	(1.6.9) 適用する (適用事項は、現場説明書による)																																								
18 完成図	(1.8.2) 作成する (提出部数 ● 2 部 ○ 部) 詳細は監督職員の指示による。 完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。																																								
19 保全に関する資料	(1.8.3) 作成する (提出部数 ● 2 部 ○ 部) ○ 敷地、建物の構造規模、主要な設備構成等の建物概要 ○ 建物を使用する上での注意事項 ○ 建物に設置されている家具、機器等及び部位毎の仕上げの概要説明 ○ 建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点 ○ 主要材料の製造所名、所在地、連絡先、非常時の連絡体制一覧表 建設大臣官房官庁常総部監修「管理者のための建築物保全の手引き」及び「建築保全業務共通仕様書」を参考として作成すること。																																								
20 仮設間仕切り	(2.3.2) ○ 設ける (図示)																																								
21 既存部分の養生	(2.3.1) 既存部分の養生 ※ 行う (※ ビニールシート、合板 ○) ○ 行わない 既存家具・既存設備等の養生 ※ 行う (※ ビニールシート ○) ○ 行わない 既存ブランド・カーテン等の養生及び保管 ○ 行う ○ 行わない 養生の方法 ○ 取り外しのうえ清掃 ○ 保管場所 ○ 室内にてカバー掛けの上、適切保管 ○ 家具の移動 ○ 行う (図示) ○ 行わない																																								
22 4 監督職員事務所	(2.4.1) 規模 ○ 10m ² 程度 ○ 20m ² 程度 ○ 35m ² 程度 ○ 65m ² 程度 ○ 100m ² 程度 仕上床 ○ 合板張り素地 ○ ピクル床シート敷き ○ バーチカル床 内壁、天井 ○ 合板又はセッコウボード張り、合成樹脂アクリル・イット塗り 屋根 ○ 塗装溶接垂鉛めっき鋼板張り ○ 鋼板張り調合ペイント塗り 休憩室 ○ 設けない ○ 設ける (星書き) ○ 備品 ○ 机 ○ いす ○ 保護帽 ○ ゴム長靴 ○ 雨がっぽう ○ 衣類カバ (上記6品、 人分程度) ○ 書棚 ○ 黒板 ○ 製図板 ○ 掛時計 ○ 温度計 ○ 消火器 ○ 消除具 ○ 懐中電灯 ○ 湯沸器 ○ 加入電話機 ○ 寒冷房機器 ○ コピー機 ○ ネット回線 ○ 流し台 ○ ○ 改修仕様(平成31年版) ○ 建築改修工事監理指針(令和元年版) ○ 建築工事施エチックシート ○ 建築工事標準詳細図(平成28年版) ○ 工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編(最新版)																																								
23 5 工事用水	構内既存の施設 ○ 利用できない ● 利用できる (● 有償 ○ 無償)																																								
24 6 工事用電力	構内既存の施設 ○ 利用できない ● 利用できる (● 有償 ○ 無償)																																								
25 7 仮囲い等	○ 図示による ○																																								
26 8 設計G.L.	○ 図示による ○ 設計G.L.=現状G.L.																																								

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

- SCALE - SCALE SCALE

改修工事特記仕様書1

DW. CK. NO. DATE

A-01 03-09

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-0

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

章	項	目	特記事項	章	項	特記事項	章	項	特記事項	章	項	特記事項						
(2) 土・鉄筋・コンクリート工事	1 埋め戻し及び盛土	(3.2.3) (8.28.3)	本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(平成31年版)の該当項目。該当箇所又は該当表を示す。 なお、耐震改修工事に係る「鉄筋・コンクリート」の取り扱いは、後述の章「8 耐震改修工事」によるものとする。	(2) 土・鉄筋・コンクリート工事	⑩ 構造体強度補正値 (6.3.2)	※ 気温による構造体強度補正値 (S) (表6.3.2) 予想平均気温 (°C) 补正値 (S) 期間 (打設日) 普通 早強 3 南部地域 3/6 ~ 6/30 3/11 ~ 7/20 3/11 ~ 7/10 8以上 5以上 (S) 中部地域 9/11 ~ 11/15 9/1 ~ 11/5 9/1 ~ 10/31 0以上 6 北部地域 11/16 ~ 3/5 11/6 ~ 3/10 11/1 ~ 3/10 8未満 N/mm2	3 防水改修工事	3	絶縁用シート ※ ポリエチレンフィルム厚0.15 (保護防水工法) ※ フラットヤーンクロス (70g/m ² 程度) (保護防水断熱工法) ○ 押え金物 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○ 立上がり部の保護 ○ 乾式保護材() ○ 普通れんが(JIS R 1250) ○ 化粧れんが(JIS R 1250) ○ ○ コンクリート(工法) 保護層 平場のコンクリート厚さ ○ mm ○ こて仕上げ mm ○ 床タイル張り等仕上げ mm コンクリート仕上がりの平たんさ ○ a種 ○ b種 ○ c種 脱気装置 ○ 設ける 材種 () 設置数量 (1箇所 / m ²) 伸縮調整目地 ※ 成形伸縮目地材 ○ 成形緩衝材 ※ L-ワッフル類製造所の指定品 ○ 屋上排水溝 ※ 図示による	3	5 塗膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3)	種別及び工程 防水層 施工箇所 仕上塗料 ○ P O X 工法 ※ X-1 ○ X-2 表3.6.1 ○ L 4 X 工法 ○ X-1 ※ X-2 ○ P 1 Y 工法 ○ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工法 ○	3	防水改修工事	脱気装置(X-1) ○ 設ける 材種 () 設置数量 (1箇所 / m ²) 保護層 ○ 設ける ○ 設けない ※ 水張り試験を行う (○ 屋内 ○ 屋外) ※ 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 (保証年限は工事目的物引渡しより10年間以上とする。)			
	2 建設発生土の処理	(3.2.5)	下記に定めるほかは、現場説明書による ○ 構外指示の受入場所に処分 受入場所 ○ (一財)城陽山砂利採取地整備公社 ○ 土壤調査 ○ 行う (受入場所指定の検査) ○ ○ 京都府土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例 施行規則第7条第3項1号及び第4項に規定する方法 仮置場所 ○ ○ 構内指示の場所に敷き均し ○ 構内指示の場所にたい積 ○ 構外搬出適切処理 ※ 中丹東土木事務所管内及び丹後土木事務所管内で、搬出土量が少量 (500m ³ 以内) かつ緊急の場合等			11 コンクリートの試験 (6.9.2) ~ (6.9.5)		※ フレッシュコンクリートの試験 ○ 省略する		6 漏水試験	7 保証書	8 施工標識	9 シーリング	10 とい(雨水)	11 アルミニウム製笠木			
	3 鉄筋の種類	(5.2.1)	異形鉄筋 種類の記号 径 (mm) 備考 ※ SD 295 A D 16 以下 ※ SD 345 D 19 以上 ○		12 軽量コンクリート (6.10.1) ~ (6.10.3)	常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可 種類 ○ 1種 ○ 2種 施工箇所 気乾単位容積質量 t/m ³		13 寒中コンクリート (6.11.1)	※ 予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第1節 (寒中コンクリート) による。	3 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)	○ 露出防水密着工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 ○ M 4 A S 工法 ○ AS-T1 ○ AS-T2 表3.4.1 ○ AS-J2	○ 露出防水密着工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 ○ M 3 A S 工法 ○ AS-T3 ○ AS-T4 表3.4.2 ○ AS-J1 ○ AS-J3	○ 露出防水密着工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 ○ M 3 A S I 工法 ○ ASI-T1 ○ M 4 A S I 工法 ○ ASI-J1 表3.4.3 ○ P 0 A S I 工法	○ 露出防水密着工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 ○ M 4 A S I 工法 ○ ASI-T1 ○ M 4 A S I 工法 ○ ASI-J1 表3.4.3 ○ P 0 A S I 工法	目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ 幅20mm以上、深さ10mm以上 ○ ガラス回りの目地 ※ 幅5mm以上、深さ5mm以上 ○ その他の目地 ※ 幅10mm以上、深さ10mm以上 ○			
	4 接金網	(5.2.2)	網の形状、寸法 150 鉄線の径 6 mm		14 夏中コンクリート (6.12.2)	※ 夏中における構造体強度補正値 (S) 地 域 日平均気温が25度を超える期間 (打設日) 补 正 値 北 部 地 域 7月11日 ~ 8月31日 ※ 6 N/mm ² 中 部 地 域 7月21日 ~ 8月31日 ○ 3 N/mm ² 南 部 地 域 7月1日 ~ 9月10日		15 コンクリートミキサ車の過積載防止対策等	受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。					10 とい(雨水)	11 アルミニウム製笠木			
	5 コンクリートの種類	(6.2.1)	種類 ※ 普通コンクリート ○ 種類 ※ I類 ○ II類		16 既存下地の処理 (3.2.6)	既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○		17 アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)	○ 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3	4 合成高分子系フィギングシート防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)	○ 露出防水工法 種 别 防水層 施工箇所 仕上塗料 ○ P 0 S 工法 ○ S(I)-F1 ○ S 4 S 工法 PC部材入隅増強 (※有り ○無し) ○ P 0 S I 工法 ○ S(I)-F2 ○ S(I)-M1 ○ S 4 S I 工法 ○ S(I)-M2 ○ S(I)-M3 ○ S 3 S 工法 ○ S(I)-F1 ○ S 3 S I 工法 PC部材入隅増強 (※有り ○無し) ○ S(I)-F2 ○ M 4 S 工法 ○ S(I)-M1 ○ S(I)-M2 ○ M 4 S I 工法 ○ S(I)-M3 ○ P 1 S 工法 S-C1 もみ塗り厚さ mm	5 断熱材 (断熱工法) 厚さ ○ mm 種類 ○	6 既存下地の処理 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○	7 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3	8 既存下地の処理 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○	9 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3	10 既存下地の処理 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○	11 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3
	6 コンクリートの強度	(6.2.2) (6.2.4) (6.10.2) (6.14.1)	設計基準強度 (Fc) 打設部位 Fc (N/mm ²) スランプ (cm) 備考 構造体 基礎 ○ 24 ○ ○ 15 ○ 18 上部 ○ 24 ○ ○ 15 ○ 18 土間スラブを含む 土間コンクリート ○ 18 ○ ○ 15 ○ 18 側溝・走り 捨コンクリート ○ 18 ○ ○ 15 ○ 18 軽量コンクリート ○ 21 ○ ○ 21 ○ 18 無筋コンクリート ○ 18 ○ ○ 15 ○ 18 標仕6.14.1による		18 既存下地の処理 (3.2.6)	既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○		19 アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)	○ 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3	4 合成高分子系フィギングシート防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)	○ 露出防水工法 種 别 防水層 施工箇所 仕上塗料 ○ M 4 C 工法 ○ C-1 ○ C-2 ○ C-3 ○ C-4 表3.3.7 ○ M 3 D 工法 ○ D-1 ○ D-2 ○ D-3 ○ D-4 表3.3.8 ○ P 0 D 工法 ○ D-1 ○ D-2 ○ D-3 ○ D-4 表3.3.9 ○ P 0 D I 工法 ○ DI-1 ○ DI-2 表3.3.10	5 断熱材 (断熱工法) 厚さ ○ mm 種類 ○	6 既存下地の処理 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○	7 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3	8 既存下地の処理 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○	9 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3	10 既存下地の処理 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○	11 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3
	7 セメントの類別	(6.3.1)	※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○ 高炉セメントB種 (適用箇所) ○ シリカセメント ○ フライアッシュセメントB種 (施工箇所)		12 既存下地の処理 (3.2.6)	既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○		13 アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)	○ 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3	4 合成高分子系フィギングシート防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)	○ 露出防水工法 種 别 防水層 施工箇所 仕上塗料 ○ M 4 C 工法 ○ C-1 ○ C-2 ○ C-3 ○ C-4 表3.3.7 ○ M 3 D 工法 ○ D-1 ○ D-2 ○ D-3 ○ D-4 表3.3.8 ○ P 0 D 工法 ○ D-1 ○ D-2 ○ D-3 ○ D-4 表3.3.9 ○ P 0 D I 工法 ○ DI-1 ○ DI-2 表3.3.10	5 断熱材 (断熱工法) 厚さ ○ mm 種類 ○	6 既存下地の処理 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○	7 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3	8 既存下地の処理 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○	9 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3	10 既存下地の処理 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○	11 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3
	8 骨材	(6.3.1)	粗骨材 ※ 砂利 (JIS A5308)、碎石 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材 細骨材 ※ 砂 (JIS A5308)、碎砂 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 銅スラグ ○ フェロニッケルスラグ ○ 再生骨材 アルカリシリカ反応性による区分 ※ A (無害) ○		14 既存下地の処理 (3.2.6)	既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○		15 アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)	○ 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3	4 合成高分子系フィギングシート防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)	○ 露出防水工法 種 别 防水層 施工箇所 仕上塗料 ○ M 4 C 工法 ○ C-1 ○ C-2 ○ C-3 ○ C-4 表3.3.7 ○ M 3 D 工法 ○ D-1 ○ D-2 ○ D-3 ○ D-4 表3.3.8 ○ P 0 D 工法 ○ D-1 ○ D-2 ○ D-3 ○ D-4 表3.3.9 ○ P 0 D I 工法 ○ DI-1 ○ DI-2 表3.3.10	5 断熱材 (断熱工法) 厚さ ○ mm 種類 ○	6 既存下地の処理 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○	7 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3	8 既存下地の処理 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○	9 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3	10 既存下地の処理 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○	11 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P 2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3
	9 混合材料	(6.3.1)	○ 混和剤 ※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種 (JIS A 6204) 防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025) ○ 混和材 ※ フライアッシュ (JIS A 6201) I種、II種若しくはIV種 ○ コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) ○ コンクリート用シリカフューム (JIS A 6207) ○ コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)		16 既存下地の処理 (3.2.6)	既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○		17 アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)	○ 保護防水工法 種 别 防水層 施工箇所 ○ P 1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ BI-3 ○ P 2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○									

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
4 外 壁 改 修 工 事	<p>1 施工数量調査 (1.5.2)</p> <p>調査範囲 ○ 外壁改修範囲 ○ 図示の範囲 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び鉄汁の流出の有無を確認する。 モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ○ 図示 ○ 調査報告書の部数 ○ 2部 ○ ※ 施工に先立ち、建築士上施工技術者（BELCA）による外壁劣化状況調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。</p> <p>2 ひび割れ部改修 (4.1.4) (4.2.4)</p> <p>○ コンクリート打放し仕上げ ○ 樹脂注入方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ 自動式低圧注入法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○ 手動式エボキシ樹脂注入法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50~100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○ 機械式エボキシ樹脂注入法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100~200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150~250</td> <td>○130</td> </tr> </tbody> </table> <p>エボキシ樹脂 ○ 低粘土形 ○ 中粘土形 コア抜取り検査 ○ 行う ○ 行わない (注入状況確認方法) _____ 抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ 抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○ ○ Uカットシール材充填方法 ○ シーリング材 充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない ○ 可とう性エボキシ樹脂</p> <p>モルタル塗り仕上げ ○ 樹脂注入方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ 自動式低圧注入法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○ 手動式エボキシ樹脂注入法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50~100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○ 機械式エボキシ樹脂注入法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100~200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150~250</td> <td>○130</td> </tr> </tbody> </table> <p>エボキシ樹脂 ○ 低粘土形 ○ 中粘土形 コア抜取り検査 ○ 行う ○ 行わない (注入状況確認方法) _____ 抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ 抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○ ○ Uカットシール材充填方法 ○ シーリング材 充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない ○ 可とう性エボキシ樹脂</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧注入法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130	○ 手動式エボキシ樹脂注入法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40	○ 機械式エボキシ樹脂注入法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70		0.5以上1.0未満	○150~250	○130	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧注入法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130	○ 手動式エボキシ樹脂注入法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40	○ 機械式エボキシ樹脂注入法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70		0.5以上1.0未満	○150~250	○130	4 外 壁 改 修 工 事	<p>○ タイル張り仕上げ ○ 指詰注入方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ 自動式低圧注入法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○ 手動式エボキシ樹脂注入法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50~100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○ 機械式エボキシ樹脂注入法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100~200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150~250</td> <td>○130</td> </tr> </tbody> </table> <p>エボキシ樹脂 ○ 低粘土形 ○ 中粘土形 ひび割れ部の注入状況の確認 ○ コア抜取り検査 抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ 抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○ ○ Uカットシール材充填方法 ○ シーリング材 充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない ○ 可とう性エボキシ樹脂</p> <p>タイル撤去後の補修</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分張替え工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコーン樹脂 ○ ウレタン樹脂</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3 欠損部改修 (4.1.4) (4.2.2)</p> <p>○ コンクリート打放し仕上げ ○ 充填工法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>※ エボキシ樹脂モルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○ モルタル塗り仕上げ ○ 充填工法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>※ エボキシ樹脂モルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○ モルタル塗り仕上げ ○ 充填工法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>※ エボキシ樹脂モルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>エボキシ樹脂 ○ 低粘土形 ○ 中粘土形 コア抜取り検査 ○ 行う ○ 行わない 抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ 抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○ ○ Uカットシール材充填方法 ○ シーリング材 充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない ○ 可とう性エボキシ樹脂</p> <p>モルタル塗り仕上げ ○ 充填工法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>※ エボキシ樹脂モルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○ モルタル塗り仕上げ ○ 充填工法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>※ エボキシ樹脂モルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○ タイル張り仕上げ ○ 張替え工法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>1箇所の面積 (m²)</th> <th>材料</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分張替え工法</td> <td>0.25未満</td> <td>※ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557)による ○ カルキ樹脂系接着剤 (JIS A 5557)による</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>0.25以上</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557)による ○ カルキ樹脂系接着剤 (JIS A 5557)による</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ○ 改修標準仕様書4.5.1による ○ タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ○ 行う ○ 行わない 抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○ ○ セメントモルタルによるタイル張り タイル張りの工法 外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り ○ 改良積上げ張り 外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り ○ 有機系接着剤によるタイル張り シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○ 伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコーン系 ○ タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧注入法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130	○ 手動式エボキシ樹脂注入法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40	○ 機械式エボキシ樹脂注入法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70		0.5以上1.0未満	○150~250	○130	工法	材料	施工箇所	○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコーン樹脂 ○ ウレタン樹脂		工法	材料	施工箇所	○ 充填工法	※ エボキシ樹脂モルタル			○ ポリマーセメントモルタル		工法	材料	施工箇所	○ 充填工法	※ エボキシ樹脂モルタル			○ ポリマーセメントモルタル		工法	材料	施工箇所	○ 充填工法	※ エボキシ樹脂モルタル			○ ポリマーセメントモルタル		工法	材料	施工箇所	○ 充填工法	※ エボキシ樹脂モルタル			○ ポリマーセメントモルタル		工法	材料	施工箇所	○ 充填工法	※ エボキシ樹脂モルタル			○ ポリマーセメントモルタル		工法	1箇所の面積 (m ²)	材料	施工箇所	○ タイル部分張替え工法	0.25未満	※ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557)による ○ カルキ樹脂系接着剤 (JIS A 5557)による		○ タイル張替え工法	0.25以上	○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557)による ○ カルキ樹脂系接着剤 (JIS A 5557)による		4 外 壁 改 修 工 事	<p>4 浮き部改修工法 (4.4.10) ～(4.4.15)</p> <p>○ モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>アンカーピン (本/m²)</th> <th>注入口 (箇所/m²)</th> <th>充填量 (箇所/m²)</th> <th>注入量 (箇所/m²)</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ アンカーピン部分</td> <td>※16 ○</td> <td>※25 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピン全面</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピン+エボキシ樹脂注入工法</td> <td>※20 ○</td> <td>※20 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付アカーピン部分</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピン全面</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付アカーピン+エボキシ樹脂注入工法</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付アカーピン全面</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>アカーピン ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○ 注入口付アカーピン ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度 ○ 充填工法 ○ エボキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル ○ モルタル塗替え工法 既製目地材 ○ 使用する (形状)) 仕上厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○</p> <p>（4.5.9） ～(4.5.15)</p> <p>○ タイル張り仕上げ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>アンカーピン (本/m²)</th> <th>注入口 (箇所/m²)</th> <th>充填量 (箇所/m²)</th> <th>注入量 (箇所/m²)</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ アンカーピン部分</td> <td>※16 ○</td> <td>※25 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピン全面</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピン+エボキシ樹脂注入工法</td> <td>※20 ○</td> <td>※20 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピン全面</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピン+エボキシ樹脂注入工法</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付アカーピン部分</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピン全面</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピン+エボキシ樹脂注入工法</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付アカーピン全面</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>アンカーピン ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○ 注入口付アカーピン ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度 ○ 施工箇所及び タイルの種別 (4.2.2) (4.5.8)</p> <p>11タイル部分張替え工法 及びタイル張替え工法 （4.2.2） (4.5.8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所及び タイルの種別</th> <th>形状寸法 (mm)</th> <th>生地</th> <th>釉</th> <th>釉物</th> <th>色</th> <th>耐滑性</th> <th>工法</th> <th>耐候性</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 図示</td> <td></td> <td>○ 磁器</td> <td>○ 無釉</td> <td>○ 有り</td> <td>※ 標準</td> <td>○ 有り</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ せっ器</td> <td>○ 施釉</td> <td>○ 無し</td> <td>○ 特注</td> <td>○ 無し</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ 陶器</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 既調合モルタル () タイルの試験張り ※ 行わない ○ 行う タイルの見本焼き ※ 行わない ○ 行う 施工後の確認及び試験 (タイル部分張替え工法を除く) 浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う 接着力の試験 ※ 接着力試験機による接着力試験を行う ○ 行わない</p> <p>12窓下人研面台の 補修</p> <p>13仕上塗材 (4.1.5) (4.2.2) (4.6.5)</p> <p>○ シール工法 (※仕上げ塗材は外壁仕上塗材の上塗材とする。) ※ 塗膜防水 (※弾性ウレタン系 ○ エボキシ系)</p> <p>薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類 (呼び名)</th> <th>仕上げ</th> <th>工法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 外装薄塗材Si</td> <td>○ 砂壁状</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>○ ざざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td>○ 可とう形外装薄塗材Si</td> <td>○ 砂壁状</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>○ ざざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td>○ 外装薄塗材E</td> <td>○ 砂壁状</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>次付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 平たん状</td> <td>○ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td>○ ゆず肌状</td> <td>○ ざざ波状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 着色骨材砂壁状</td> <td>○ こて</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 可とう形外装薄塗材E</td> <td>○ 砂壁状</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 平たん状</td> <td>○ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td>○ ゆず肌状</td> <td>○ ざざ波状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 防水形外装薄塗材E (増塗材)</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>○ ざざ波状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 凹凸状</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 外装薄塗材S</td> <td>砂壁状</td> <td></td> <td>吹付け</td> </tr> </tbody> </table> <p>厚付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類 (呼び名)</th> <th>仕上げ</th> <th>工法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 外装厚塗材C</td> <td>○ 吹放し</td> <td>○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 平たん状</td> <td>○ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td>○ ひき起し</td> <td>○ かき落とし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 外装厚塗材E</td> <td>○ 吹放し</td> <td>○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 平たん状</td> <td>○ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td>○ ひき起し</td> <td></td> <td>○ ローラー</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工法	アンカーピン (本/m ²)	注入口 (箇所/m ²)	充填量 (箇所/m ²)	注入量 (箇所/m ²)	施工箇所	○ アンカーピン部分	※16 ○	※25 ○				○ アンカーピン全面	※13 ○	※12 ○				○ アンカーピン+エボキシ樹脂注入工法	※20 ○	※20 ○				○ 注入口付アカーピン部分	※9 ○	※9 ○				○ アンカーピン全面	※16 ○	※16 ○				○ 注入口付アカーピン+エボキシ樹脂注入工法	※9 ○	※9 ○				○ 注入口付アカーピン全面	※16 ○	※16 ○				工法	アンカーピン (本/m ²)	注入口 (箇所/m ²)	充填量 (箇所/m ²)	注入量 (箇所/m ²)	施工箇所	○ アンカーピン部分	※16 ○	※25 ○				○ アンカーピン全面	※13 ○	※12 ○				○ アンカーピン+エボキシ樹脂注入工法	※20 ○	※20 ○				○ アンカーピン全面	※13 ○	※12 ○				○ アンカーピン+エボキシ樹脂注入工法	※16 ○	※16 ○				○ 注入口付アカーピン部分	※9 ○	※9 ○				○ アンカーピン全面	※16 ○	※16 ○				○ アンカーピン+エボキシ樹脂注入工法	※9 ○	※9 ○				○ 注入口付アカーピン全面	※16 ○	※16 ○				施工箇所及び タイルの種別	形状寸法 (mm)	生地	釉	釉物	色	耐滑性	工法	耐候性	その他	○ 図示		○ 磁器	○ 無釉	○ 有り	※ 標準	○ 有り						○ せっ器	○ 施釉	○ 無し	○ 特注	○ 無し						○ 陶器								種類 (呼び名)	仕上げ	工法	備考	○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け		○ ゆず肌状	○ ざざ波状	ローラー	○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け		○ ゆず肌状	○ ざざ波状	ローラー	○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	次付け		○ 平たん状	○ 凹凸状	こて	○ ゆず肌状	○ ざざ波状	ローラー		○ 着色骨材砂壁状	○ こて	吹付け		○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け		○ 平たん状	○ 凹凸状	こて	○ ゆず肌状	○ ざざ波状	ローラー		○ 防水形外装薄塗材E (増塗材)	○ ゆず肌状	○ ざざ波状	吹付け		○ 凹凸状			○ 外装薄塗材S	砂壁状		吹付け	種類 (呼び名)	仕上げ	工法	備考	○ 外装厚塗材C	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け		○ 平たん状	○ 凹凸状	こて	○ ひき起し	○ かき落とし			○ 外装厚塗材E	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け		○ 平たん状	○ 凹凸状	こて	○ ひき起し		○ ローラー		4 外 壁 改 修 工 事	<p>5 目地改修工法 (4.1.4) (4.5.16)</p> <p>タイル張り仕上げ ○ 目地ひび割れ部改修工法 ○ 伸縮調整目地改修工法 位置 ※ 改修標準仕様表4.5.1による ○ 図示による 寸法 (幅×深さ) 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ 20mm以上×10mm以上 ○ その他 ※ 10mm以上×10mm以上 ○</p> <p>6 樹脂注入工法 (4.2.2) (4.3.4)</p> <p>建築補修用注入エボキシ樹脂 ※ 低粘度形 ○ 中粘度形 ひび割れの幅 (mm) 0.2~0.3未満 0.3~0.5未満 0.5~1.0以下 注入の間隔 (mm) 200程度 300程度 300程度 注入量 (CC/mm) _____</p> <p>※ 自動式低圧エボキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エボキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エボキシ樹脂注入工法 ひび割れ部の注入状況の確認 ○ コア抜取り検査 (抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○) (抜取り部分の補修方法 _____)</p> <p>7 Uカットシール材 充填工法 (4.3.5)</p> <p>シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○ 行う</p> <p>8 アンカーピン 注入工法 (4.2.2)</p> <p>アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304)、呼び径4mm、全ネジ切り丸棒 ○</p> <p>9 注入口付アンカーピン 注入工法 (4.2.2)</p> <p>注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304)、呼び径6mm程度 ○</p> <p>10 モルタル塗替え 工法 (4.2.2)</p> <p>モルタル ○ 現場調合材料 () 既製目地材 ○ 使用する (形状) _____</p> <p>11タイル部分張替え工法 及びタイル張替え工法 (4.2.2) (4.5.8)</p> <p>施工箇所及び タイルの種別 (4.2.2) (4.5.8)</p> <p>○ 既調合モルタル () タイルの試験張り ※ 行わない ○ 行う タイルの見本焼き ※ 行わない ○ 行う 施工後の確認及び試験 (タイル部分張替え工法を除く) 浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う 接着力の試験 ※ 接着力試験機による接着力試験を行う ○ 行わない</p> <p>12窓下人研面台の 補修</p> <p>13仕上塗材 (4.1.5) (4.2.2) (4.6.5)</p> <p>○ シール工法 (※仕上げ塗材は外壁仕上塗材の上塗材とする。) ※ 塗膜防水 (※弾性ウレタン系 ○ エボ</p>
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
※ 自動式低圧注入法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ 手動式エボキシ樹脂注入法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ 機械式エボキシ樹脂注入法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.5以上1.0未満	○150~250	○130																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
※ 自動式低圧注入法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ 手動式エボキシ樹脂注入法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ 機械式エボキシ樹脂注入法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.5以上1.0未満	○150~250	○130																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
※ 自動式低圧注入法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ 手動式エボキシ樹脂注入法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ 機械式エボキシ樹脂注入法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.5以上1.0未満	○150~250	○130																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
工法	材料	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコーン樹脂 ○ ウレタン樹脂																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
工法	材料	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 充填工法	※ エボキシ樹脂モルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
工法	材料	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 充填工法	※ エボキシ樹脂モルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
工法	材料	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 充填工法	※ エボキシ樹脂モルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
工法	材料	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 充填工法	※ エボキシ樹脂モルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
工法	材料	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 充填工法	※ エボキシ樹脂モルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
工法	1箇所の面積 (m ²)	材料	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ タイル部分張替え工法	0.25未満	※ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557)による ○ カルキ樹脂系接着剤 (JIS A 5557)による																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ タイル張替え工法	0.25以上	○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557)による ○ カルキ樹脂系接着剤 (JIS A 5557)による																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
工法	アンカーピン (本/m ²)	注入口 (箇所/m ²)	充填量 (箇所/m ²)	注入量 (箇所/m ²)	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
○ アンカーピン部分	※16 ○	※25 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン全面	※13 ○	※12 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン+エボキシ樹脂注入工法	※20 ○	※20 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アカーピン部分	※9 ○	※9 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン全面	※16 ○	※16 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アカーピン+エボキシ樹脂注入工法	※9 ○	※9 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アカーピン全面	※16 ○	※16 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
工法	アンカーピン (本/m ²)	注入口 (箇所/m ²)	充填量 (箇所/m ²)	注入量 (箇所/m ²)	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
○ アンカーピン部分	※16 ○	※25 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン全面	※13 ○	※12 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン+エボキシ樹脂注入工法	※20 ○	※20 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン全面	※13 ○	※12 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン+エボキシ樹脂注入工法	※16 ○	※16 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アカーピン部分	※9 ○	※9 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン全面	※16 ○	※16 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン+エボキシ樹脂注入工法	※9 ○	※9 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アカーピン全面	※16 ○	※16 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
施工箇所及び タイルの種別	形状寸法 (mm)	生地	釉	釉物	色	耐滑性	工法	耐候性	その他																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
○ 図示		○ 磁器	○ 無釉	○ 有り	※ 標準	○ 有り																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		○ せっ器	○ 施釉	○ 無し	○ 特注	○ 無し																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		○ 陶器																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
種類 (呼び名)	仕上げ	工法	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	○ ゆず肌状	○ ざざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	○ ゆず肌状	○ ざざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	次付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	○ 平たん状	○ 凹凸状	こて																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ ゆず肌状	○ ざざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 着色骨材砂壁状	○ こて	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	○ 平たん状	○ 凹凸状	こて																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ ゆず肌状	○ ざざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 防水形外装薄塗材E (増塗材)	○ ゆず肌状	○ ざざ波状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	○ 凹凸状																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
○ 外装薄塗材S	砂壁状		吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
種類 (呼び名)	仕上げ	工法	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ 外装厚塗材C	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	○ 平たん状	○ 凹凸状	こて																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ ひき起し	○ かき落とし																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
○ 外装厚塗材E	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	○ 平たん状	○ 凹凸状	こて																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ ひき起し		○ ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																																											
4 外 壁 改 修 工 事	<p>複層仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4)</p> <table border="1"> <tr><th>種類(呼び名)</th><th>仕上げ</th><th>工法</th><th>備考</th></tr> <tr><td>○複層塗材C E</td><td>○凸部処理</td><td>吹付け</td><td></td></tr> <tr><td>○複層塗材S I</td><td>○凹凸状</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○複層塗材E</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○複層塗材R E</td><td>○ゆず肌状</td><td>ローラー</td><td></td></tr> <tr><td>○可とう形複層塗材C E</td><td>○凸部処理</td><td>○凹凸状</td><td>吹付け</td></tr> <tr><td>○防水形複層塗材C E</td><td>○凸部処理</td><td>吹付け</td><td></td></tr> <tr><td>○防水形複層塗材E</td><td>○凹凸状</td><td>(○増塗材)</td><td></td></tr> <tr><td>○防水形複層塗材R E</td><td>○ゆず肌状</td><td>ローラー</td><td></td></tr> </table> <p>可とう形改修用仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4)</p> <table border="1"> <tr><th>種類(呼び名)</th><th>仕上げ</th><th>工法</th><th>備考</th></tr> <tr><td>○可とう形改修塗材E</td><td>○平たい状</td><td>ローラー</td><td></td></tr> <tr><td>○可とう形改修塗材R E</td><td>○さざ波状</td><td>ローラー</td><td></td></tr> <tr><td>○可とう形改修塗材C E</td><td>○ゆず肌状</td><td>吹付け</td><td></td></tr> </table> <p>防火材料の指定 ※なし ○</p> <p>下地補修後の打放しコンクリート壁面の仕上げ補修 ※行う(参考工法: 製造所:) ○行わない</p> <p>仕上塗材の耐候性 ※耐候形3種 ○</p> <p>仕上塗材の上塗材 溶媒 ※水系 ○弱溶剤系 ○溶剤系</p> <p>樹脂 ※アクリル系 ○</p> <p>外観 ※つや有 ○つやなし ○メタリック</p>	種類(呼び名)	仕上げ	工法	備考	○複層塗材C E	○凸部処理	吹付け		○複層塗材S I	○凹凸状			○複層塗材E				○複層塗材R E	○ゆず肌状	ローラー		○可とう形複層塗材C E	○凸部処理	○凹凸状	吹付け	○防水形複層塗材C E	○凸部処理	吹付け		○防水形複層塗材E	○凹凸状	(○増塗材)		○防水形複層塗材R E	○ゆず肌状	ローラー		種類(呼び名)	仕上げ	工法	備考	○可とう形改修塗材E	○平たい状	ローラー		○可とう形改修塗材R E	○さざ波状	ローラー		○可とう形改修塗材C E	○ゆず肌状	吹付け		<p>7 アルミニウム製建具 (5.2.2) ~ (5.2.5)</p> <p>外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (表5.2.1)</p> <table border="1"> <tr><th>性能等級</th><th>○A種</th><th>○B種</th><th>○C種</th></tr> <tr><td>耐風圧性</td><td>※ S-4 ○</td><td>※ S-5 ○</td><td>※ S-6 ○</td></tr> <tr><td>気密性</td><td>※ A-3 ○</td><td></td><td>※ A-4 ○</td></tr> <tr><td>水密性</td><td>※ W-4 ○</td><td></td><td>※ W-5 ○</td></tr> <tr><td>枠見込み(mm)</td><td>※ 図示 ○</td><td>70 ○</td><td>100 ○</td></tr> </table> <p>表面処理 (表5.2.2)</p> <table border="1"> <tr><th>種別</th><th>色</th><th>施工箇所</th></tr> <tr><td>○BB-1種</td><td>○標準 ○特注</td><td>※ 図示による ○</td></tr> <tr><td>○BB-2種</td><td>○標準 ○特注</td><td>※ 図示による ○</td></tr> <tr><td>○</td><td>○標準 ○特注</td><td></td></tr> <tr><td>○</td><td>○標準 ○特注</td><td></td></tr> <tr><td>○</td><td>○標準 ○特注</td><td></td></tr> </table> <p>○防音ドア、防音サッシとする場合(遮音性的等級)</p> <p>○断熱ドア、断熱サッシとする場合(断熱性的等級)</p> <p>○耐震ドアとする場合(面内変形追随性的等級)</p> <p>結露水の処理方法 ※図示による ○</p> <p>水切り、ゼン板等 ※図示による ○</p> <p>※出入りのくつりにステンレスを使用する場合は図示による。</p>	性能等級	○A種	○B種	○C種	耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○	気密性	※ A-3 ○		※ A-4 ○	水密性	※ W-4 ○		※ W-5 ○	枠見込み(mm)	※ 図示 ○	70 ○	100 ○	種別	色	施工箇所	○BB-1種	○標準 ○特注	※ 図示による ○	○BB-2種	○標準 ○特注	※ 図示による ○	○	○標準 ○特注		○	○標準 ○特注		○	○標準 ○特注		<p>5 建 具 改 修 工 事</p> <p>13 建具用金物 (5.7.2) ~ (5.7.4)</p> <p>マスターキーの製作 ※作成する (グループ、各グループ 個) ○作成しない ○在来マスターキーに合わせる</p> <p>鍵の制作本数 ※ 3本1組 ○</p> <p>開き戸 (表5.7.1)</p> <table border="1"> <tr><th>金物の種類</th><th>見え掛り部の材質</th><th>その他</th></tr> <tr><td>○シリンドラ箱錠</td><td>○挽り玉:ステンレス ○レバーハンドル:アルミニウム合金、(○ステンレス、○黄銅)</td><td>○取付位置 ()</td></tr> <tr><td>○</td><td>シリンドラーカラー:ステンレス</td><td>実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、銅製軽量建具、ガラス建具)</td></tr> <tr><td>○本締り錠</td><td>シリンドラーカラー:ステンレス</td><td>○耐じん性能のグレード ○</td></tr> <tr><td>○空錠</td><td>○挽り玉:ステンレス ○レバーハンドル:アルミニウム合金、(○ステンレス、○黄銅)</td><td>○取付位置 ()</td></tr> <tr><td>○グレモン錠</td><td>レバーハンドル:亜鉛合金、(○ステンレス)</td><td>○取付位置 ()</td></tr> <tr><td>○</td><td>ケースハンドル錠</td><td>実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、銅製軽量建具、ガラス建具)</td></tr> <tr><td>○</td><td>点検口錠</td><td>○取付位置 ()</td></tr> <tr><td>○</td><td>丁番</td><td>○耐じん性能のグレード ○</td></tr> <tr><td>○</td><td>ビボットヒンジ</td><td>ビボットヒンジは木製建具用のみ</td></tr> <tr><td>○</td><td>点検口輪吊リヒンジ</td><td>建具製作所の仕様による ○自閉装置付き</td></tr> <tr><td>○</td><td>フロアヒンジ</td><td>ドアクローザー</td></tr> <tr><td>○</td><td>ビジカバー(丁番型)</td><td>○延長閉り機能付き</td></tr> <tr><td>○</td><td>ビジカバー(ビボット型)</td><td>ビボット:ガラス、(本体は銅)</td></tr> <tr><td>○</td><td>ドアクローザー</td><td>本体:アルミニウム合金</td></tr> <tr><td>○</td><td>閉鎖順位調整器</td><td>7-部:銅(吹付け塗装)</td></tr> <tr><td>○</td><td>押棒・押板</td><td>スチール、(○黄銅)</td></tr> <tr><td>○</td><td>上げ落し</td><td>○取付位置 ()</td></tr> <tr><td>○</td><td>戸扱</td><td>垂船合金程度、(○ステンレス)</td></tr> <tr><td>○</td><td>引戸</td><td>○取付位置 ()</td></tr> </table> <p>14 自動ドア (5.8.2) ~ (5.8.3)</p> <p>自動ドアの開閉装置</p> <p>○引き戸用駆動装置性能値</p> <p>※改修標仕表5.8.1による (○SSLD-1 ○SSLD-2 ○DSLD-1 ○DSLD-2)</p> <table border="1"> <tr><th>種類・開閉方式</th><th>耐電圧</th><th>温度上昇</th><th>耐久性(サイクル)</th><th>防錆</th><th>電源</th></tr> </table> <p>○多機能トイレ出入口引戸用駆動装置性能値</p> <p>※改修標仕表5.8.2による</p> <table border="1"> <tr><th>耐電圧</th><th>温度上昇</th><th>耐久性(サイクル)</th><th>防錆</th><th>電源</th></tr> </table> <p>○引き戸用検出装置性能値</p> <p>※改修標仕表5.8.3による</p> <table border="1"> <tr><th>放射無線周波数</th><th>耐電圧</th><th>防錆</th><th>防滴</th><th>電源</th></tr> </table> <p>戸の開閉方式 ※建具表による ○</p> <p>引き戸検出装置の種類 ○表5.8.4 () による ※建具表による</p> <p>凍結防止措置 ○行う</p>	金物の種類	見え掛り部の材質	その他	○シリンドラ箱錠	○挽り玉:ステンレス ○レバーハンドル:アルミニウム合金、(○ステンレス、○黄銅)	○取付位置 ()	○	シリンドラーカラー:ステンレス	実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、銅製軽量建具、ガラス建具)	○本締り錠	シリンドラーカラー:ステンレス	○耐じん性能のグレード ○	○空錠	○挽り玉:ステンレス ○レバーハンドル:アルミニウム合金、(○ステンレス、○黄銅)	○取付位置 ()	○グレモン錠	レバーハンドル:亜鉛合金、(○ステンレス)	○取付位置 ()	○	ケースハンドル錠	実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、銅製軽量建具、ガラス建具)	○	点検口錠	○取付位置 ()	○	丁番	○耐じん性能のグレード ○	○	ビボットヒンジ	ビボットヒンジは木製建具用のみ	○	点検口輪吊リヒンジ	建具製作所の仕様による ○自閉装置付き	○	フロアヒンジ	ドアクローザー	○	ビジカバー(丁番型)	○延長閉り機能付き	○	ビジカバー(ビボット型)	ビボット:ガラス、(本体は銅)	○	ドアクローザー	本体:アルミニウム合金	○	閉鎖順位調整器	7-部:銅(吹付け塗装)	○	押棒・押板	スチール、(○黄銅)	○	上げ落し	○取付位置 ()	○	戸扱	垂船合金程度、(○ステンレス)	○	引戸	○取付位置 ()	種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源	放射無線周波数	耐電圧	防錆	防滴	電源	<p>15 自閉式上吊り引戸装置 (5.9.3)</p> <p>性能値等の区分</p> <table border="1"> <tr><th>適用戸の総質量(kg)</th><th>○40以下</th><th>○40を越えるもの</th></tr> <tr><td>手動開き力(N)</td><td>※15以下 ○</td><td>※20以下 ○</td></tr> <tr><td>手動閉じき力(N)</td><td>※15以下 ○</td><td>※20以下 ○</td></tr> </table> <p>性能等</p> <p>品質・規格</p> <p>16 重量シャッター (5.10.2) ~ (5.10.4)</p> <p>種類 ○管理用シャッター (シャッターケース設ける) 耐風圧強度 ()</p> <p>○外壁用防火シャッター (シャッターケース設ける) 耐風圧強度 ()</p> <p>○屋内用防火シャッター (シャッターケース設ける) 耐風圧強度 ()</p> <p>開閉方式 ※上部電動式(手動併用) ○上部手動式</p> <p>電動式シャッターには保護装置を設ける</p> <p>設置箇所 ※図示による ○</p> <p>スラット及びシャッターケース用鋼板</p> <table border="1"> <tr><th>材質</th><th>めっきの付着量</th></tr> <tr><td>○JIS G 3302</td><td>○Z12又はF12を満足するもの ○</td></tr> <tr><td>○JIS G 3312</td><td>○Z12又はF12を満足するもの ○</td></tr> </table> <p>17 軽量シャッター (5.11.2) ~ (5.11.4)</p> <p>開閉方式 ○上部電動式(手動併用) ※手動式</p> <p>電動式シャッターには保護装置を設ける</p> <p>設置箇所 ※図示による ○</p> <p>耐風圧強度</p> <p>スラット</p> <table border="1"> <tr><th>材質</th><th>めっきの付着量</th><th>形状</th></tr> <tr><td>○JIS G 3312</td><td>○Z06又はF06を満足するもの ○</td><td>○インテロッキング形</td></tr> <tr><td>○JIS G 3322</td><td>○AZ90を満足するもの ○</td><td>○オーバーラッピング形</td></tr> </table> <p>18 オーバーヘッドドア (5.12.2) ~ (5.12.4)</p> <p>セクション材 ※スチールタイプ ○アルミニウムタイプ ○ファイバーグラフト</p> <p>耐風圧性能</p> <p>開閉方式 ※パラソル式 ○チェーン式 ○電動式</p> <p>電動式シャッターには保護装置を設ける</p> <p>設置箇所 ※図示による ○</p> <p>収納形式 ○スタンダード形 ○ローヘッド形</p> <p>○ハイリフト形 ○バーチカル形</p> <p>ガイドレール等 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ○ステンレス鋼板</p> <p>19 ガラス (5.13.2) ~ (5.13.4)</p> <p>ガラスの大きさ</p> <table border="1"> <tr><th>種別</th><th>種類等</th><th>種別</th><th>種類等</th></tr> <tr><td>○ガート板ガラス</td><td>○強化ガラス</td><td>○型板ガラス</td><td>○熱線吸収ガラス</td></tr> <tr><td>○網入板ガラス</td><td>○複層ガラス</td><td>○線入板ガラス</td><td>○熱線反射ガラス</td></tr> <tr><td>○</td><td>○倍強度ガラス</td><td>○</td><td>○</td></tr> </table> <p>ガラスの大きさ (図5.13.1)</p> <table border="1"> <tr><th>種別</th><th>面クリアランス</th><th>エッジクリアランス</th><th>掛け代</th></tr> <tr><td>○アルミニウム建具</td><td>※建具製造所の仕様による</td><td>※建具製造所の仕様による</td><td>※建具製造所の仕様による</td></tr> <tr><td>○鋼製建具</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>○ステンレス建具</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </table> <p>熱線反射ガラスの映像調整 ○行わない ○行う ()</p>	適用戸の総質量(kg)	○40以下	○40を越えるもの	手動開き力(N)	※15以下 ○	※20以下 ○	手動閉じき力(N)	※15以下 ○	※20以下 ○	材質	めっきの付着量	○JIS G 3302	○Z12又はF12を満足するもの ○	○JIS G 3312	○Z12又はF12を満足するもの ○	材質	めっきの付着量	形状	○JIS G 3312	○Z06又はF06を満足するもの ○	○インテロッキング形	○JIS G 3322	○AZ90を満足するもの ○	○オーバーラッピング形	種別	種類等	種別	種類等	○ガート板ガラス	○強化ガラス	○型板ガラス	○熱線吸収ガラス	○網入板ガラス	○複層ガラス	○線入板ガラス	○熱線反射ガラス	○	○倍強度ガラス	○	○	種別	面クリアランス	エッジクリアランス	掛け代	○アルミニウム建具	※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による	○鋼製建具	○	○	○	○ステンレス建具	○	○	○
種類(呼び名)	仕上げ	工法	備考																																																																																																																																																																																																																															
○複層塗材C E	○凸部処理	吹付け																																																																																																																																																																																																																																
○複層塗材S I	○凹凸状																																																																																																																																																																																																																																	
○複層塗材E																																																																																																																																																																																																																																		
○複層塗材R E	○ゆず肌状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																
○可とう形複層塗材C E	○凸部処理	○凹凸状	吹付け																																																																																																																																																																																																																															
○防水形複層塗材C E	○凸部処理	吹付け																																																																																																																																																																																																																																
○防水形複層塗材E	○凹凸状	(○増塗材)																																																																																																																																																																																																																																
○防水形複層塗材R E	○ゆず肌状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																
種類(呼び名)	仕上げ	工法	備考																																																																																																																																																																																																																															
○可とう形改修塗材E	○平たい状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																
○可とう形改修塗材R E	○さざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																
○可とう形改修塗材C E	○ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																
性能等級	○A種	○B種	○C種																																																																																																																																																																																																																															
耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○																																																																																																																																																																																																																															
気密性	※ A-3 ○		※ A-4 ○																																																																																																																																																																																																																															
水密性	※ W-4 ○		※ W-5 ○																																																																																																																																																																																																																															
枠見込み(mm)	※ 図示 ○	70 ○	100 ○																																																																																																																																																																																																																															
種別	色	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																
○BB-1種	○標準 ○特注	※ 図示による ○																																																																																																																																																																																																																																
○BB-2種	○標準 ○特注	※ 図示による ○																																																																																																																																																																																																																																
○	○標準 ○特注																																																																																																																																																																																																																																	
○	○標準 ○特注																																																																																																																																																																																																																																	
○	○標準 ○特注																																																																																																																																																																																																																																	
金物の種類	見え掛り部の材質	その他																																																																																																																																																																																																																																
○シリンドラ箱錠	○挽り玉:ステンレス ○レバーハンドル:アルミニウム合金、(○ステンレス、○黄銅)	○取付位置 ()																																																																																																																																																																																																																																
○	シリンドラーカラー:ステンレス	実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、銅製軽量建具、ガラス建具)																																																																																																																																																																																																																																
○本締り錠	シリンドラーカラー:ステンレス	○耐じん性能のグレード ○																																																																																																																																																																																																																																
○空錠	○挽り玉:ステンレス ○レバーハンドル:アルミニウム合金、(○ステンレス、○黄銅)	○取付位置 ()																																																																																																																																																																																																																																
○グレモン錠	レバーハンドル:亜鉛合金、(○ステンレス)	○取付位置 ()																																																																																																																																																																																																																																
○	ケースハンドル錠	実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、銅製軽量建具、ガラス建具)																																																																																																																																																																																																																																
○	点検口錠	○取付位置 ()																																																																																																																																																																																																																																
○	丁番	○耐じん性能のグレード ○																																																																																																																																																																																																																																
○	ビボットヒンジ	ビボットヒンジは木製建具用のみ																																																																																																																																																																																																																																
○	点検口輪吊リヒンジ	建具製作所の仕様による ○自閉装置付き																																																																																																																																																																																																																																
○	フロアヒンジ	ドアクローザー																																																																																																																																																																																																																																
○	ビジカバー(丁番型)	○延長閉り機能付き																																																																																																																																																																																																																																
○	ビジカバー(ビボット型)	ビボット:ガラス、(本体は銅)																																																																																																																																																																																																																																
○	ドアクローザー	本体:アルミニウム合金																																																																																																																																																																																																																																
○	閉鎖順位調整器	7-部:銅(吹付け塗装)																																																																																																																																																																																																																																
○	押棒・押板	スチール、(○黄銅)																																																																																																																																																																																																																																
○	上げ落し	○取付位置 ()																																																																																																																																																																																																																																
○	戸扱	垂船合金程度、(○ステンレス)																																																																																																																																																																																																																																
○	引戸	○取付位置 ()																																																																																																																																																																																																																																
種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源																																																																																																																																																																																																																													
耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源																																																																																																																																																																																																																														
放射無線周波数	耐電圧	防錆	防滴	電源																																																																																																																																																																																																																														
適用戸の総質量(kg)	○40以下	○40を越えるもの																																																																																																																																																																																																																																
手動開き力(N)	※15以下 ○	※20以下 ○																																																																																																																																																																																																																																
手動閉じき力(N)	※15以下 ○	※20以下 ○																																																																																																																																																																																																																																
材質	めっきの付着量																																																																																																																																																																																																																																	
○JIS G 3302	○Z12又はF12を満足するもの ○																																																																																																																																																																																																																																	
○JIS G 3312	○Z12又はF12を満足するもの ○																																																																																																																																																																																																																																	
材質	めっきの付着量	形状																																																																																																																																																																																																																																
○JIS G 3312	○Z06又はF06を満足するもの ○	○インテロッキング形																																																																																																																																																																																																																																
○JIS G 3322	○AZ90を満足するもの ○	○オーバーラッピング形																																																																																																																																																																																																																																
種別	種類等	種別	種類等																																																																																																																																																																																																																															
○ガート板ガラス	○強化ガラス	○型板ガラス	○熱線吸収ガラス																																																																																																																																																																																																																															
○網入板ガラス	○複層ガラス	○線入板ガラス	○熱線反射ガラス																																																																																																																																																																																																																															
○	○倍強度ガラス	○	○																																																																																																																																																																																																																															
種別	面クリアランス	エッジクリアランス	掛け代																																																																																																																																																																																																																															
○アルミニウム建具	※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																															
○鋼製建具	○	○	○																																																																																																																																																																																																																															
○ステンレス建具	○	○	○																																																																																																																																																																																																																															
5 性能	※「第1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。																																																																																																																																																																																																																																	
5 施工数量調査 (1.5.2)	※行う (○建具金物 ○ガラス ○ガラス止め材 ○)																																																																																																																																																																																																																																	
	※施工に先立ち、施工数量調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。																																																																																																																																																																																																																																	
	○行わない																																																																																																																																																																																																																																	
建 具 改 修 工 事	既存建具を新規建具に改修する場合																																																																																																																																																																																																																																	
(5.1.3)	※かぶせ工法 (○カバー工法 ○持出し工法 ○ノンシール工法)																																																																																																																																																																																																																																	
	○撤去工法 (○つり工法 ○引き抜き工法)																																																																																																																																																																																																																																	
	新規に建具を設置する場合																																																																																																																																																																																																																																	
	新規建具を設ける壁の開口方法 ※図示による ○																																																																																																																																																																																																																																	
	新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※図示による ○																																																																																																																																																																																																																																	
4 防火戸 (5.1.4)	※図示による ○																																																																																																																																																																																																																																	
	ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動																																																																																																																																																																																																																																	
	○連動させる (※建具表による ○)																																																																																																																																																																																																																																	
	○連動させない																																																																																																																																																																																																																																	
5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6)	建具見本の製作 ○行う (建具番号)																																																																																																																																																																																																																																	
	特殊な建具の仮組 ○行う (建具番号)																																																																																																																																																																																																																																	
	○ブラインドボックス等の再使用 ()																																																																																																																																																																																																																																	
6 防犯建物部品 (5.1.7)	開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所																																																																																																																																																																																																																																	
	・ドア 適用箇所 ()																																																																																																																																																																																																																																	
	・サッシ 適用箇所 ()																																																																																																																																																																																																																																	
	・シャッター 適用箇所 ()																																																																																																																																																																																																																																	
	特記事項																																																																																																																																																																																																																																	
	令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図																																																																																																																																																																																																																																	
	SCALE	SCALE	SCALE																																																																																																																																																																																																																															
	改修工事特記仕様書4																																																																																																																																																																																																																																	
	DW.	CK.	NO.	A-04	DATE	03-09																																																																																																																																																																																																																												
	設計・監理	-級建築士事務所																																																																																																																																																																																																																																
	野中建築設計事務所	1級建築士第147931号 野中健一																																																																																																																																																																																																																																
	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20	TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408																																																																																																																																																																																																																																

章	項	目	特記事項	章	項	目	特記事項	章	項	目	特記事項	章	項	目	特記事項
建 具 改 修 工 事	20 ガラス留め材 (5.13.2)	建具の種類	材質	3 既存床の撤去等 (6.2.2)	種別	工法	施工箇所	内装改修工事							
		アルミニウム製	※ シーリング材(SR-1) ○ ガスケット ○ グレイジングチャンネル		○ ビニル床シート等	○ 下地モールの除去	※ 図示による ○ _____								
		鋼製・軽量鋼製・ステンレス製	※ シーリング材(SR-1) ○ バテ(木製) ※ 1種 ○ 2種		○ 合成樹脂塗床材	○ 機械的除去工法 ○ 目荒し工法	※ 図示による ○ _____								
		木製	※ バテ(木製)		○ フローリング張り床材										
		※ 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。			○ 床タイル										
	21 ガラスブロック (5.13.5)	寸法(mm)	厚さ(mm)	色調	パターン	防火認定									
		○	○	クリア ○ かべ()		※ なし									
		x	○	乳白 ○ 熱線反射		○ あり									
		※ 品質規格はJIS A5212による													
		※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。													
22 木製工具 (16.7.2)	※公共建築工事標準仕様書(H31版)による。	○ 壁用金属枠及び補強材						内装改修工事							
		○ 力骨材質	※ SUS304 ○												
		寸法・形状	※ 径5.5mmのはしご形状複筋及び単筋	○											
		○ シーリング	※ 表3.7.1による ○												
		○ 化粧目地モルタルの色													
		○ 金属化粧カバー	材質	○ SUS304 ○											
		寸法・形状	※ 図示による ○												
		○ 目地幅の寸法													
		○ 平積みの場合	※ 8mm以上、15mm以下 ○												
		○ 曲面積みの場合	※ 外側15mm以下、内側6mm以上 (曲率半径はがくら)の幅寸法の10倍以上)	○											
23 ポリカーボネイト 樹脂板	※公共建築工事標準仕様書(H31版)による。	○ 伸縮調整目地の位置	※ 6m以下ごとに幅10~25mmの伸縮調整目地を設ける。					内装改修工事							
		建具材の含水率の種別	○ A種 ○ B種 ○ C種												
		代用樹種の適用	※ 可 ○ 不可												
		フランシュ戸													
		表面材の合板の種類の適用及び品質等	○ メラミン化合板t=30												
		表面板の厚さ	※ 図示による ○												
		かまち戸													
		かまち及び鏡板の樹種	※ 図示による ○												
		見込み寸法	※ 36mm ○												
		ふすま													
内装改修工事	① 撥発性有機化合物 対策 (6.5.2) ~ (6.5.4) (6.8.2) (6.9.2) (6.10.2) (6.11.2) (6.11.4) (6.11.5) (6.13.2) (6.14.2) (6.16.4) (9.5.3) (9.5.4)	材料の種別	○ I型 ○ II型					内装改修工事							
		上張りの種類	※ 図示による ○												
		見込み寸法	※ 19.5mm ○												
		戸ふすま													
		上張りの種類	※ 図示による ○												
		見込み寸法	※ 30mm ○												
		紙張り障子													
		見込み寸法	※ 30mm ○												
		接着剤のホルムアルデヒド放散量	※ F☆☆☆☆ ○												
		種類													
24 ポリカーボネイト 樹脂板	※公共建築工事標準仕様書(H31版)による。	厚さ mm						内装改修工事							
		木材のうち杉、ひのきについては京都府内産木材とする。													
		接着剤のホルムアルデヒド放散量	※ F☆☆☆☆												
		○ 工事完成までに、京都府内産木材証明書及び「ドライ」CO2計算書を提出すること。													
		一般財団法人京都府木材組合連合会													
		TEL : 075-802-2991													
		注) 証明書は製材所、流通業者の全てが取扱い事業体でなければ発行されない。 詳細は上記法人のホームページを参照すること。													
		○ 工事完成までに、京都府内産木材の産地証明書を提出すること。													
		※ 京都府木材規格(KTS)材を使用する場合は、京都府木材規格(KTS)材証明書 (発行機関: (一社)京都府木材組合連合会)を提出すること。													
		「集成材の日本農林規格」による造作用集成材													

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項		
8.1 耐震補強工事(鉄筋工事)	<p>4 鉄筋のかぶり厚さ 及び間隔 (8.3.5) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ※構造図による ○ 表8.3.6による (次の2項目のかぶり厚さを除く。) ○ 軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。 ○ 塗装の受けおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。</p> <table border="1"> <tr> <td>施工箇所等</td><td>最小かぶり厚さ (mm)</td></tr> <tr> <td>機械式締手及び溶接締手のあき</td><td>○</td></tr> </table> <p>5 圧接完了後の試験 (8.3.8) 試験方法 ○ 超音波探傷試験を全圧接部で行う。</p>	施工箇所等	最小かぶり厚さ (mm)	機械式締手及び溶接締手のあき	○	8.1 耐震補強工事(コンクリート工事) <p>5 型枠(せき板) (8.1.4) (8.2.7) (8.7.8) 合板の規格 ※「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」による合板 ○ 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 ○ 厚さ (mm) ※ 12 ○</p> <p>打放し仕上げのせき板 ※ 合板せき板を用いる場合 (表8.1.4) 種別 板面の品質 施工箇所 ○ A種 ※ 8.2.7(2)(7) ○ ○ B種 ※ 8.2.7(2)(4) ○ ○ C種 ※ 8.2.7(2)(4) ○</p> <p>○ 合板せき板を用いない場合 せき板の材料 コンクリートの仕上がりの平たんさ 種別 適用箇所 ○ a種 ○ b種 ○ c種</p>	8.1 耐震補強工事(あと施工アンカーアンカート工事) <p>1 あと施工アンカー (8.2.4) (8.12.4) ○ 金属系アンカー 引張耐力 径 埋込み長さ ○ ○ 合板の材種 合板の規格 ※「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」による合板 ○ 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 ○ 厚さ (mm) ※ 12 ○</p> <p>打放し仕上げのせき板 ※ 合板せき板を用いる場合 (表8.1.4) 種別 板面の品質 施工箇所 ○ A種 ※ 8.2.7(2)(7) ○ ○ B種 ※ 8.2.7(2)(4) ○ ○ C種 ※ 8.2.7(2)(4) ○</p> <p>○ 合板せき板を用いない場合 せき板の材料 コンクリートの仕上がりの平たんさ 種別 適用箇所 ○ a種 ○ b種 ○ c種</p>	8.1 耐震補強工事(鉄骨工事) <p>11 溶接作業者における技能資格者 (8.15.3) ○ 行わない ○ 行う 試験の要領 ○ 図示による ○</p> <p>12 密接接合 (8.15.4) (8.15.7) 開先の形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ エンタブの切断 ○ 有 ○ 無 切断する箇所及び切断範囲 ○ 図示による ○ ※ グラインダーにより、粗さ 100μm Rz 程度以下 及びノッチ深さ 1mm 程度以下に仕上げる スカラップの形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ 改良型スカラップ</p>	8.1 耐震補強工事(鉄骨工事) <p>H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験方法等 ○ 突合せ締手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル(独立行政法人建築研究所)3.5.2による受入検査 ○ 抜き取り検査① ○ 抜き取り検査② JASS 6 付則6 [鉄骨精度検査基準]の付則3「溶接」に関する試験方法等 ○ JASS 10.4 「受入検査」e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。 外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による修補を行い、再試験する。</p>
施工箇所等	最小かぶり厚さ (mm)								
機械式締手及び溶接締手のあき	○								
8.2 耐震補強工事(コンクリート工事) <p>1 コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.1) (8.9.2) ○ 普通コンクリート 打設部位 Fc (N/mm²) スランプ (cm) 備考 構造体 基礎 ○ 24 ○ ○ 18 ○ 上部 ○ 24 ○ ○ 18 ○</p> <p>○ 軽量コンクリート 打設部位 (適用箇所) Fc (N/mm²) スランプ (cm) 備考 ○ ○ 21 ○ ○ 21 ○</p>	8.2 耐震補強工事(コンクリートの材質) <p>2 リーブの材種 適用箇所 材種 (規格その他) 以上 水密を要する地中部分等 ※ つば付き鋼管 (JIS G3452 の黒管) に厚さ 6 mm つば幅 50 mm 以上の鋼管を接合したもの 水密を要しない地中部分等 ※ 硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741 の VU)</p> <p>上記以外の円形リーブ ※ 溶融亜鉛めっき鋼管 (径 200 mm 以下は厚さ 0.4 mm 以上、径 200 mm を超え 350 mm 以下は厚さ 0.6 mm 以上) ○</p>	8.2 耐震補強工事(鉄骨工事) <p>2 あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.12.7) 性能確認試験 ○ 行わない ○ 行う 施工確認試験 ○ 行う (引張試験機による引張試験 確認強度) ○ 行わない 1ロット 試験の箇所数 ○ 1ロットに対し 3 本、無作為に抜き取る ○</p>	8.2 耐震補強工事(鉄骨工事) <p>1 鉄骨の製作工場 (8.1.5) ○ 監督職員の承諾する工場 ※ 建築基準法第7章の5.6第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構 (旧社)全国構造工業会議の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(OS OH OM OR OJ)グレード」として、国土交通大臣から認定を受けた工場もしくは同等以上の能力のある工場</p> <p>2 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (8.1.5) ○ 適用する ○ 適用しない</p>	8.2 耐震補強工事(鉄骨工事) <p>3 鋼材の種別 (8.2.8) 種類の記号 使用箇所 規格等 SS400 JIS G 3101 SM400A JIS G 3106 SN400A JIS G 3136</p> <p>※ 図示による</p>	8.2 耐震補強工事(鉄骨工事) <p>4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7) ボルトの種別 ○ トルシア形高力ボルト (建築基準法の認定品) ○ JIS 形高力ボルト (JIS B 1186) 2 種 (F10T) ○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (建築基準法の認定品、1 種 (F8T))</p> <p>ねじの呼び すべり係数試験 ○ 行わない ○ 行う 試験方法等 ○ 図示による ○</p> <p>JIS 形高力ボルトの本締めで、ボルトの長さがねじの呼びの 5 倍を超える場合の回転量</p> <p>5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合 (8.20.5) 摩擦面の処理 ○ プラスト処理 (表面粗度 50 μm Rz 以上) ○ りん酸塩処理 ○ 図示による () すべり耐力等の確認方法 ○ 試験方法等 ○ 図示による ○</p> <p>6 溶接材料 (8.2.10) 溶接材料 ○ 改修標準仕様書8.2.10(1)(2)による ○ 図示による ○</p> <p>7 スタッド (8.2.11) 種類等 呼び名 呼び長さ (mm) 適用箇所 - 16 - 19 - 22</p> <p>8 工作図 (8.13.2) 高力ボルト、普通ボルト及びアカボルトの緑端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※ 図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)</p> <p>9 ホルト孔 (8.13.8) 母屋又は脚線の取付けに使用する普通ボルトの孔型 ※ ねじの呼び径 +1.0 mm ○</p> <p>10 仮組 (8.13.10) ○ 実施する 部位 () ○ 実施しない</p>	8.2 耐震補強工事(鉄骨工事) <p>13 溶接部の試験 (8.15.12) ○ 透視探傷試験 (JIS Z 2343-1) ○ 磁粉探傷試験 (JIS Z 2320-1) ※ 超音波探傷試験 工場溶接 平均出検品質限界 (AOQL) ※ 全数 ○ 検査水準 ※ 第6水準 ○ 第水準 現場溶接 平均出検品質限界 (AOQL) ※ 全数 ○</p> <p>14 鋼止め塗料 (7.3.2) (8.17.2) (8.17.4) 塗料の種別 ○ 鉄鋼面の錆止め塗料 ○ 表7.3.1による ○ A種 ○ B種 ○ 垂鉛めっき鋼面の錆止め塗料 ○ 表7.3.2による ○ A種 ○ B種 ○ C種</p> <p>○ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) ○ 表7.3.1による ○ A種 ○ B種</p> <p>耐火被覆材の接着する面への塗装 ○ 行わない ○ 行う 耐火被覆材の接着する面以外への塗装 ○ 行わない ○ 行う (塗装範囲 ○ 図示による ○)</p> <p>15 耐火被覆 (8.18.2) ~ (8.18.9) 種別 種類 材料・工法 適用箇所 (部位・部分) ○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○ 耐火板張り ○ 織維混入ケイ酸カルシウム板 ○ 耐火材巻付け ○ 高断熱ロックウール ○ 強張りモルタル ○ 耐火塗料</p> <p>材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする 性能 性能 適用箇所 (部位・部分) ○ 30 分耐火 ○ 1 時間耐火 ○ 2 時間耐火 ○ 3 時間耐火</p>			
8.2.5 構造体強度補正値 (8.2.5) ※ 気温による構造体強度補正値 (S) (表8.2.4) 予想平均気温 (°C) 補正値 (S) 期間 (打設日) 普通 早強 (S) 南部地域 中部地域 北部地域 8以上 5以上 3 3/6 ~ 6/31 3/11 ~ 7/20 3/11 ~ 7/10 N/mm² 9/11 ~ 1/15 9/1 ~ 11/5 9/1 ~ 10/31 0以上 0以上 6 11/16 ~ 3/5 11/6 ~ 3/10 11/1 ~ 3/10 8未満 5未満 N/mm²	8.2.6 構造体用モルタル (8.2.6) モルタル圧縮強度 フロー値	8.2.9 構造体の過積載防止対策等 受注者は、荷役伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。	8.2.10 アンカーボルト ※ 公共建築工事標準仕様書(H31版) (7.2.4) (7.10.3) による。 ○ 構造用アンカーボルト 材質 ○ SNR400B アンカーフレームの形状及び寸法 ○ 図示による ○ ○ 建方用アンカーボルト 材質 ○ SS400 アンカーボルトの保持及び埋め込み工法 種類 ○ A種 ○ B種 柱底均しモルタルの厚さ ○ 50 mm ○ 30 mm						

特記事項

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

改修工事特記仕様書7

設計・監理

一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

DATE 03-09

DW. CK. NO. A-07

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項
8 1 5 耐 震 補 強 工 事 (グ ラ ウ ト)	<p>1 グラウト材 (8. 2. 12) グラウト材 ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル <input type="checkbox"/></p> <p>無収縮モルタルの調合 ※ 製造所で調合されたプレミックスタイプ <input type="checkbox"/>現場調合形</p> <p>無収縮グラウト材の品質 圧縮強度 (N/mm²) ※ 30以上 ※ 一般部コアトと同等以上の強度(鉄筋コンクリート壁増設工事の壁頭部) コンシスティンシJ14D-ト値(秒) ※ 6~10 乾燥収縮 (10⁻⁴) ※ 0 <input type="checkbox"/></p> <p>※ グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 ※ 行う コンシスティンシ試験 ※ 行う ○ 行わない</p> <p>2 柱底等の均し モルタル(8. 2. 12) モルタルの種別 ※ 無収縮モルタル 材料の調合等 ※ 公共建築工事標準仕様書(7. 2. 9)(7. 10. 3)による。 厚さ ※ 図示による 工法 ※ A種 ○ B種</p>	<p>1 補強工法 ○ 内側補強工法 ○ 枠付き鉄骨K型フレース ○ 枠付き鉄骨類枠付フレース ○ 枠付き有開口鉄板パネル ○ 枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 ()</p> <p>2 既存部分の撤去 (8. 22. 2) 既存上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。</p> <p>3 既存部分の処理 (8. 22. 3) 目荒しの程度 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。</p> <p>4 既存構造との取扱い (8. 22. 7) 割裂補強筋 ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨フレース設置後、アンカーリングとスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ビッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ビッチの1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による</p> <p>5 仕上げ (8. 22. 9) ※ 図示による <input type="checkbox"/></p>	<p>6 連続繊維補強工法 (8. 2. 13) (8. 24. 6) 工法 ○ (-財)日本建築防災協会の評価を受けた工法 ○ <input type="checkbox"/> 材料 ○ 炭素繊維 性能 引張強度 N/mm² ヤング係数 N/mm²</p> <p>柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ 炭素繊維シート ※ 20mm以上 アラミド繊維シート ※ 10mm以上 仕上げモルタルの除去 ※ 構造躯体まで除去する ○ カット打放し仕上げ ○ 塗り仕上げ ※ 樹脂注入工法 ※ 樹脂注入工法</p> <p>炭素繊維の目付量 炭素繊維シートの巻数 引張強度試験 ※ 行う 試験数量 () ○ 行わない 付着強度試験 ※ 行う 試験数量 () ○ 行わない</p> <p>7 仕上げ (8. 23. 7) (8. 24. 7) ※ 図示による <input type="checkbox"/></p>	<p>4 仕上げ (8. 26. 13) ※ 図示による <input type="checkbox"/></p> <p>5 耐火被覆 (8. 26. 14) 仕様</p> <p>6 エキスパンションジョイント (8. 26. 15) 仕様 工法</p> <p>7 査定 (8. 26. 16) 項目 数量</p> <p>8 維持管理要領 (8. 26. 17) 維持管理要領に記載する項目 ※ 維持管理の目的 ※ 点検種別(○ 定期点検 ○ 応急点検 ○ 詳細点検) ※ 点検の実施時期 ※ 点検項目 ※ 総括管理体制</p> <p>維持管理に必要な計測機器の設置 ○ 地震計 (仕様) ○ 下げ振り (仕様) ○ けがき板 (仕様) ○ 別置き試験体 (仕様) ○ (仕様)</p>			
8 1 6 耐 震 補 強 工 事 (現 場 打 ち R C 壁 の 増 設 工 事)	<p>1 補強工法 ○ 新設耐震壁 ○ 増打ち耐震壁 ○ 開口部閉鎖壁 ○ 新設袖壁 製造所及び専門業者 ()</p> <p>2 既存部分の撤去 (8. 21. 2) 既存上げの撤去範囲 ※ 図示による ○ 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。</p> <p>設備機器・配管等の撤去及び移設 ※ 図示による <input type="checkbox"/></p> <p>既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による <input type="checkbox"/></p> <p>はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡ステロール等で養生する。 ○ 図示による</p> <p>3 既存部分の処理 (8. 21. 3) 目荒しの程度 既存柱・梁 ※ 平均深さ2~5mm(max: 5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による</p> <p>壁(増打ち壁増設の場合) ※ 平均深さ2~5mm(max: 5mm)程度の凹面を全体の10~15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による</p> <p>4 鉄筋の加工及び組立て (8. 21. 6) 割裂補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 スパイラル筋は直径6mm以上とし、ビッチは40~60mmとする。 ○ 図示による</p> <p>開口付増設壁の開口端部鉄筋及び増設そで壁の端部横筋 ※ ダブル配筋=閉鎖型配筋、シングル配筋=フック(3d)付き ○ 図示による</p> <p>5 コンクリートの打込み工法(8. 21. 8) ○ 流込み工法 ○ 压入工法</p> <p>6 既存構造体との取扱い (8. 21. 9) ※ 8. 19. 9の方法による他、以下に注意する ※ 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレア接続又は重ね継ぎ手により接続する。 ※ 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレア接続又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚くW配筋の場合) ※ 開口部打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) ○ 図示による</p> <p>7 仕上げ (8. 21. 10) ※ 図示による <input type="checkbox"/></p>	<p>1 補強工法 ○ 溶接金網巻き工法 ○ 鋼板巻き工法 ○ 連続繊維補強工法 既存上げの撤去範囲 ※ 本特記仕様書8-6-2による他、下記による。 垂れ壁・腰壁を撤去する場合には、風圧力等による安全性を確認の上、30mmのスリットを残して補強を行う。 ○ 図示による</p> <p>2 既存部分の撤去 (8. 23. 2) 既存上げの撤去範囲 ※ 本特記仕様書8-6-2による。</p> <p>3 既存部分の処理 (8. 23. 3) (8. 24. 3) 目荒しの程度 ※ 平均深さ2~5mm(max: 5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による</p> <p>柱及び梁の成型(連続繊維補強工法) ※ 支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面に成型する。(※ 30R ○) ○ 図示による</p> <p>4 溶接金網巻き工法 及び溶接閉鎖T-7巻き工法 (8. 23. 5)</p> <p>5 鋼板巻き工法及び 帯板巻き付け工法 (8. 23. 6)</p>	<p>1 耐震スリット新設工事 (8. 25. 2) 方 向 ○ 垂直方向 ○ 水平方向 タ イ プ ※ 完全(全貫通型)スリット ○ せん断型部分スリット 耐 性 能 ○ 耐火型 ○ 非耐火型 防 水 性 能 ○ 有り ○ 無し</p> <p>品質・規格</p> <p>既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄筋の処理 ○ はつり出し ○ 切断 ○ 存置(部分スリット) スリットの幅及び深さ ○ 図示による ○ 図示による 耐火材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による 遮音材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による 既存部分の撤去の補修 ※ 図示による <input type="checkbox"/></p>	<p>1 既存部分の撤去 (8. 26. 5) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨筋コンクリート造・既存杭の場合の仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。</p> <p>2 既存部分の処理 (8. 26. 6) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨筋コンクリート造・既存杭の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁(増打ち壁増設の場合) ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。</p> <p>3 支承材・減衰材 (8. 26. 7) (8. 26. 10) 支承材 ○ 円形 ○ 角形 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合のモルタル剥落防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様 ※ 本特記仕様書8-5-1による グラウト材の厚さ ○ 20mm mm</p>	<p>1 既存部分の撤去 (8. 26. 5) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨筋コンクリート造・既存杭の場合の仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。</p> <p>2 既存部分の処理 (8. 26. 6) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨筋コンクリート造・既存杭の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁(増打ち壁増設の場合) ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。</p> <p>3 支承材・減衰材 (8. 26. 7) (8. 26. 10) 支承材 ○ 円形 ○ 角形 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合のモルタル剥落防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様 ※ 本特記仕様書8-5-1による グラウト材の厚さ ○ 20mm mm</p>	<p>3 減衰材 (8. 27. 4) (8. 27. 6) 減衰材 材質 諸元</p> <p>性能確認試験 項目 製品検査 項目 判定基準 内容 検査頻度</p> <p>防錆処置 設置位置の寸法許容差 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨筋コンクリート造の場合 割裂補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 スパイラル筋は直径6mm以上とし、ビッチは40~60mmとする。 ○ 図示による 既存部分が鉄骨造の場合 割裂補強筋 ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨フレース設置後、アンカーリングとスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ビッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ビッチの1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による</p> <p>4 仕上げ (8. 27. 8) ※ 図示による <input type="checkbox"/></p> <p>5 査定 (8. 27. 9) 項目 数量</p>	

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

改修工事特記仕様書8

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-0

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

DW. CK. NO. DATE 03-09

章項目	特記事項	章項目	特記事項	章項目	特記事項	章項目	特記事項	
既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	パネル操作方法による種類 パネル表面材・仕上 パネル圧接装置の操作方法 遮音性能	14 カーテンレール (20.2.14)	材料 ※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押し出し成形材 ○ ステンレス ○ 片引き ○ 引分け (暗幕用は300mm以上の召合せの重ね掛けとする。) 形式 ○ C型 ○ D型 ※ 角型 形状 ○ C型 ○ D型 ※ 角型 強さによる区分 ※ 10-90 ○ 仕上げ ※ アルマイト ○ _____	3 緑石 (21.3.1)	歩車道境界ブロックのJISによる呼び名 ※ A ○ _____ 地先境界ブロックのJISによる呼び名 ○ A ○ C ○ _____ 砂利地盤の厚さ ※ 100mm ○ _____	
耐震補強工事 (基礎工事)	2 埋戻し及び盛土 (8.28.3)	埋戻し及び盛土の種別 OA種 適用箇所 () OB種 適用箇所 () OC種 適用箇所 () 土質 () 受渡場所 () OD種 (細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を5%未満とする) 適用箇所 () ○その他(材料 工法) 地盤の変形を防止する適切な措置を講ずるための鋼矢板等の抜き跡の処理 ○図示による ○ _____ 山留め壁等の位置箇所 ()	ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	あと施工アンカー 材質 _____ 寸法 _____ 引抜耐力試験 ※ 行う 表面材 ● メラミン樹脂化粧板 ○ ポリエチレン樹脂化粧板 脚部 ※ 幅木型 ○ 足金物型 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F☆☆☆☆ ドアエッジの材質 ※ トレイプレース製造所の仕様による ○ _____	9 ユニット及びその他の工事 6 階段滑り止め (20.2.6)	材種 ○ ステンレス製 (SUS304) 幅 ○ 約35mm ○ _____ 形状 ○ ビニルタイヤ入り両端フットドット ○ あり (○ ビニル ○ SUS304) 取付工法 ※ 着工法 ○ 埋込み工法 ○ ステンレス製 (SUS304 HL仕上) 径 mm (仕様は金属工事参照) ○ 集成材 径 mm ○ クリアラッカ仕上げ ○ ビニル製ハンドレール ※ 丸型 径 mm ○ 平型 幅 mm	10 排水工事 4 コンクリート側溝 (21.2.1) (21.3.1)	コンクリートL形のJISによる呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ _____ コンクリートL形のJISによる呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ _____ 鉄筋コンクリートU形のJISによる呼び名 ○ 240 ○ 300A ○ 360A ○ _____ 現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²) ※ 1.8 ○ _____ スランプ(cm) ○ 15 ○ 18 ○ _____ 現場打の鉄筋 種類の記号 ※ SD295A ○ _____
杭地業 (8.2.15) (8.28.4)	支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ ○図示による () ○ 杭の材料、工法、寸法、施工方法等 ○図示による () ○ ○試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 ○図示による () ○ ○杭の総手の箇所数、材料、工法等 ○図示による () ○ ○杭の溶接継手 技能資格者の技量 ○図示による () ○ 溶接部の確認 ○図示による () ○ ○杭頭の処理 ○処理する ○処理しない 処理方法(切断にともなう補強方法含む) ○図示による () ○ ○杭頭の中詰め材料 ○基礎のコンクリートと同調のもの ○ 杭の精度 水平方向の位置ずれ ○杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ○1/100以内 ○ 記録する施工状況等 ○図示による () ○	8 黒板及びホワイトボード (20.2.8)	9 鏡 (20.2.9)	10 表示・標識 (20.2.10) (20.2.11)	11 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)	12 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)	13 アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)	
4 砂利地業等 (8.2.15)	材料 ○ 再生クラッシャン ○ 切込砂利 ○ 切込碎石 砂利厚さ 60mm ○ 砂利地業 ○ 山砂 ○ 川砂 ○ 砂利 捨コンクリートの厚さ ※ 50mm ○	9 鏡 (20.2.9)	10 表示・標識 (20.2.10) (20.2.11)	11 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)	12 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)	13 アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)	本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(平成31年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。	
5 捨コンクリート地業 (8.28.4)	本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(平成31年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。	9 鏡 (20.2.9)	10 表示・標識 (20.2.10) (20.2.11)	11 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)	12 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)	13 アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)	路床の構成 ○凍土抑制層 厚さ ○ 図示による ○ ○透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 ○ 図示による ○ 150mm ○ 歩道部 ○ 図示による ○ 50mm ○ 盛土に用いる材料 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種 (表3.2.1) 路床安定処理 ○ 行う ○ 行わない 路床安定処理用材料 ※ 添加材料による安定処理 (表22.2.2) 種類 ○ 地盤改良材 () ○ 高炉セメントB種 ○ 普通ポルトランドセメント ○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号 ○ フライアッシュセメントB種 ○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号 添加量 kg/m³ 路床土の支持力比(CBR)試験 ○ 行う (※ 亂した土 ○ 亂さない土) 路床締固め度の試験 ※ 行う (埋戻し部、盛土部) ○ 行わない	
9 ユニット及びその他の工事 1 家具、ユニット等の揮発性有機化合物対策 (20.2.2)	本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(平成31年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。 収納家具その他ユニットに使用する材料で、合板、化粧合板、MDF等の ホルムアルデヒド等の放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____ 収納家具その他ユニットに使用する合板等の接着剤 ホルムアルデヒド等の放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____ 含まれる可塑剤 ※ クロム酸-グリセリン等を含有しない、難揮発性のもの ○ _____	11 ブラインド (20.2.12)	12 ロールスクリーン (20.2.13)	13 カーテン (20.2.14)	14 ブラインド (20.2.14)	15 ブラインド (20.2.14)	16 ブラインド (20.2.14)	
2 フリーアクセスマロア (20.2.2)	※建設技術評価制度「耐震型グリーケン式の開発」の技術評価を取得した製品とする。 施 工 管 所 寸 法 (mm) 高さ (mm) フロア 耐震性能 所定荷重 帯電防止性能 漏えい抵抗	11 ブラインド (20.2.12)	12 ロールスクリーン (20.2.13)	13 カーテン (20.2.14)	14 ブラインド (20.2.14)	15 ブラインド (20.2.14)	16 ブラインド (20.2.14)	
3 可動間仕切 (20.2.3)	スロープ及びボーダー ※ 製造所の標準仕様 ○ 図示による コンセント等の取付け ※ 製造所の標準仕様 (コンセント本体は別途設備工事) 配線用取出し用開口 ※ 対応品又は工場加工品 (施工箇所は図示) 空調用吹出しパネル ○ あり (※ 固定式 ○ 可変式 施工箇所は図示) ※ 表面仕上げ材の品質、規格等は、標仕19章内装工事による。 フリーアクセスマロアの試験方法 耐荷重性能 ○ _____ 耐衝撃性能 ○ _____ ローリンググロード性能 ○ _____ 耐燃焼性能 ○ _____	11 ブラインド (20.2.12)	12 ロールスクリーン (20.2.13)	13 カーテン (20.2.14)	14 ブラインド (20.2.14)	15 ブラインド (20.2.14)	16 ブラインド (20.2.14)	
4 砂利地業等 (8.2.15)	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	19 揭示板	
5 捨コンクリート地業 (8.28.4)	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	19 揭示板	
6 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
7 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
8 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
9 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
10 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
11 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
12 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
13 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
14 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
15 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
16 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
17 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
18 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
19 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
20 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
21 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	9 ユニット及びその他の工事 5 トレイプレース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり	17 鋼製書架及び棚	18 収納家具(木製)	
22 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○							

特記事項

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

- 5 -

計·監理 一級建築士事務所

中 建 梁 設 計 事 办

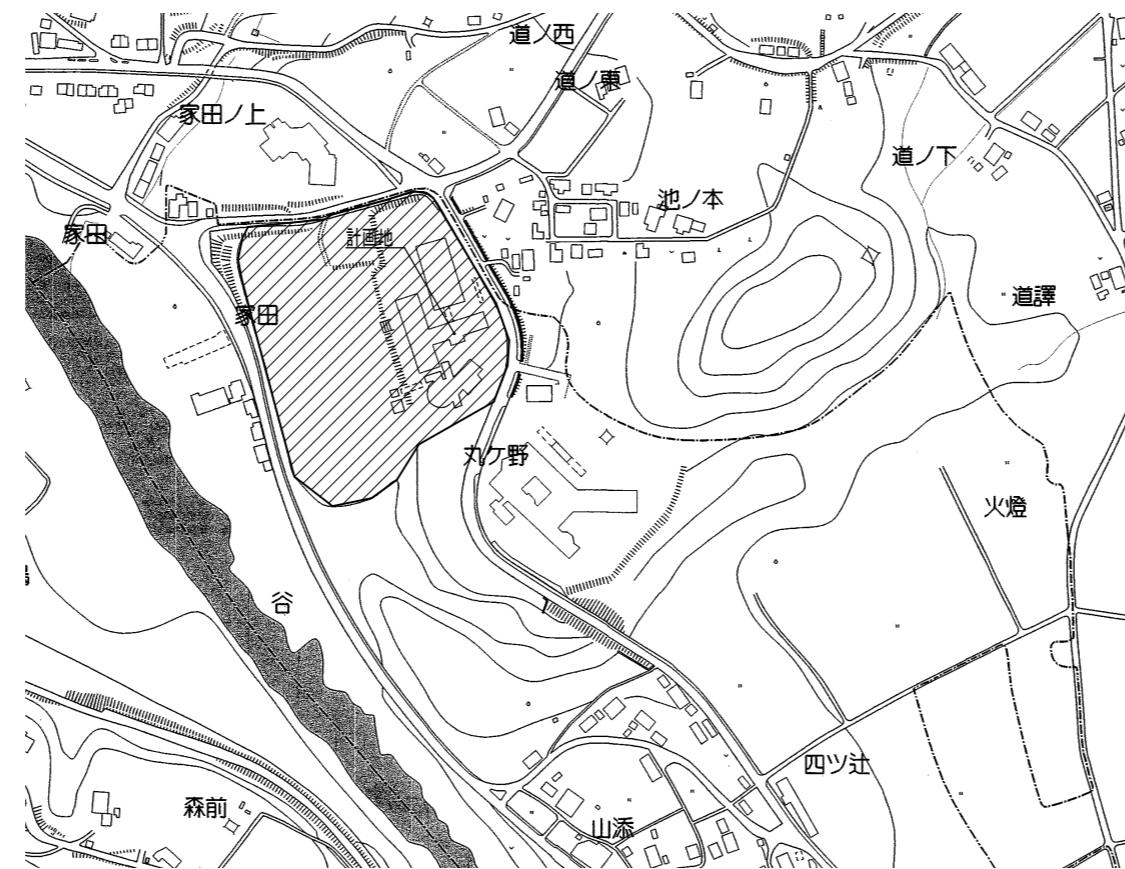
京都府立農業技術センター

0771-62-0300 FAX 0771-62-0400

工事名	材料名	商品名	会社名	備考	工事名	材料名	商品名	会社名	備考	工事名	材料名	商品名	会社名	備考	工事名	材料名	商品名	会社名	備考
屋根工事	金属屋根		元旦ビューティー工業		点検口		ナカ工業			内・外装工事		天竜木材		建工事	キッチン		サンウェーブ		
			淀川製鋼所				日本ピット					大建工業					クリナップ		
			三晃金属工業				マンテン										TOTO		
			セキノ興産																
			非金属屋根	タキロン		タイル	INAX										洗面台	TOTO	
			三菱樹脂		タイル工事		TOTO										INAX		
			ダイプラ				ダントー										クリナップ		
			アスファルト防水	ダイフレックス		石	関ヶ原石材										便器	TOTO	
			日新工業		石工事		安藤石材店										INAX		
			昭化工				矢橋大理石										KAKUDAN		
			塗	積水化学工業		アルミニウム製建具	三協立山アルミ										化粧鏡	TOTO	
			松下電工				トステム										INAX		
			東洋化学				YKK										アサヒ衛陶		
						木製建具	末永製作所			窓工事							タオル掛け・紙巻器	TOTO	
																	INAX		
																	アサヒ衛陶		
基礎工事					建真工事		大建工業	既製品の場合									ウォールキャビネット	TOTO	
						ガラス	旭ガラス										INAX		
							日本板ガラス										クリナップ		
							セントラルガラス										室内照明器具	松下電工	
金属工事	グレーティング	カネソウ				建具金物	ユニオン										東芝ライテック		
		ダイクレ					美和ロック										ヤマギワ		
		アトラス					ゴール										ユニットバス	TOTO	
																	INAX		
																	クリナップ		
																	トイレベース・簡仕切	小松ウォール	
																	文化シッター		
																	コマニー		
																	三和シッター		
																	ロールブラインド	立川ブラインド工業	
内装工事																	ニチベイ		
																	トーソー		
																	カーテン	サンゲツ	
																	住之江織物		
																	川島織物		
																	床暖房	松下電工	
																	大建工業		
																	三菱電機		
																	日本コスモテック		
								</											

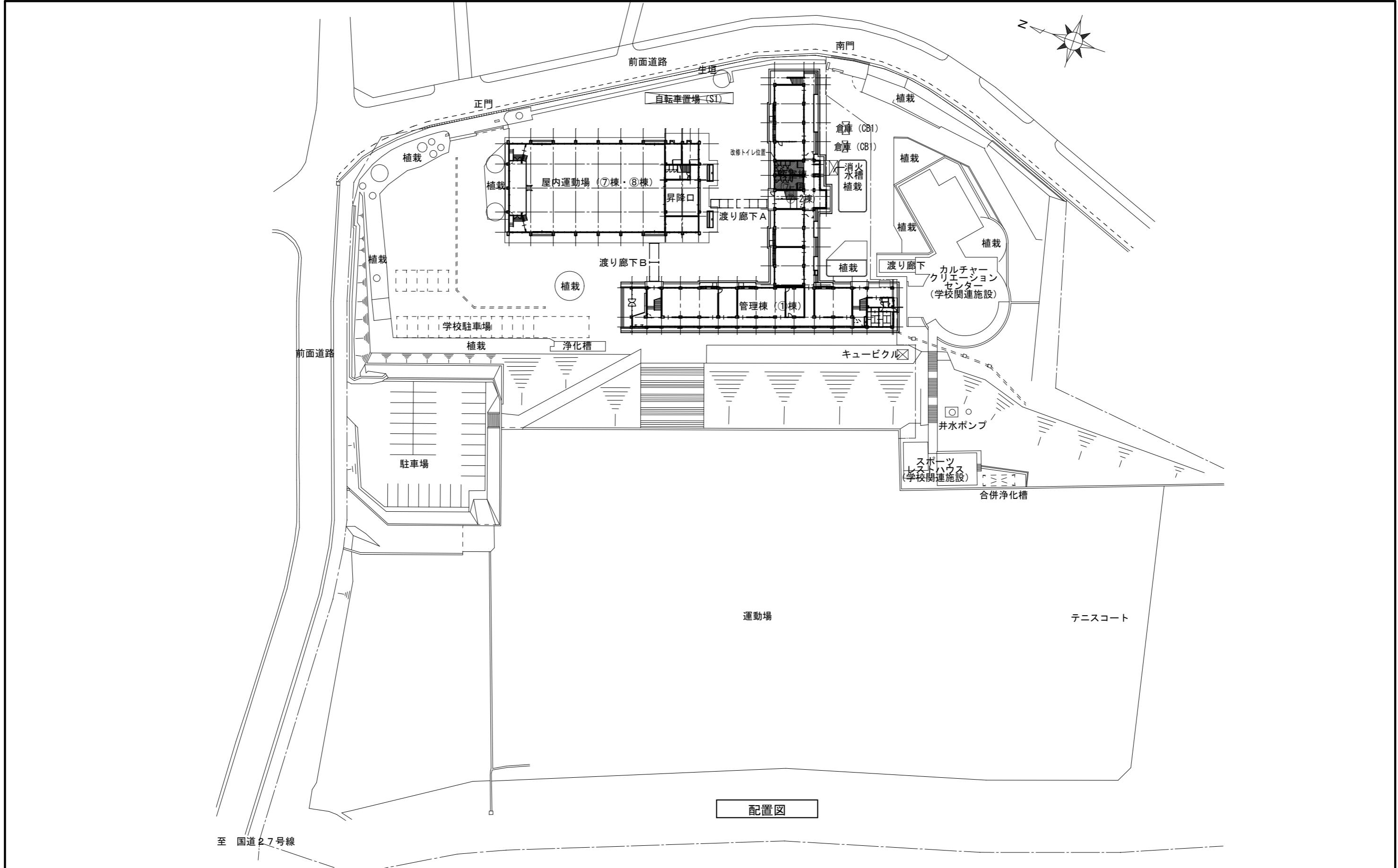
設計概要							外部仕上表										
工事名称	令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事			屋根							雨樋						
工事場所	京都府船井郡京丹波町市場丸ヶ野4番地			軒裏							ヒサシ						
主要用途	中学校			外壁	2F						犬走り						
用途地域	指定無し				1F						ポーチ						
工事期間	工事請負契約締結日~平成 年 月 日 (ただし、検査・手直し等含む)			基礎・巾木 建具・硝子								スロープ					
工事規模	鉄筋コンクリート造3階建 延面積1282.4m ²				注記事項					防火・耐火関係の事項		その他					
工事種別	改修工事																
工事範囲	本設計図書に示したる全ての範囲 [建築・電気・機械]																
内部仕上表																	
階	室名	床 仕上	床高	巾木	腰壁 仕上	腰高	壁 仕上	天井 仕上	天井高さ	廻り縁	備考						
1 階 造	トイレ	長尺塗ビシートt=2.0(防滑仕様)、一部ステンレス見切W=30 汚垂石t=7(男子便所小便器下) 下地、構造用合板(類t=12)バーティカルボードt=20 MPフロアタイプ(三洋工業同様品) 1Fのみスラブt=120新設	ソフト巾木60	全面 改修	メラミン化粧合板t=3 下地PP(BB-S) t=12.5+LGSS6(スタッドt=303) (スタックt=303)	全面 改修	ビニルクロス貼 下地PP(BB-S) t=12.5+LGSS6(スタッドt=303)	全面 改修	F L+2000	塗ビ漆目	トイレベース TB-OPR、カームドア(小松ウォール)同等品可 既存廻り縁撤去 出入口木製ハンガー新設(H=1860 W=1215 t=40) メラミン化粧合板貼(両面)						
		既設1階スラブt=120撤去	解体	全面 改修	壁見切、香木修正材t=25 SOP塗	全面 改修	既存天井材撤去し、天井下地は既存のものを使用する	全面 改修			旧トイレベース撤去						
	トイレ	磁器モザイクタイル貼 既設1階スラブt=120撤去	解体 無し	陶器質タイル100角 無し	解体 無し	モルタル埋込み SS仕上 無し	天井 改修 下地 存置	ケイカル板t=6 VP塗									
特記事項																	

設計概要	令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所
	- SCALE	- SCALE	- SCALE	SCALE	野中建築設計事務所
	設計概要	外部仕上表	内部仕上表		1級建築士第147931号 野中健一
	DW.	CK.	NO. A - 12	DATE 03-09	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

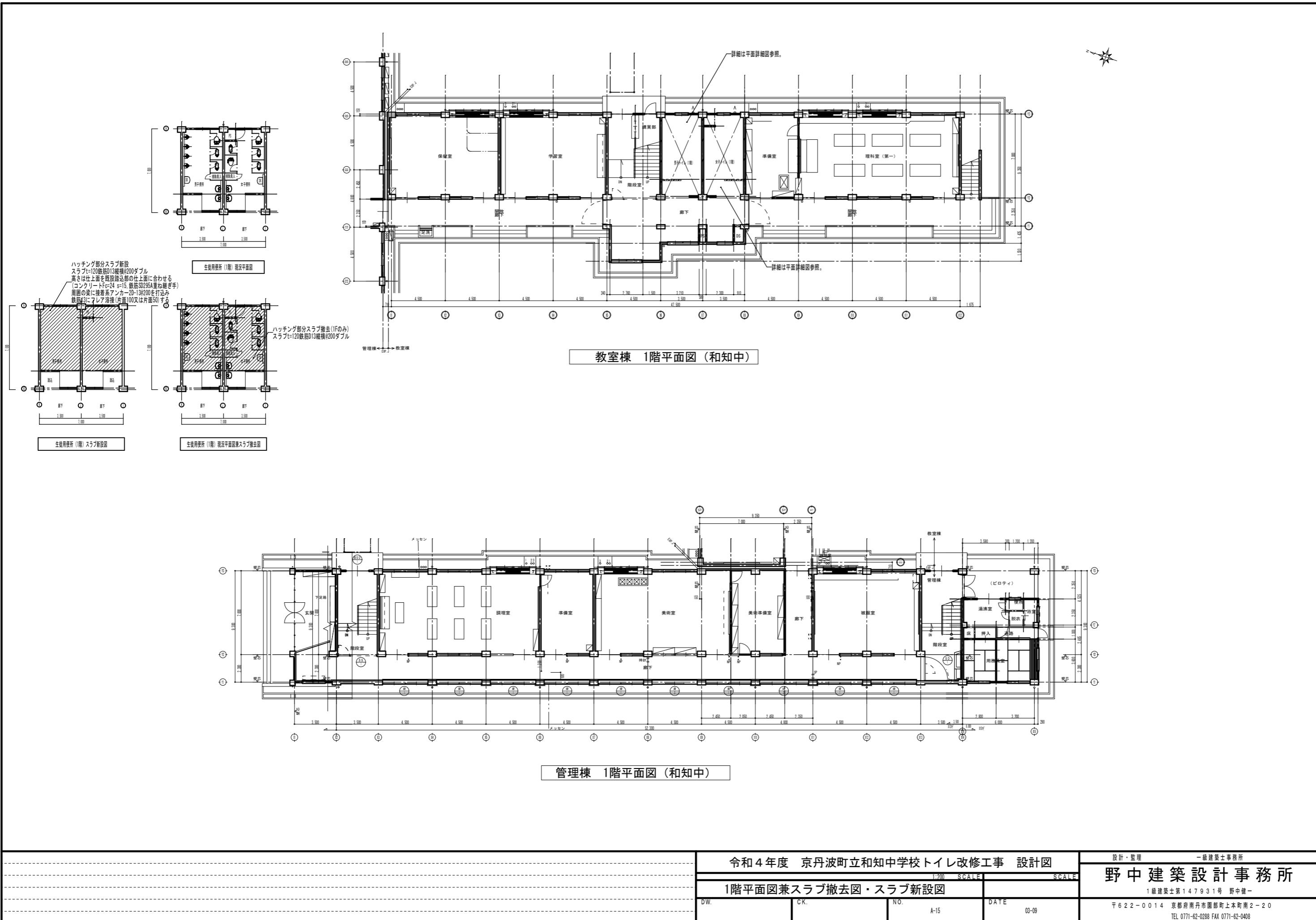


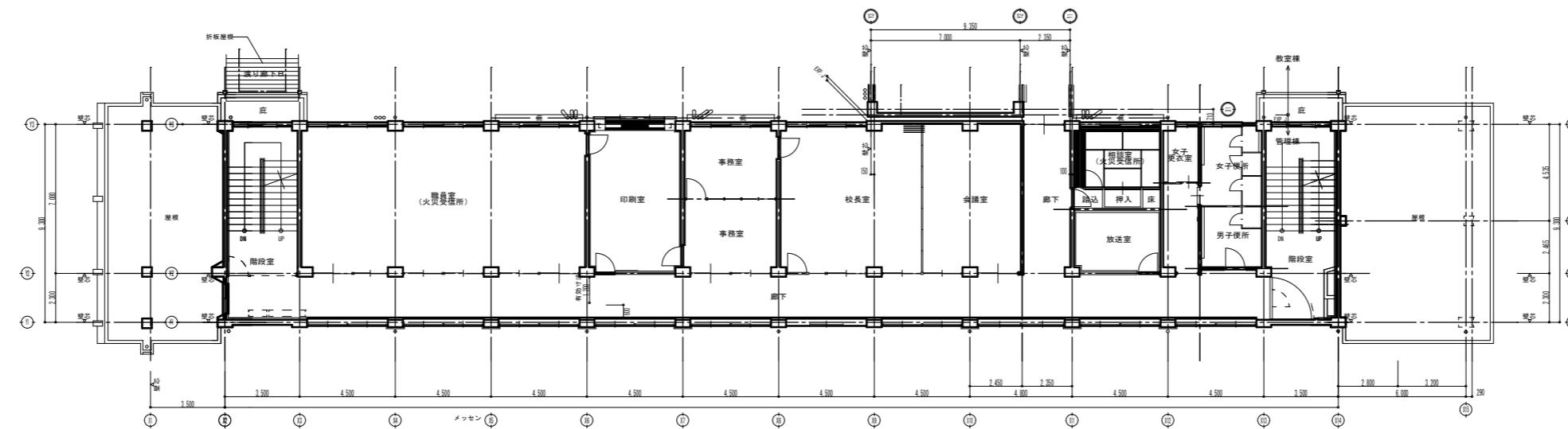
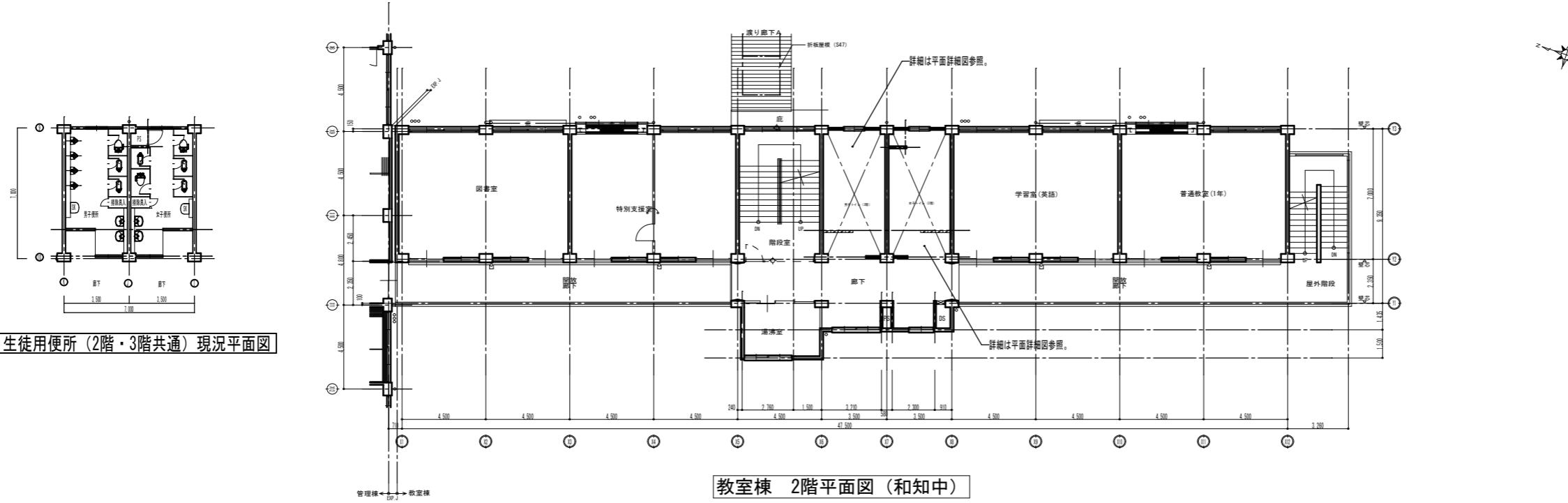
附近見取図

	令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所	
	PLAN	SCALE	SCALE	SCALE	SCALE	
	附近見取図				野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一	
	DW.	CK.	NO.	A-13	DATE	03-09
				〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408		



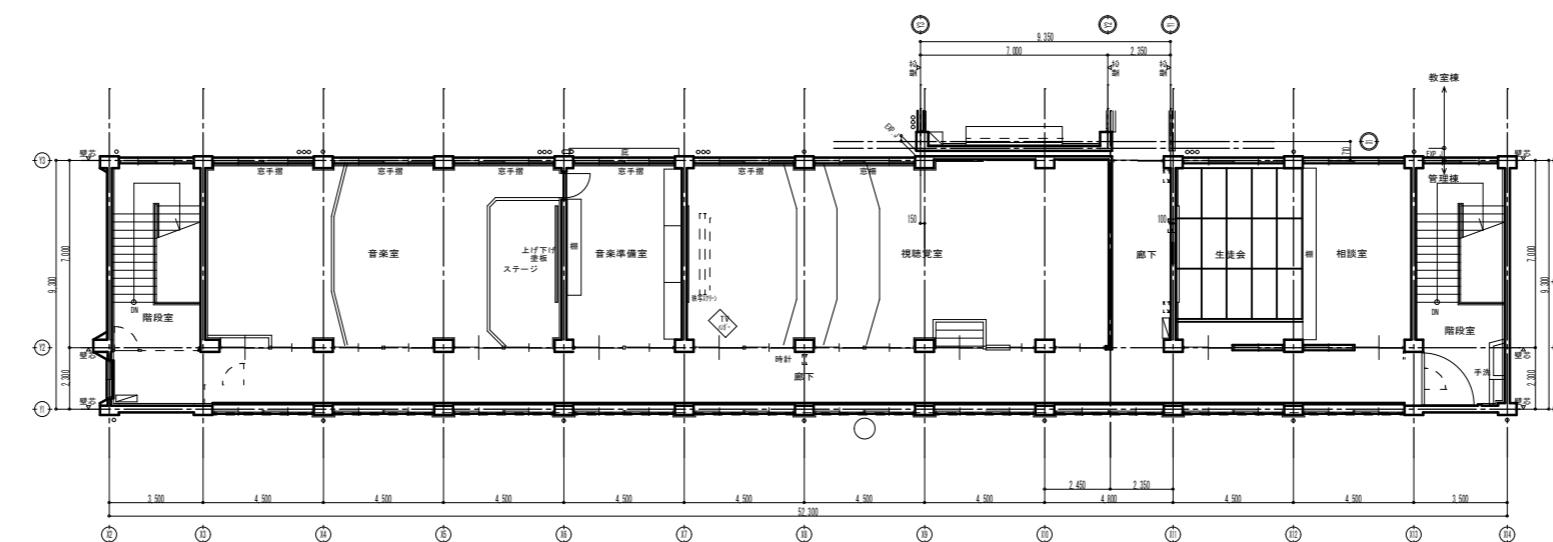
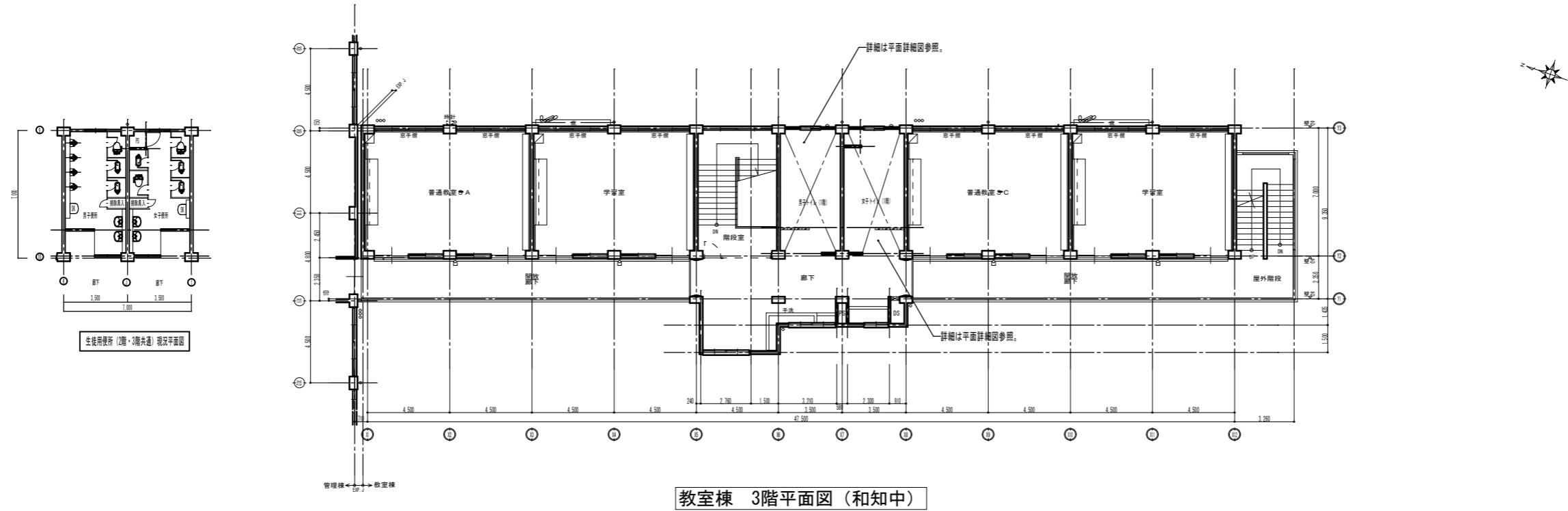
令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所 野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408
SCALE	SCALE	SCALE	SCALE	DW. CK. NO. DATE
1:500 配置図				A-14 03-09



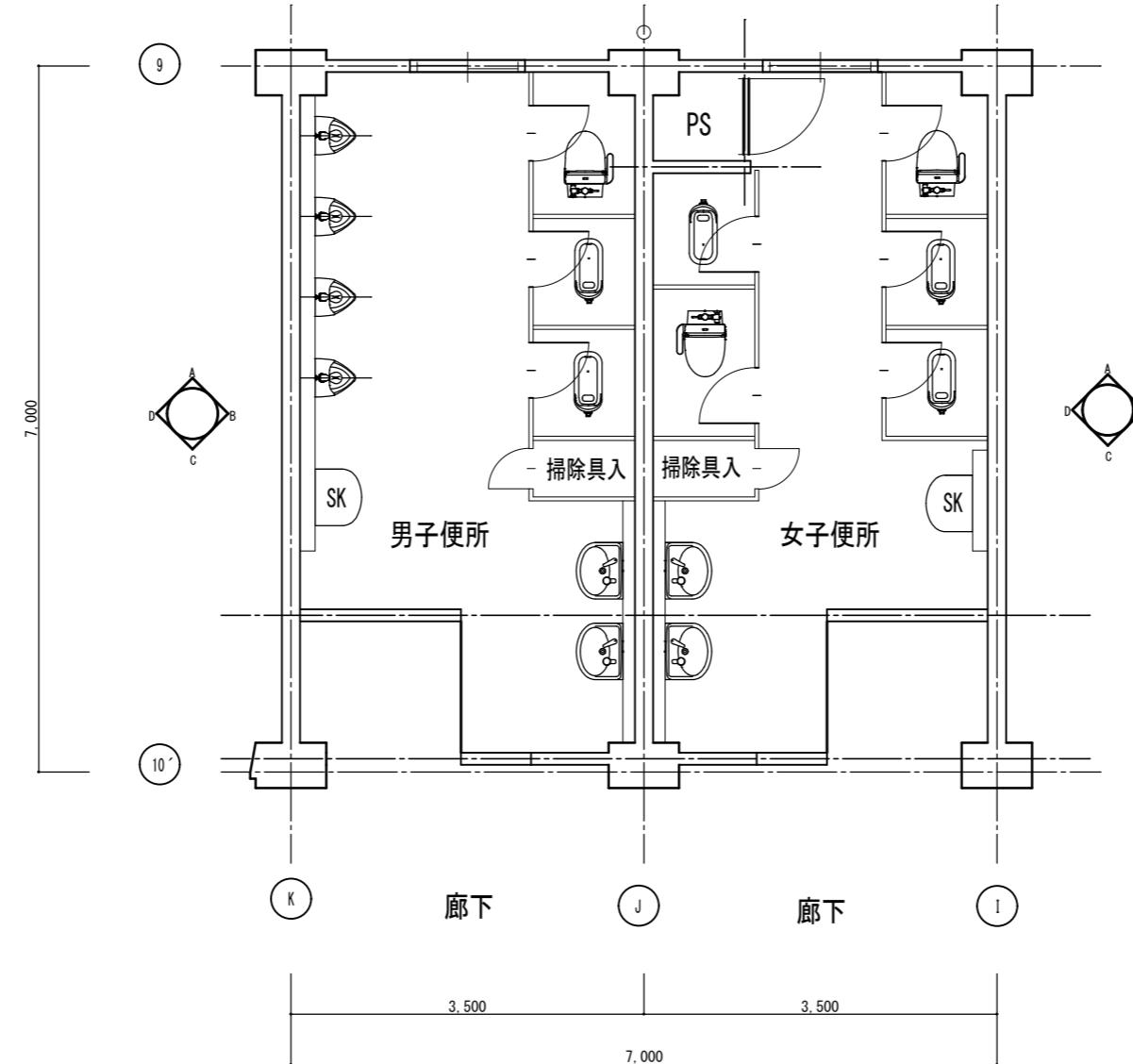


管理棟 2階平面図（和知中）

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所	
				野中建築設計事務所	
				1級建築士第147931号 野中健一	
1:200	SCALE	SCALE	SCALE	DATE	03-09
2階平面図	DW.	CK.	NO.	A-16	TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所	
				野中建築設計事務所	
				1級建築士第147931号 野中健一	
3階平面図	DW.	CK.	NO.	DATE	03-09
			A-17		
				〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-20	
				TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408	



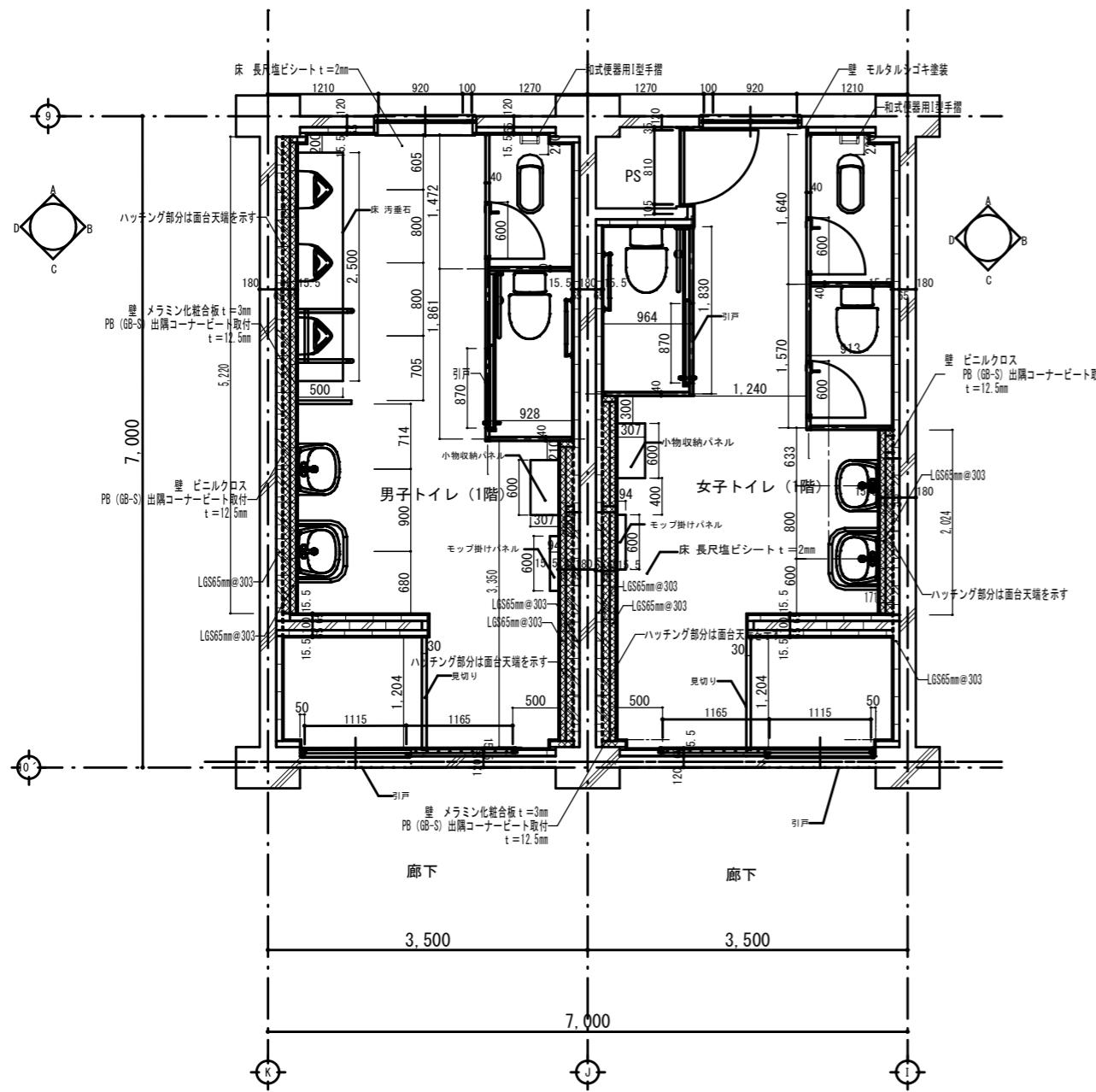
生徒用便所（1階～3階共通現況平面図）

撤去内容
衛生器具機器
窓枠、換気機器
トイレブース
天井仕上材(下地存置)
1階のみ床スラブ

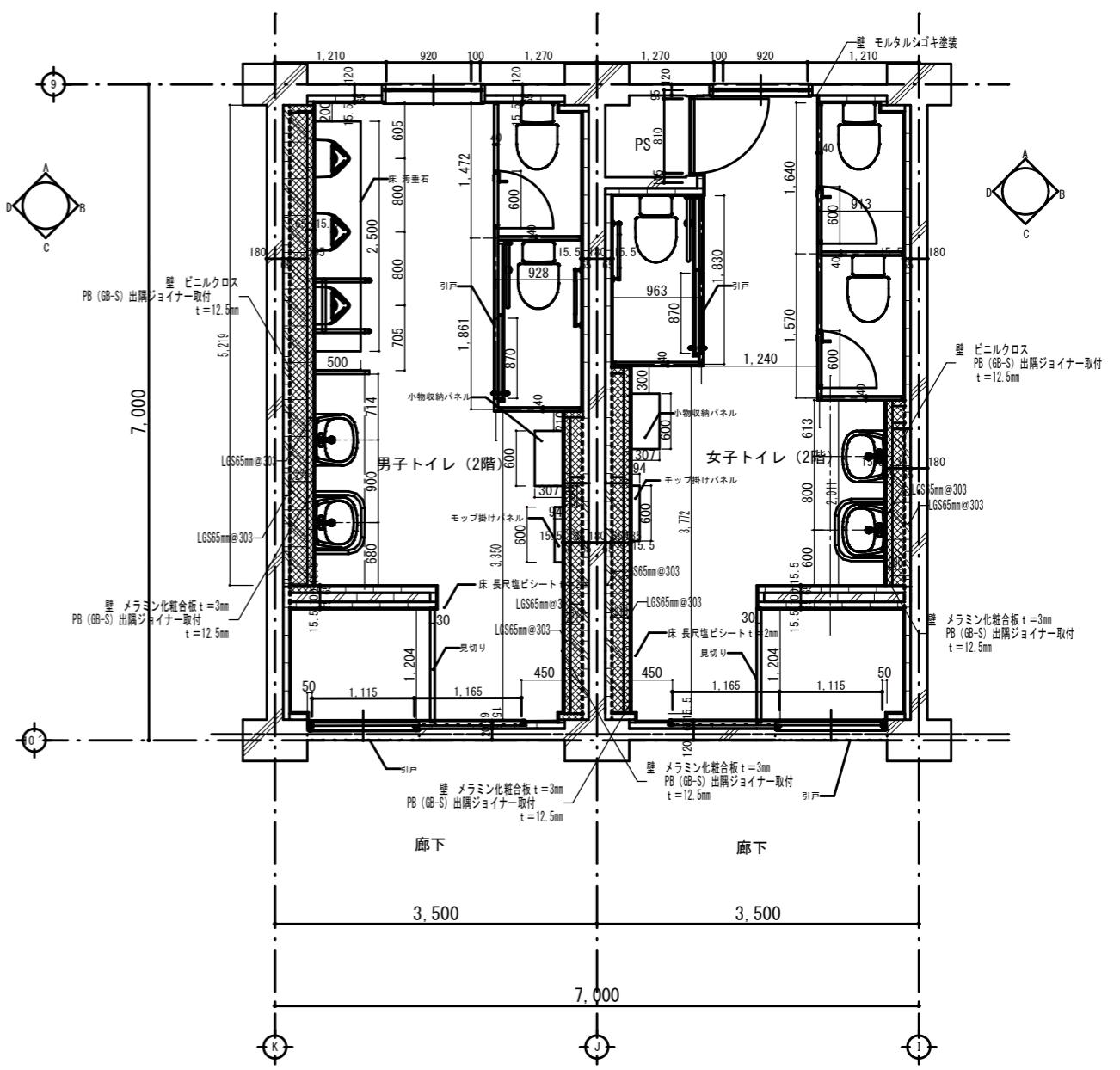
令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所	
改修前トイレ1階～3階平面図				野中建築設計事務所	
DW.	CK.	NO.	A-18	DATE	03-09



令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所
改修前展開図				野中建築設計事務所
DW.	CK.	NO.	DATE	1級建築士第147931号 野中健一 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408
		A-19	03-09	



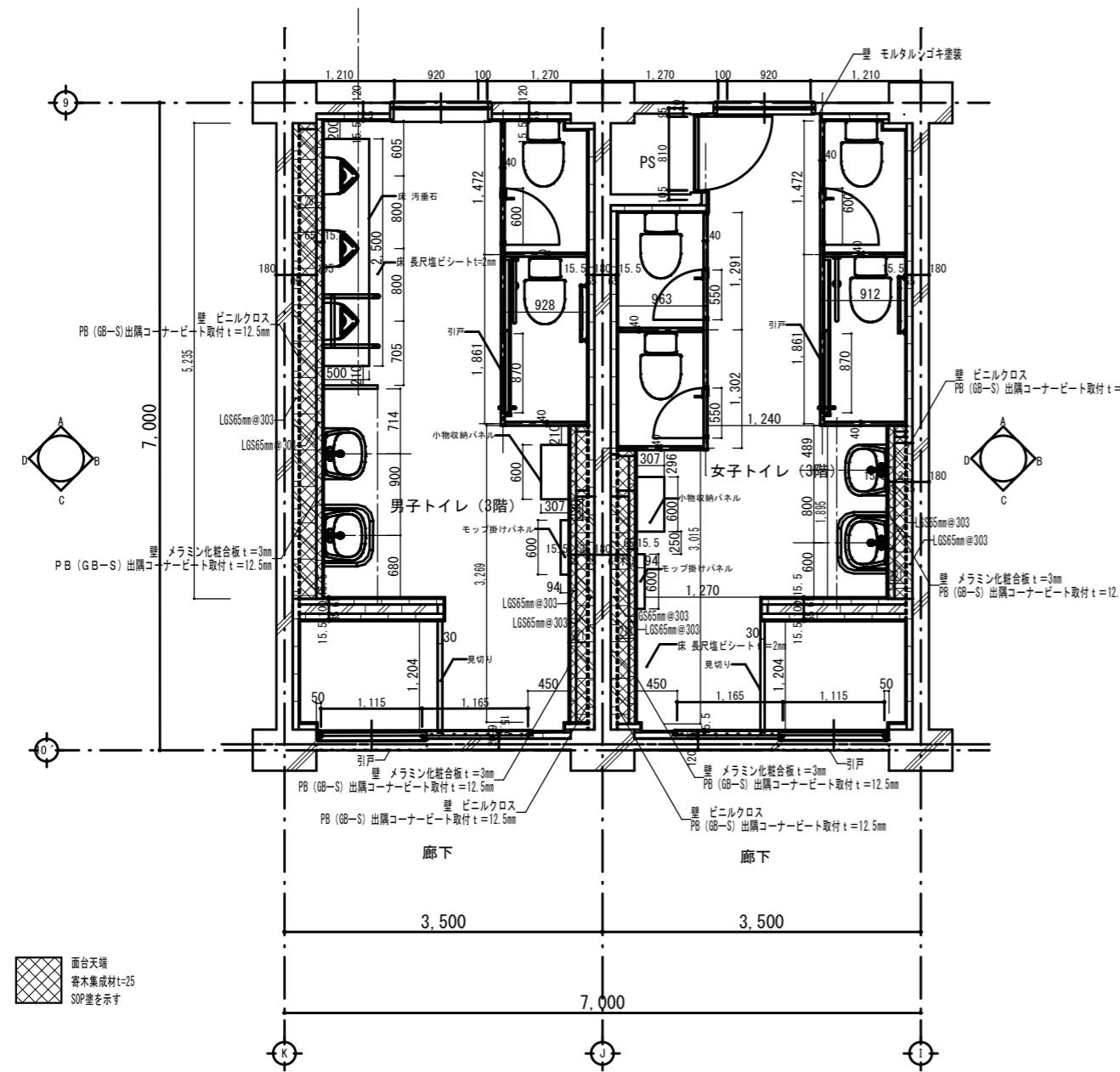
生徒用トイレ改修後1階平面詳細図 1/50



生徒用トイレ改修後2階平面詳細図 1/50

凡例

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所	
改修後平面詳細図1階 (和知中)		改修後平面詳細図2階 (和知中)		野中建築設計事務所	
DW.	CK.	NO.	DATE	1級建築士第147931号 野中健一	
		A-20	03-09	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20	TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



生徒用トイレ改修後3階平面詳細図 1/50

機器参考品番			
機器	品番	メーカー	備考
洋便器	CS597BS	TOTO	蓋なし
タンク	SH596BAYR（蓋固定）	TOTO	
ウォシュレット	TCF5534AU	TOTO	
紙巻器	YH702	TOTO	
小便器	UFS900R	TOTO	
手洗器	L210C	TOTO	水栓はレバーハンドル、自動水栓各1とする
掃除用流し	SK22A	TOTO	
小物収納パネル	UTR421S	TOTO	
モップ掛けパネル	UTR422S	TOTO	
L型手摺	T114CL9R	TOTO	
P型手摺	T114CP22R	TOTO	
I型手摺	YHB203	TOTO	和式便器用。和知中のみ。
小便器用手摺	T114CU22R	TOTO	
洗面器・手洗器用手摺	2460-34	KAKUDAI	
鏡	YM4560F	TOTO	450×600(生徒用)
大型化粧鏡（瑞穂中職員トイレ）	フリーサイズ大型鏡	TOTO	1,550×1,050

凡例

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

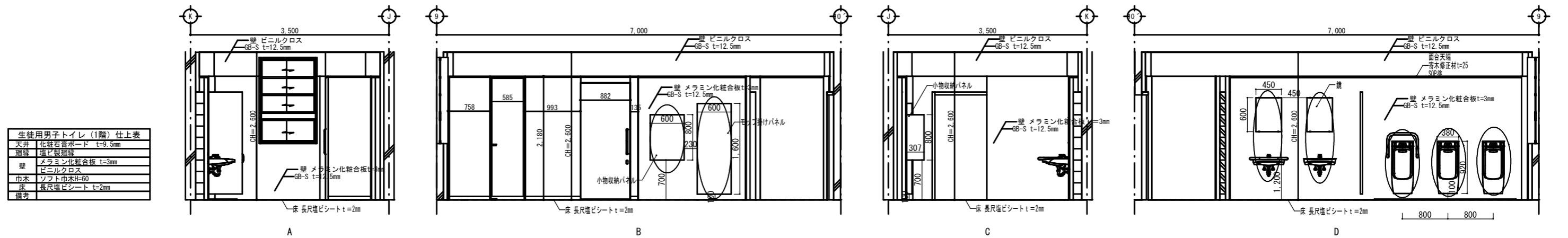
設計・監理 一級建築士事務所
野上建築設計事務所

· 10 ·

卷之三十一

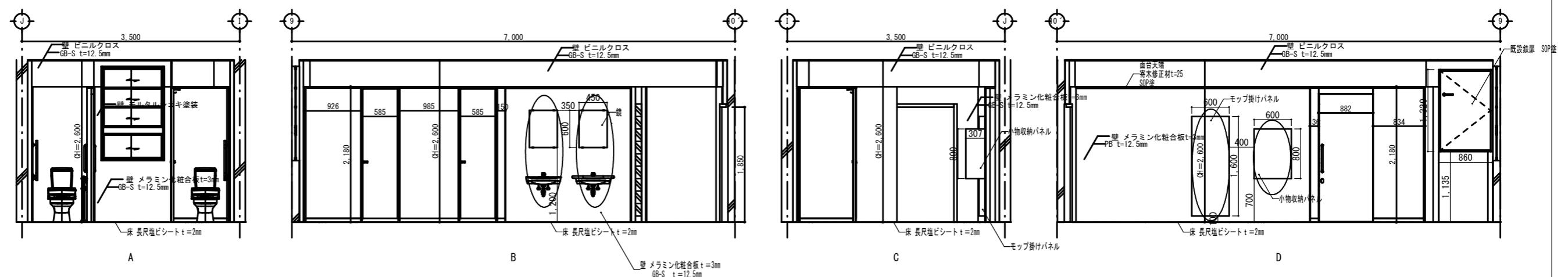
京都府南丹市園部町上本町南2-20

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



和知中生徒用男子トイレ1階 展開図

補強箇所を示す
詳細は部分詳細参照



和知中生徒用女子トイレ1階 展開図

注記 GB-Sの出隅にはコーナーピートーを取り付けること

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

1:50 SCALE

SCALE

SCALE

SCALE

改修後1階展開図

DW.

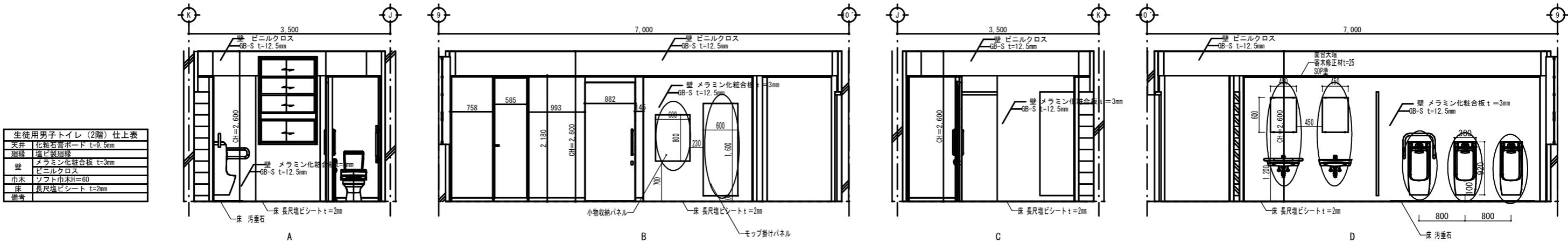
CK.

NO.

A-22

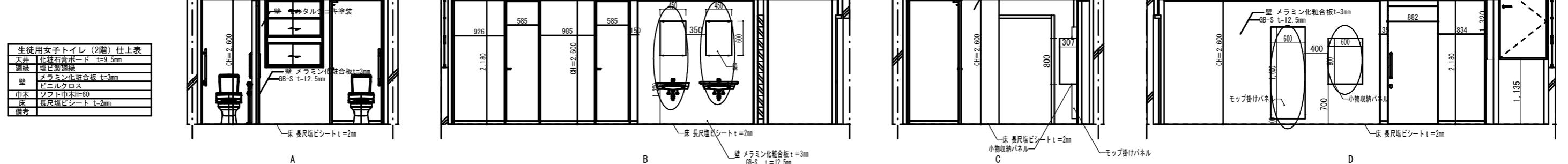
DATE

03-09



和知中生徒用男子トイレ2階 展開図

補強箇所を示す
詳細は部分詳細参照



和知中生徒用女子トイレ2階 展開図

注記 GB-Sの出隅にはコーナーピットを取り付けること

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

改修後2階展開図

DW.

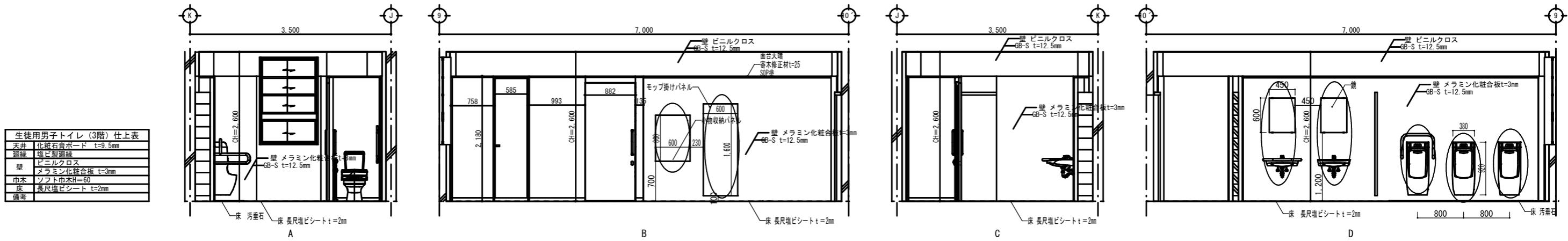
CK.

NO.

A-23

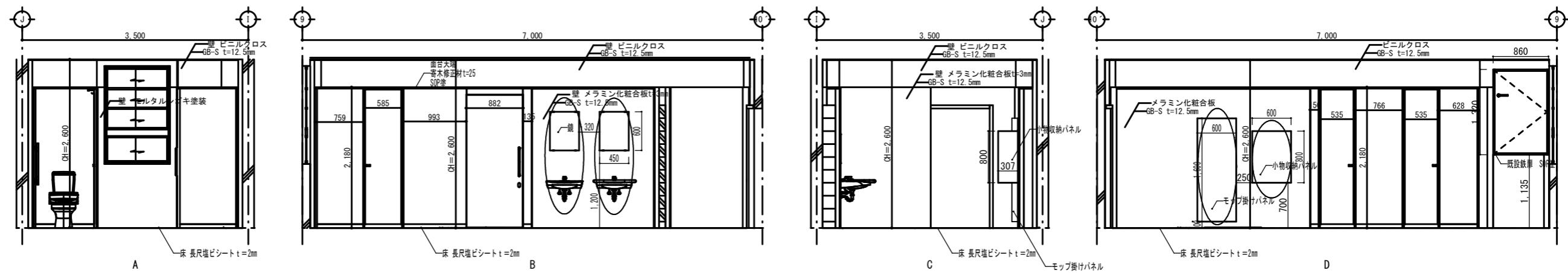
DATE

03-09



和知中生徒用3階男子トイレ 展開図

補強箇所を示す
詳細は部分詳細参照



和知中生徒用3階女子トイレ 展開図

注記 GB-Sの出隅にはコーナーピットを取り付けること

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-0

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

改修後3階展開図

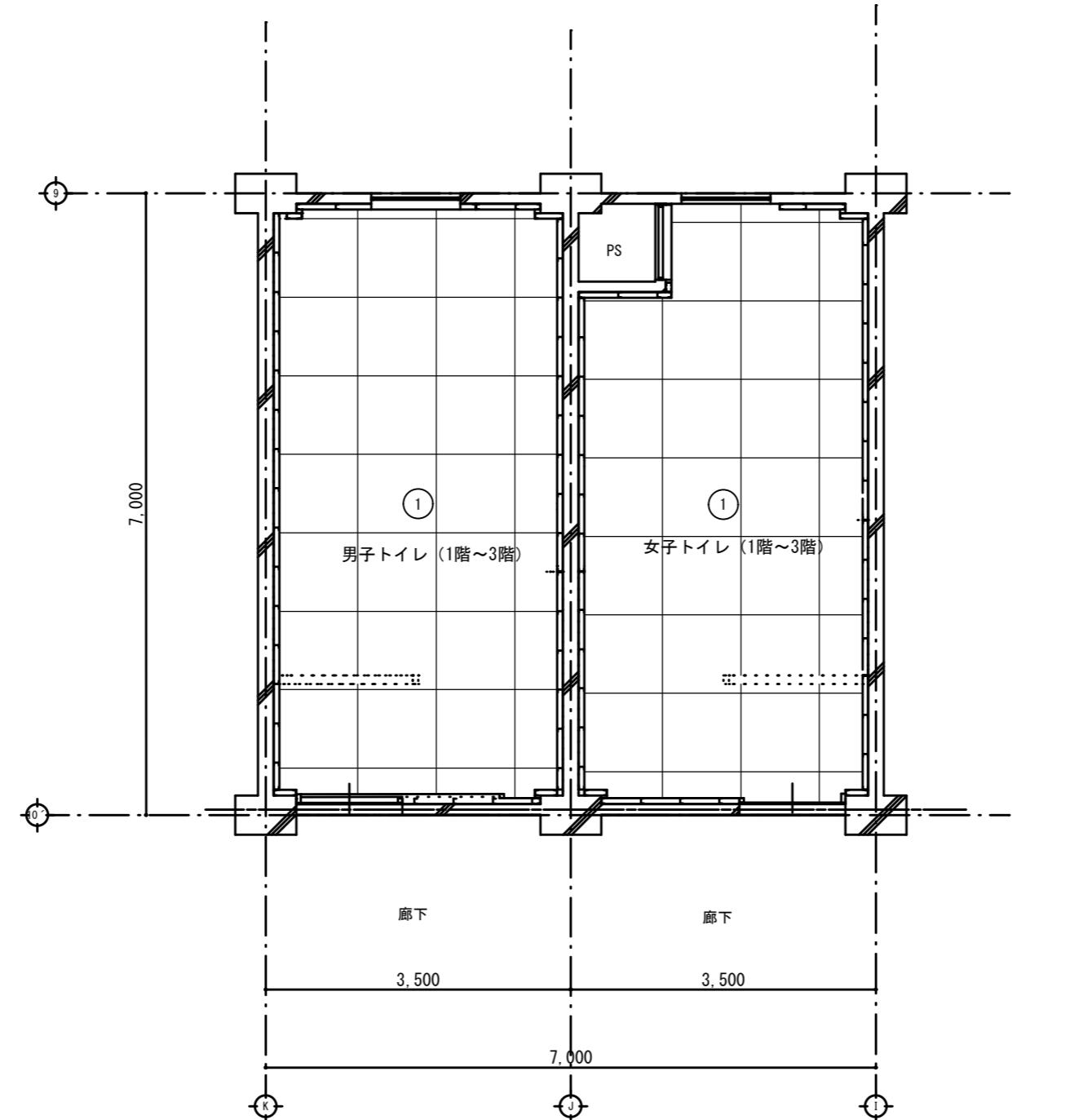
DW. CK.

NO.

A-24

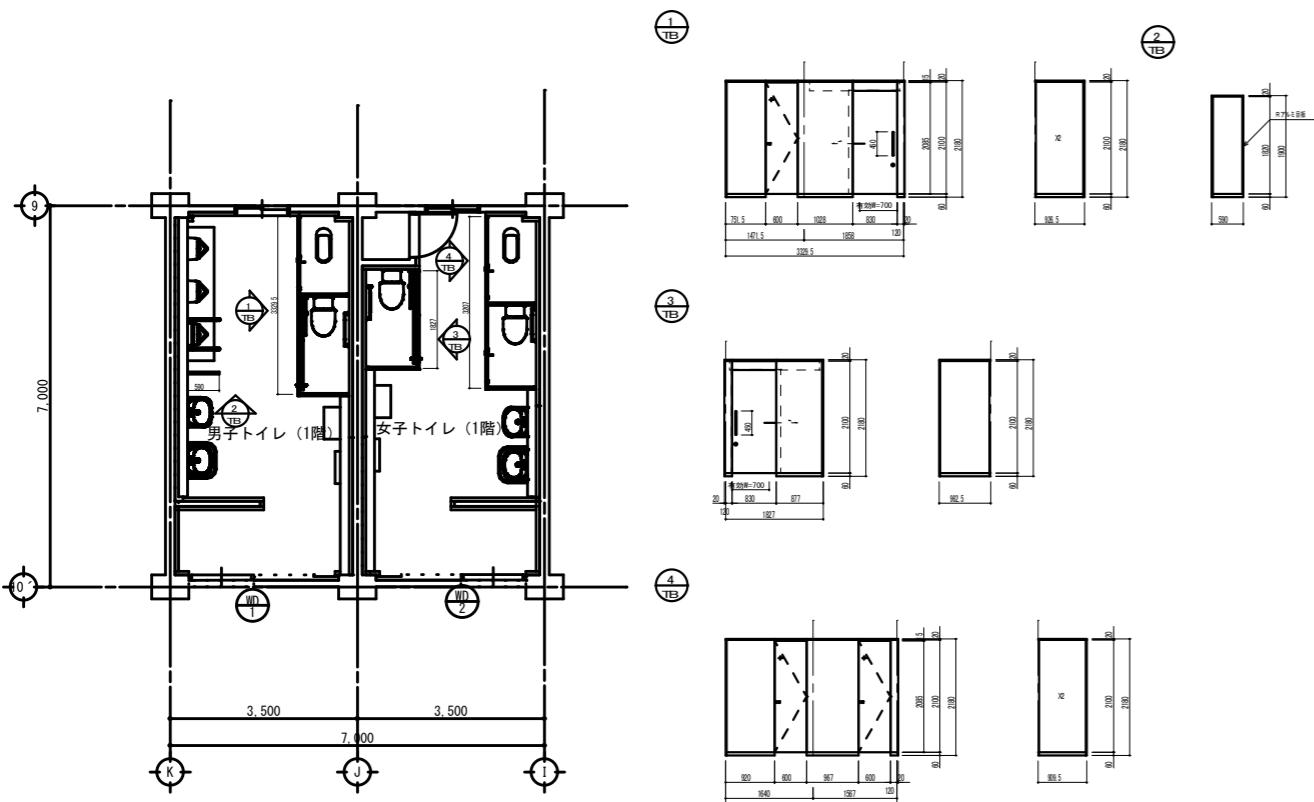
DATE

03-09



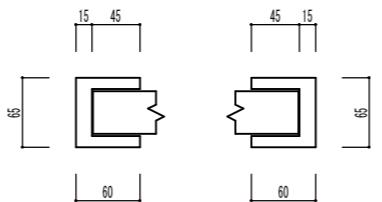
和知中生徒用トイレ各階天井伏図共通 1/50

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所 野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一
改修後各階天井伏図				1:50 SCALE
DW.	CK.	NO.	DATE	
		A-25	03-09	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



1階建具・TB配置図 1/100

1階TB姿図 1/100

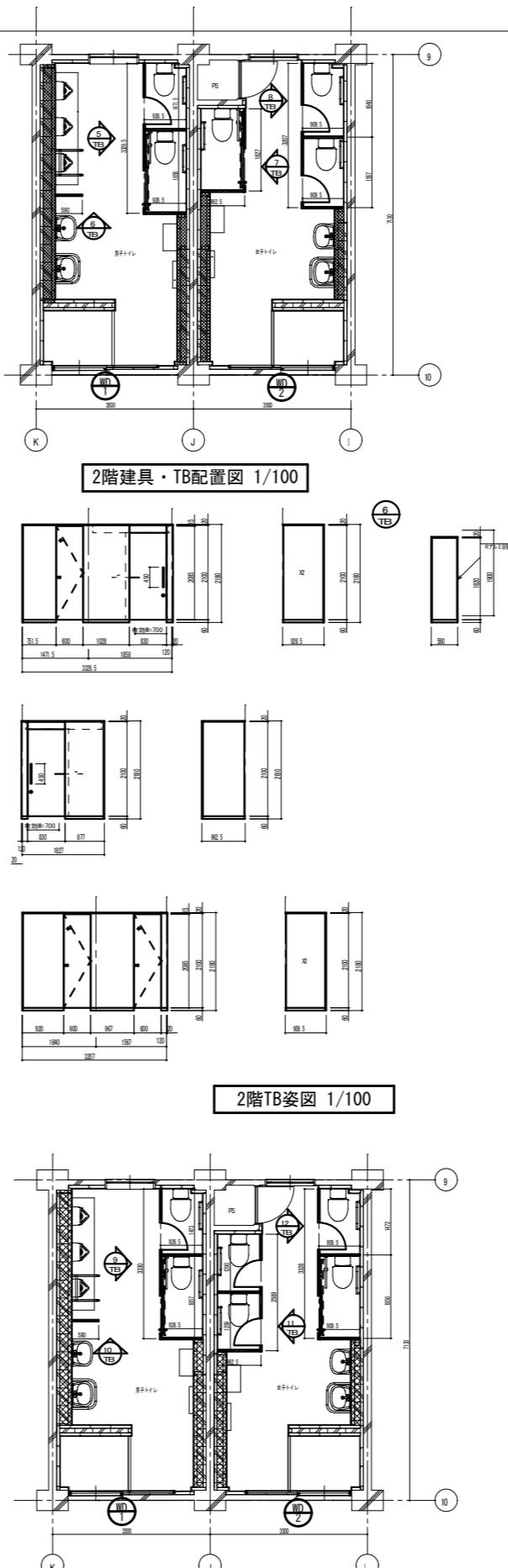


戸当り栓詳細(窓込部分)SOP塗 1/5 戸当り栓詳細(窓込部分)SOP塗 1/5

符号	WD	WD	
姿図			
※ハンガードア 2,430(現場合せ) 戸当り(窓込無部90*65) 戸当り(窓込有部)		※ハンガードア 2,430(現場合せ) 戸当り(窓込無部90*65) 戸当り(窓込有部)	
取付階・室名・箇所数	男子トイレ (1~3階)	3	
建具W 建具H 扉見込 柄見込	1215 1860 40 80	女子トイレ (1~3階)	3
建具材質	建具仕上	スブルス メラミン化粧合板	
ガラス種類	ガラス厚	学校用型板強化ガラス 4	
附属金物	ドアハンドル・戸当たり	ドアハンドル・戸当たり	
備考	溝形掘り込み戸当たり必要。現場採寸の上作成		

建具表 1/50

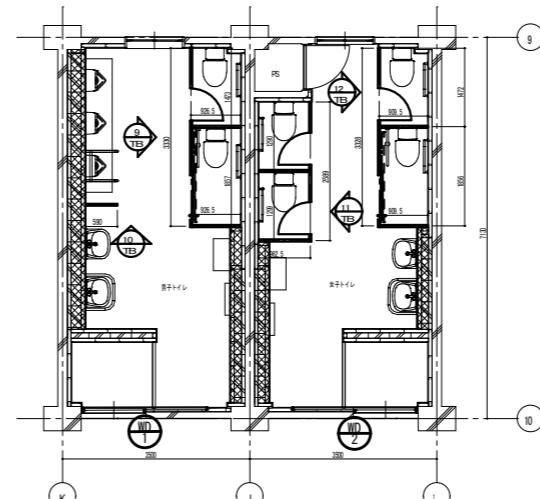
注記 LG65スタッド#303とする



2階建具・TB配置図 1/100

◇仕様表		
項目	部材	材 料 (板厚mm)
パネル	パネル表面材	高圧メラミン樹脂化粧板(下地:パーティクルボード9mm)
	芯材	ペーパーコア
	目板/戸当り	アルミ押出形材 <アルマイトクリア処理仕上>
付属品	巾木/床レール	ステンレス 0.8mm <ヘアライン仕上>
	笠木	アルミ押出形材 <アルマイトクリア処理仕上>
	壁面レール/コーナーカバー	アルミ押出形材 <アルマイトクリア処理仕上>
	ヒンジ	中心吊グレーピティヒンジ
	ロック	スライドロックSK
	その他金物	戸当り帽子掛けSK
カーム	パネル表面材(ドアパネル)	高圧メラミン樹脂化粧板(下地: MDF)
	芯材(ドアパネル)	ペーパーコア
	フロントゴム	ポリ塩化ビニル(PVC)
	ベース板	亜鉛めっき鋼板2.3mm
	点検カバー	冷間圧延鋼板1.2mm <焼付塗装仕上>
	ロック	非常解錠付樹脂製サムターン(SLB-20SD)
	引手	ステンレス鏡面ハンドルφ25

2階TB姿図 1/100



3階建具・TB配置図 1/100

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

1:100 SCALE 1:50 SCALE 1:100 SCALE

改修後建具配置図 改修後建具表各階共通 改修後TB姿図

DW. CK. NO. DATE

A-26 03-09

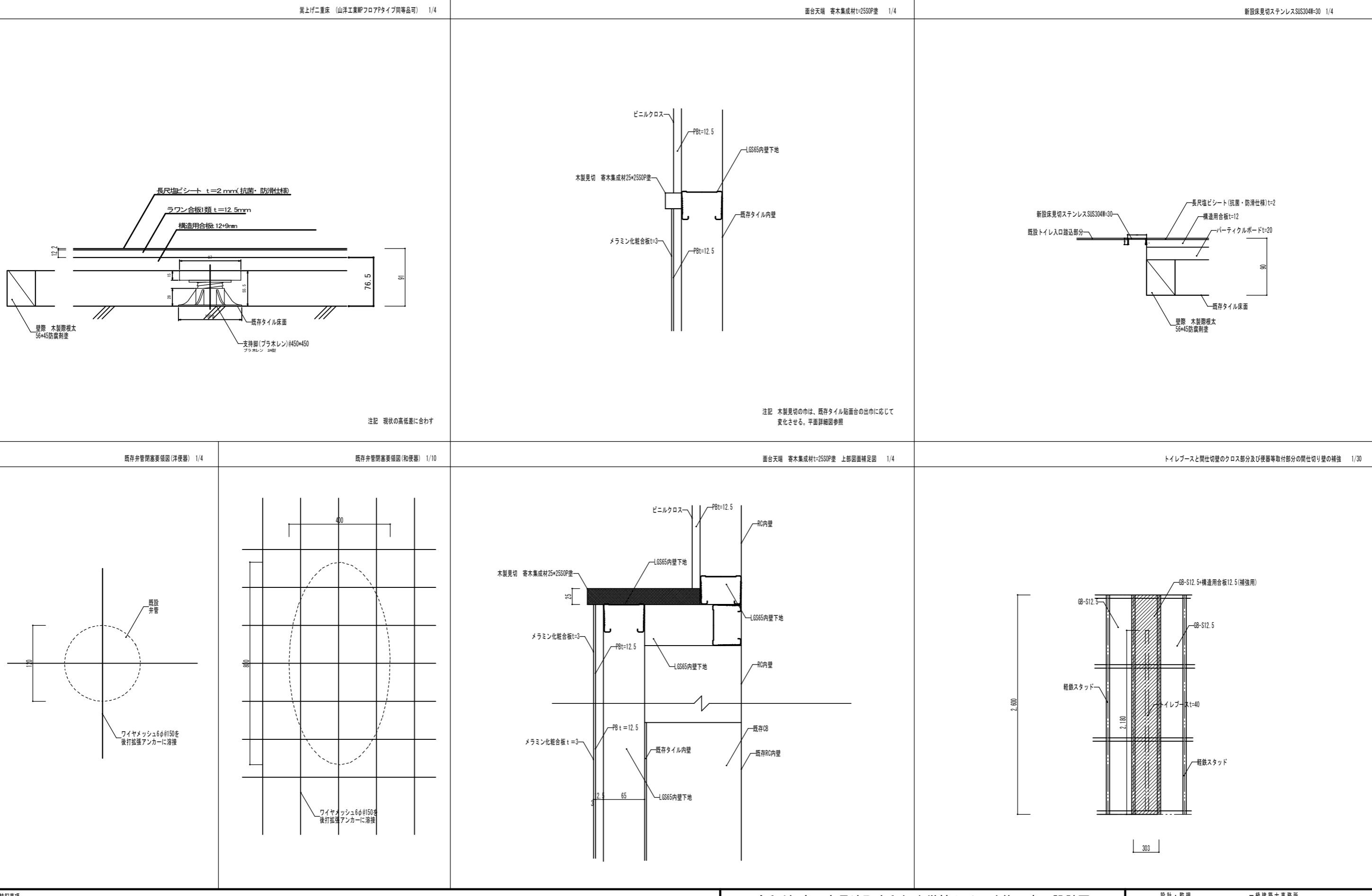
設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



特記事項

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

部分詳細図

DW.

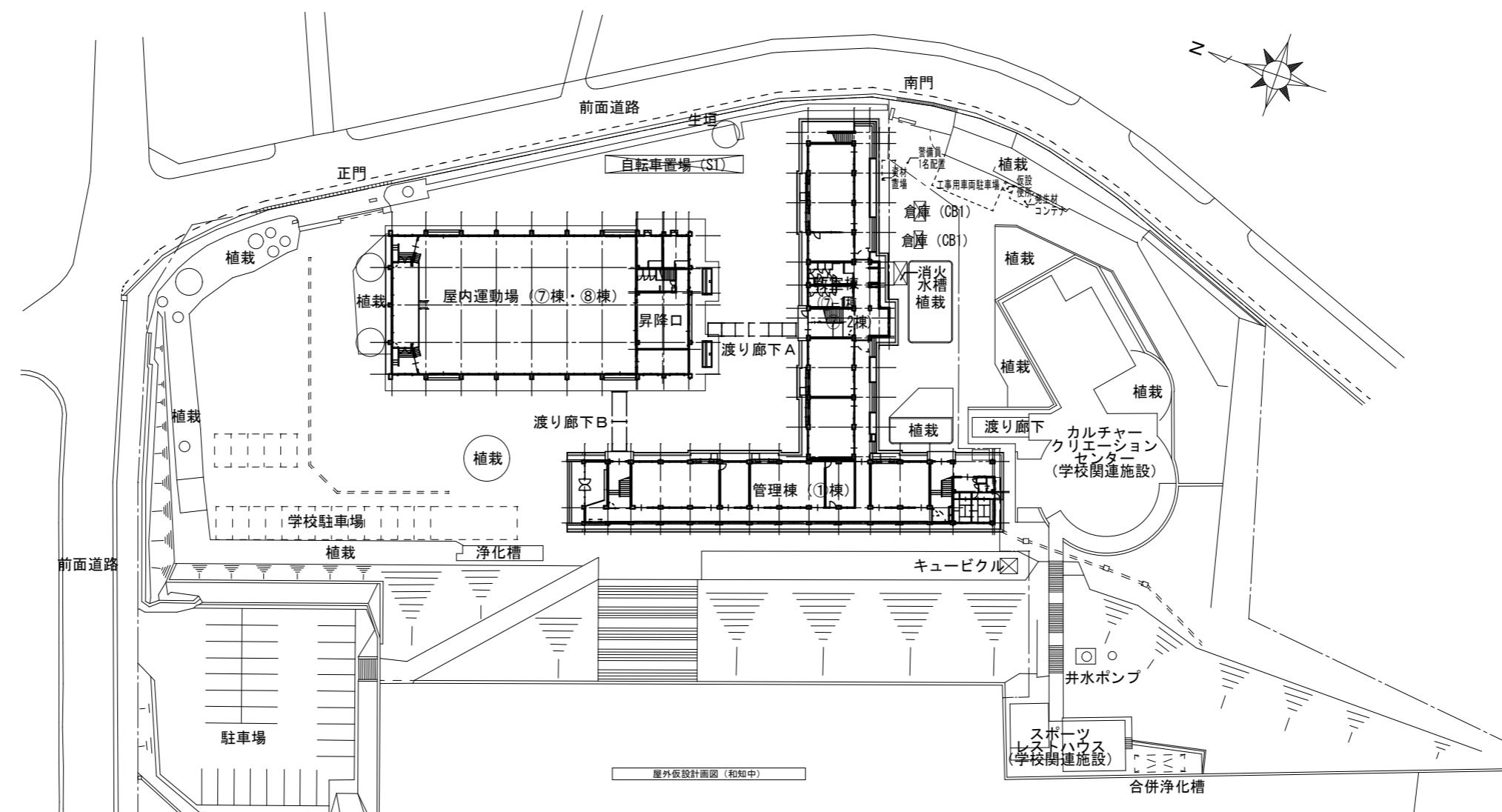
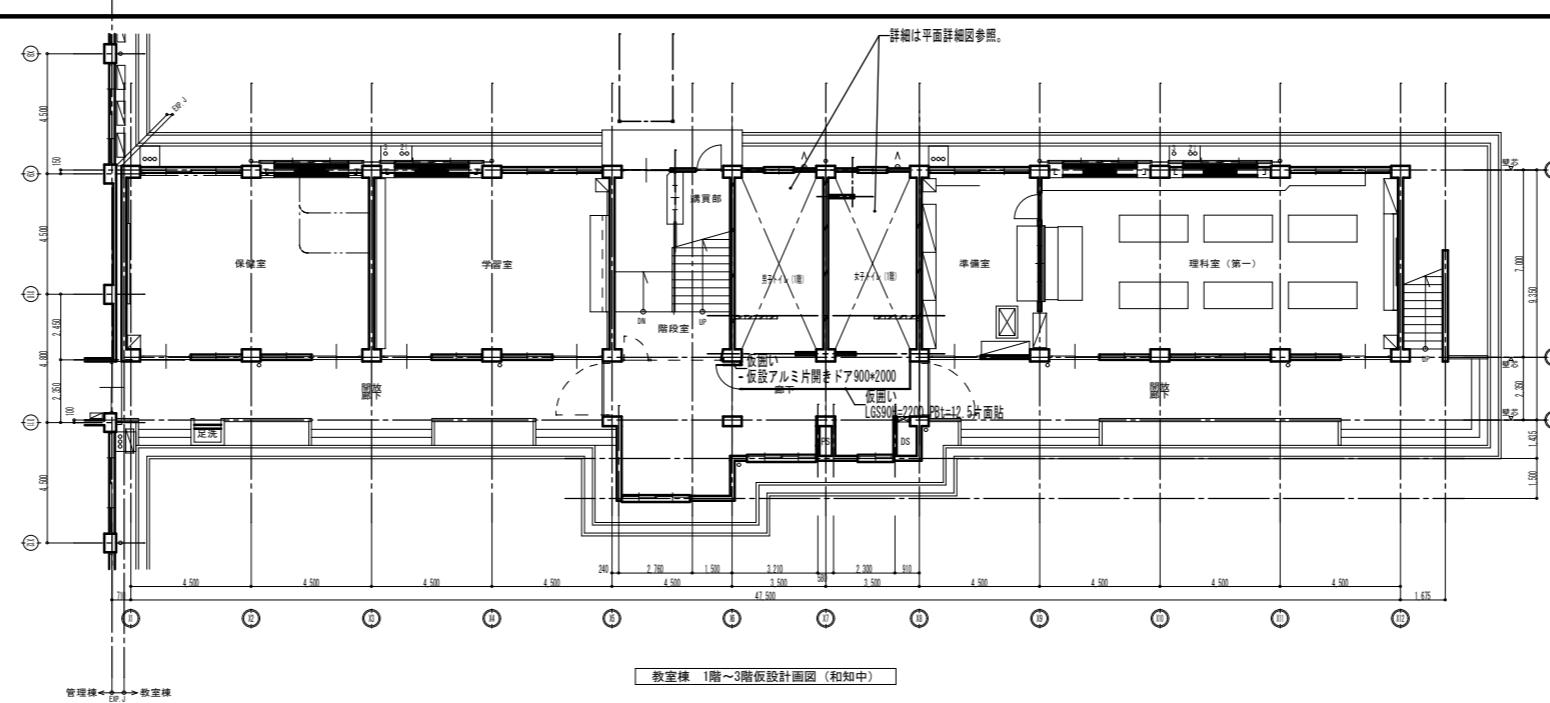
CK.

NO.

DATE

A - 27

03-09



令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所
1:200 SCALE		1:600 SCALE		
1階～3階仮設計画図		屋外仮設計画図		
DW.	CK.	NO.	DATE	野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

【工事概要】								
1 工事場所 船井郡京丹波町市場丸ヶ野4番地								
2 建物概要 京丹波町立瑞穂中学校及び和知中学校トイレ改修工事実施設計図(京丹波町立 和知中学校)								
建 物 名	構 造	階 数	延床面積(m ²)	消防法令別表第	耐震安全性の分類	備 考		
管理棟	RC	3階			○甲 ○乙			
					○甲 ○乙			
					○甲 ○乙			
3 工事科目	●印をついたものを適用し、各一式とする。							
工事科目	建物名称	管理教室棟						
電灯設備	●	○	○					
動力設備	○	○	○					
雷保護設備	○	○	○					
受変電設備	○	○	○					
電力貯蔵設備	○	○	○					
発電設備	○	○	○					
橋内情報通信設備	○	○	○					
橋内交換設備	○	○	○					
情報表示設備	○	○	○					
映像・音響設備	○	○	○					
扩声設備	○	○	○					
説明支接設備	○	○	○					
テレビ共同受信設備	○	○	○					
監視カメラ設備	○	○	○					
駐車場監制設備	○	○	○					
防犯・入退室管理設備	○	○	○					
火災報知設備	○	○	○					
中央監視制御設備	○	○	○					
医療関係設備	○	○	○					
橋内配電線路	○	○	○					
橋内通信線路	○	○	○					
電波障害調査	○	○	○					
撤去工事	●	○	○					

【特記事項】

1 一般事項
1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官房営繕部の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）平成三十一年版」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）平成三十一年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）平成三十一年版」による。
2) 工事種目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。

2 特記事項
項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。

章	項 目	特 記 事 項
一	※設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図面に規定するものまたは、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。また、〔グ〕印は「京都府グリーン調達方針」（以下、「グリーン調達」という。）の特定調達品目を示す。 ◆京都府グリーン調達方針参考： http://www.pref.kyoto.jp/zaisan/kankyo.html
通	※機材の品質・性能証明	使用する機材が、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」設備機材等評価名簿（最新版）による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1、4、2（2）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができます。 ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
事	※現場代理人	本工事の施工に当たっては、請負契約書第10条に規定する現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
現	※電気工事士	契約電力500kW以上の場合は、受注者による施工を行う。
設	※工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
備	※官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
機	※工事用仮設物	構内につくることが※できる。※できない
工	※足場・作業構台	別契約の関係者・受注者が定置したものは、無償で使用できる。
事	※設置しない	※設置する（○本工事 ○別途）
機	※監督職員事務所に備え付ける図書	下記の図書は監督職員事務所に備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編） ・電気設備工事監理指針 ・建築設備耐震設計施工指針 ・公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）編（最新版）
工	※建設副産物の処理及び建設発生土の処理	建設副産物の処理右記のほか、現場説明書による。 ○再生資源利用を図るもの【】 ○特別管理産廃棄物 ○P.C.B.使用機器 ○SF6ガス使用機器
事	○建設発生土処分	○構外指定地に搬出処理※（一財）城陽山砂利採取地整備公社 右記のほか、現場説明書による。 ○構外搬出適切処理（運搬及び処分費は、○本工事 ○別途） ○構内搬出搬入料金に敷き均し
機	再生資源利用（促進）計画・実施書の提出	詳細は現場説明書「Ⅱ特記事項 14 建設副産物の取扱い 2) 再生資源利用（促進）計画・実施書について」による。
工	1) 「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理計画書」を監督職員に提出する。 2) 関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理報告書」により監督職員に報告する。	
事	○アスベスト成形板の処理等	アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認 ・アスベスト成形板の種別、厚さの確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認 ・施工範囲等の確認
機	確認範囲	※成形板の製造年等の確認 ○X線解析法
工	処理方法	※非飛散性アスベスト廃棄物の取扱いに関する技術指針に従いあらかじめ施工計画書を作成し、適切に解体処分等を行うこと。

章	項 目	特 記 事 項
一	※工事関係書類	當緒工事契約関係提出書類書式集*一覧表により提出。 ◆京都府グリーン調達方針参考： http://www.pref.kyoto.jp/zaisan/kankyo.html
般	※履行報告	月報 ※2部 ○3部 毎月末に〆め、翌月の5日までに提出する。
事	※工事写真	1) 国土交通省大臣官房官房営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック電気設備工事編（最新版）」による。 2) 工事完成時、整理の上、1部提出する。 3) デジタルカメラで撮影可とする。
項	※完成図書	名 称 内 容 大きさ 部 数 ○完成図 金文字製本 A4版 1 部 ○完成図 背貼り製本（版） OA4ファイル止め 2 部 ○施工図 背貼り製本（版） OA4ファイル止め 2 部 ○機器完成図等 機器製作図 ファイル止め A4版 2 部 ○諸官庁提出書類 保守指導案内書（機器取説書を含む） 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書 ○原図 完成図 1 部 ○完成写真 アルバム綴り 2 部 電子音源については、現場説明書による。
共	※著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
通	※付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表1による。
事	○耐震施工	1) 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。 2) 下記の設計用鉛直震度（JIS）により、機器製作固定を行なう。 設 置 場 所 ○特定の施設 ○一般的施設 重要機器 一般機器 重要機器 一般機器 上層階、屋上及び塔屋 2.0(2.0) 1.5(2.0) 1.5(2.0) 1.0(1.5) 中 間 階 1.5(1.5) 1.0(1.5) 1.0(1.5) 0.6(1.0) 1 階 及 び 地 下 階 1.0(1.0) 0.6(1.0) 0.6(1.0) 0.4(0.6) 設 置 場 所 ○特定の施設 ○一般的施設 水槽 水槽 上層階、屋上及び塔屋 2.0 1.5 中 間 階 1.5 1.0 1 階 及 び 地 下 階 1.5 1.0
機	注1 耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設、乙類の建物は一般的の施設を適用する。 注2 屋外に設置する機器は、建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。 注3 ()内の数値は、防震支助の機器の場合に適用する。 注4 設計用鉛直震度は、設計用水平震度の1/2とする。 注5 上層階の定義は、6階建て以上の場合は最上階・階、7～9階建の場合は上階2階。 注6 重要機器（水槽類）は、下記による。（水槽類にはオイルタンク等を含む。） ○配電盤 ○直流水源装置 ○自家発電装置 ○交換機 ○電算用電源 ○中央監視装置 ○UPS装置 ○自動火災報知装置	
設	○風圧力に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分 V ₀ (O30 O32 O34) 地表面粗度区分（O I O II O III O IV）
備	○風圧力（耐風力）	建築基準法施行令第87条に定めるところによる風圧力（耐風力）検討（計算）書を監督職員に提出する。なお、検討（計算）範囲には、それぞれの取付部分を含めるものとする。 ○受電部システム及び引上げ導線システム ○太陽光発電装置 ○風力発電装置 ○テレビ共同受信アンテナ及びアンテナマスト ○
電	●電線類	1) 特記なきものは、EM-I Eとする。 2) EM線、EMケーブルで標準仕様書に規格等の記載のないものは、ハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとし、次の記号及び仕様による。 EM-Aクセスフロア JCS4502 (600Vアクセスフロア用耐燃性ポリエチレンシースケープ) による600Vアクセスフロア用耐燃性ポリエチレンシースケープ（EM-E E）及び600Vアクセスフロア用架橋ポリエチレン耐燃性耐燃性ポリエチレンシースケープ（EM-M C E）を示す。 EM-M E E S JCS4271に準じ、絶縁材及びシースにJCS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの 3) 長さ1m以上の通線を行わない配管には、導入線（樹脂被覆鉄線等）を挿入する。
動	●電線管	電 線 管 ●P.F管 ただし、露出部分は銅製電線管とする。 分電盤等の次側で第1ボックスまでは（※銅製電線管OPF管）とする。 ●ねじなし電線管 1) 雨線及び温水の多い場所または水蒸気のある場所に使用する露出電線管は、厚鋼電線管とする。 2) スラブ厚の1/4を越える外径の配管及び（P F 2 2）又は（E 3 1）相当を越えるものは、コンクリート埋設配管を行わない。 最上階の埋込配管 最上階のスラブでモルタル防水及び樹脂防水の混合、埋込配管は避けるの原則とする。 下記の露出配管は塗装（指定色塗装）を行う。 ○屋外（○屋上を除く）○屋内居室 ○屋内P.S-E.P.S ○屋内機械室 ○
機	●電線本数、管路等	分電盤、制御盤、端子盤等の次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は監督職員の承諾を受けて変更することができる。
工	●ボックス	樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。
事	○予備配管	分電盤の予備用遮断器が4個以下の場合（25）を1本、5個以上の場合（25）を2本天井内まで立上げる。ケーブルラックの床の防火貫通部に（51）を1本以上立上げる。
機	●フラッシュプレート	和 室 ○樹脂製 ○金属製（○新金属製 ○ステンレス製） そ の 他 ○樹脂製 ○金属製（●新金属製 ○ステンレス製）
工	○フロアフレート	水平高低調整式（空転防止リング付、OAフロア一部分を跡く）とする。
電	●ベース	寸 法 盤のその他機器類について図示した寸法は、約寸法とする。 接 続 電動機への接続は、本工事とする。 アンカーボルト アンカーボルト及びナットは、下記による。 屋外・多湿室等（○溶接兼ねメッキ OSUS） そ の 他 （○一般品 ○）
設	○あと施工アンカー	施工後確認試験 試験方法 行う ○行わない 引張試験機による引張試験とし、国土交通省大臣官房官房営繕部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成三十一年度版）「8.12.7 施工確認試験」による。 確認強度 監督職員との協議による。

章	項 目	特 記 事 項
共	●機器内配線等	下記の機器内配線及びケーブルには、EM電線及びEMケーブルを使用する。 ただし、高庄主回路配線はこの限りでない。 ●分電盤 OOA盤 ○実験盤 ○開閉器箱 ○制御盤 ○キューピカル式配電盤 ○直流水源装置 ○交流無停電電源装置（UPS）（簡易型を除く）
通	●はつり	1) 既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2) 復旧はモルタル補修までとする。
事	●再使用機器	取り外した上再使用する機器は、清掃し絶縁抵抗測定の上取付ける。なお照明器具等の見え掛かり部分は、洗剤を使用するなどして、十分に清掃する。
項	●その他	屋外の盤類・開閉器箱 ○SUS ○鋼板製 屋外のフルボックス ○SUS ○鋼板製
電	●工事範囲	●配管 ○配線 ○電気方式 幹線 ○単相3線式 100V/200V ○直流2線式 100V 分歧 ○単相2線式 ●100V 0200V ○直流2線式 100V

電気設備工事特記仕様書 No.2

章	項目	特記事項
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○直流水源装置	用途 ○建築基準法用 ○消防法用 ○受変電設備専用 その他 ○過放電防止保護装置(直流水不足電圧继電器)の設定電圧は、90Vとする。
	○交流無停電源装置(UPS)	用途 方式 ○一般形 ○簡易形
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○形式	○オープン形 ○簡易形 ○キューピカル
	○連続運転可能時間	○10時間(乙) ○72時間(甲) ○
	○発電機	電気方式 三相3線式 電圧 0.210V ○6.6kV ○415V 定格出力 kVA以上 力率 0.8
	○原動機	種別 ○ガスタービン ○ディーゼル機関 ○ガスエンジン ○マイクロガスタービン ○燃料電池 ○コージェネレーション 定格出力 kW(PS)以上 始動方式 ○電気式 ○空気式 冷却方式 ○ラジエーター式 ○水槽循環式 現地負荷試験 ○行う ○行わない
	○燃料	種類 ○重油 ○軽油 ○灯油 ○ガス() ○燃料小出槽 ○主燃料槽
	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視盤による監視
	○太陽光発電装置	太陽電池 アレイ 公称最大出力 kW以上 設置可能建築面積 m ² 以下(長辺 m × 短辺 m) ○受動 ○能動
		パワーコンディショナ出力 相 線式 V kW以上
		逆潮流 ○有 ※無
		交流出力電圧 ○100V ○200V
		出力電気方式 ○三相3線式 ○単相3線式 ○単相2線式
	○外部移報	○有 ○無
構内情報設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○保安器用接地	○本工事 ○別途工事
	○形式	○電子交換機 ○ボタン電話装置
情報表示設備	○工事種類	○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○親時計及び付属装置	○CR-P M ○CW-P M ○プログラムタイマ(○カード式 ○キー式 ○)
	○子時計	特記なきものは ○SWA ₃₃ -G ₂ B ₂ ○
設備音響機器	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○増幅器	用途 ○全館放送用(○一般放送 ○非常放送) ○ローカル放送用 ○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。
	○スピーカ	特記なきものは ○SC _e H i-1V ₃ -M ○
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○工事内容	○音声誘導装置 接出方式(○磁気式 ○無線式 ○画像認識) ○インターホン ○電話式 ○相互式 ○テレビインターホン ○親機に子機カメラ角度調整機能(上下)を設ける。 ○トイレ等呼出し装置 ○1窓 ○3窓 ○5窓 ○ 呼出しボタン(フルスイッチの長さは0.2m以上とする) 壁付ボタン(握りボタンの長さは1.2m以上とする) ○通話機能 ○受付呼出し装置 ○誘導音
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○アンテナ	○UHF用 ○BS用 ○CS用 ○AM用 ○FM用 ○CATV
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ○配管用ステンレス鋼管 ○一般構造用炭素鋼管(溶融亜鉛メッキ仕上げ) ○圧力配管用炭素鋼管(溶融亜鉛メッキ仕上げ)
テレビ共同受信設備	○電界強度測定	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付予定位位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。

章	項目	特記事項
監視カメラ	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○画像	○カラー ○白黒
	○伝送方式	○アナログ伝送方式 ○ネットワーク伝送方式 ○デジタル同軸伝送方式 ○
管内設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○車両検出方式	○ループコイル方式 ○光線方式
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
防犯施設	○工事種類	○機械警備用配管 ○防犯装置 ○入退室管理制御装置
	○自動火災報知装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付
	○受信機	○形 級 回線 ○壁掛け形 ○自立形 ○単独形 ○複合形 ○副受信機 窓 ○盤面に消火ポンプ連動表示灯を設ける。
火災報知設備	○光警報装置	○
	○消火ボンブ始動	○消火栓箱内押ボタン ○受信機と連動(総合盤に始動表示灯を設ける。)
	○機器収容箱	○消火栓一体形 ○単独形
	○自動閉鎖装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○運動制御器 回線 【予備電源(蓄電池)内蔵】 ○単独 ○自火報受信機と一体
	○自動閉鎖装置	○防火戸用【DC24V ○6A以下電磁式またはラッズ式】 ○防煙ダンパー用 【別途工事 時通電式又は電動式 DC24V ○6A以下 遠方復帰機構(電動式) DC24V ○7A以下】 ○防火シャッター用 【別途工事 DC24V ○6A以下】
	○非常警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○電気方式 DC24V ○電源装置 ○非常電源(蓄電池) ○自動火災報知設備と兼用
	○ガス漏れ火災警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○受信機 ○単独形 ○自火報受信機と一体
	○ガスの種類	○都市ガス(13A) ○液化石油ガス
	○諸警報表示	受信機に諸警報表示窓(窓)を設ける。
制御設備監視	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○監視方式	○警報盤 ○監視制御装置
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
医療関係設備	○非接地電源用分電盤	キャビネット ○銅製 ○ステンレス製
	○ナースコール装置	トイレ及び浴室等の 呼出押ボタン ○有線式 ○無線式 ○防滴 ○防湿
	○その他	○オプション等の試験は、監督職員の指示による。
構内配電	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○電気方式	高圧 ○三相3線式 6kV 底圧 ○三相3線式 200V ○ ○単相3線式 100/200V ○単2線式 (○100V ○200V)
	○配管方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管(FEP) ○ポリエチレン被覆管(PLP) ○埋設深さ 特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装下面)から300mm以上とする。
	○区分開閉器	○架空線 電柱 ○遠心力フレストレスコンクリートポール ○高圧負荷開閉器 7.2kV 300A ○用途 ○架空引込用 ○地中引込用 ○構造 ○耐中塩じん用 ○耐重塩じん用 ○形式 ○引外し装置付き(SOG形) ○引外し装置なし ○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による 蓋の文字 ○蓋の用途表示は電力とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
	○余長	高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所以上で3m余長をとる。
	○端子、高圧ケーブル	○一般用 ○耐塩用 ○重耐塩用 端末処理
	○避雷器	○屋外形 ○耐塩形
	○支柱材	○一般用 ○耐塩形
	○外灯	基礎 ○本工事 ○別途工事 ○外灯ポールの材質が銅製(SPC)の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。
構内通信線路	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○配管方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管(FEP) ○ポリエチレン被覆管(PLP) ○埋設深さ 特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装(表層)下面)から300mm以上とする。
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による 蓋の文字 ○蓋の用途表示は通信とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。

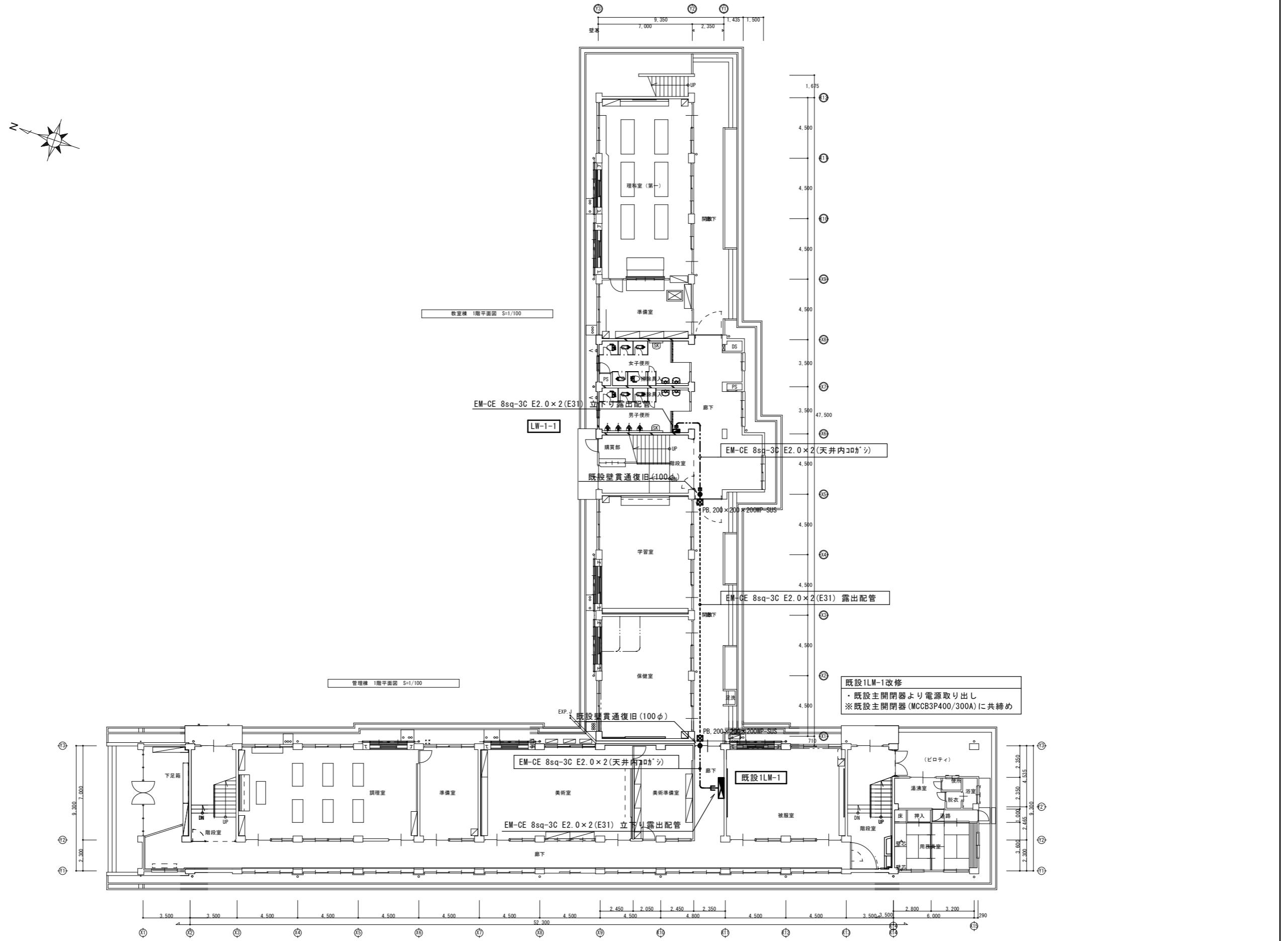
章	項目	特記事項
調査報告書	○調査範囲 ○測定期間 ○工事前 ○工事中 ○完成後 ○測定箇所 ○測定箇所 ○測定内容 ○測定内容	○対策工事実施設計書作成まで ○監査所 受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。

別表 1 付属品・予備品

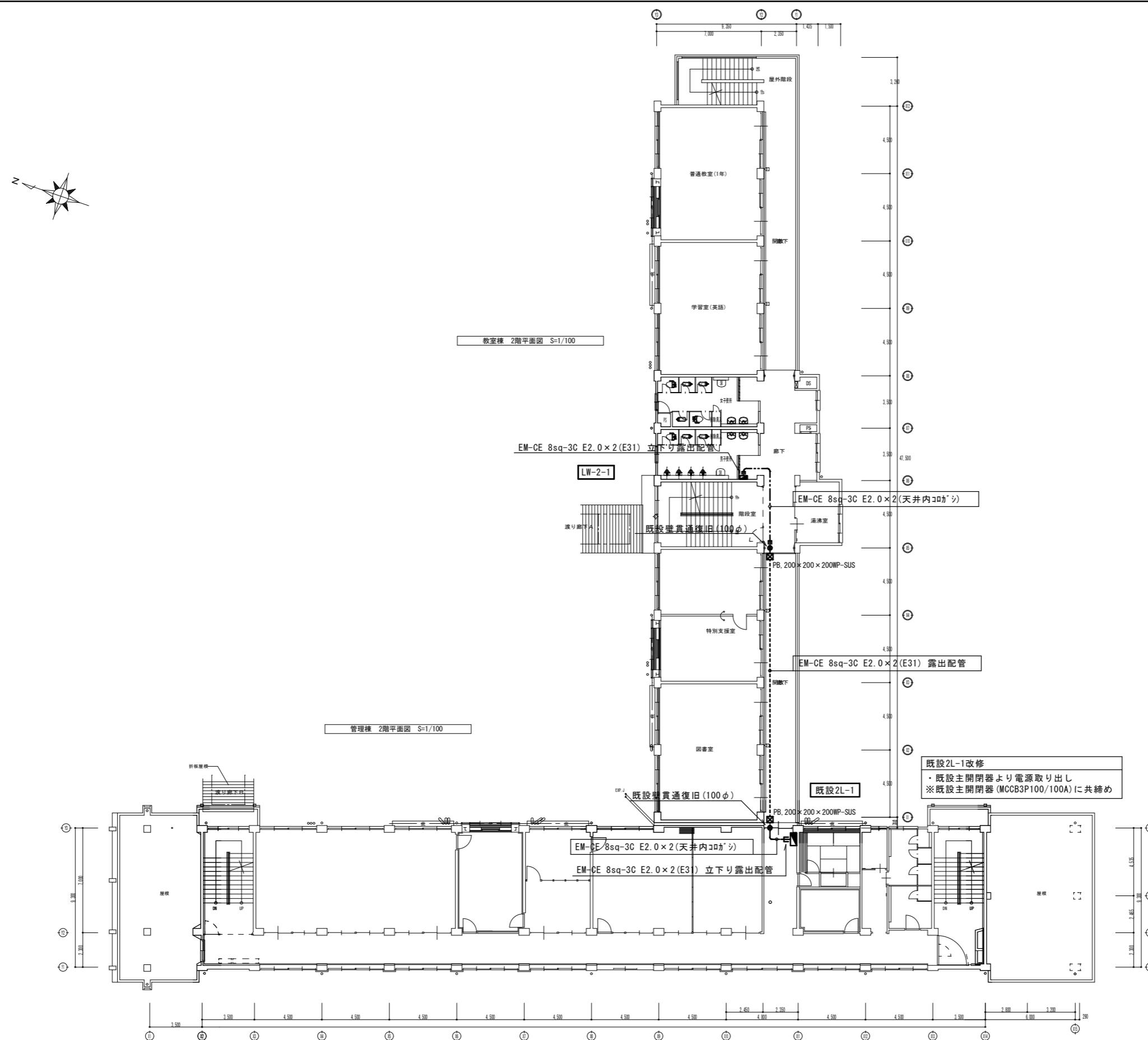
○イージーキャビネット	箱 ○キー ポックス ○テスター ○マンホールフック
○工具箱(ドライバー、モンキーレンチ、組スパンナ、ハンマー)	ランプ及びヒューズの予備品は、20%とする。

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所
NON SCALE				SCALE
SCALE				野中建築設計事務所
電気設備特記仕様書(NO-2)				1級建築士第147931号 野中健一
DW.	CK.	NO.	DATE	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-0 TEL 077-62-0288 FAX 077-62-0408

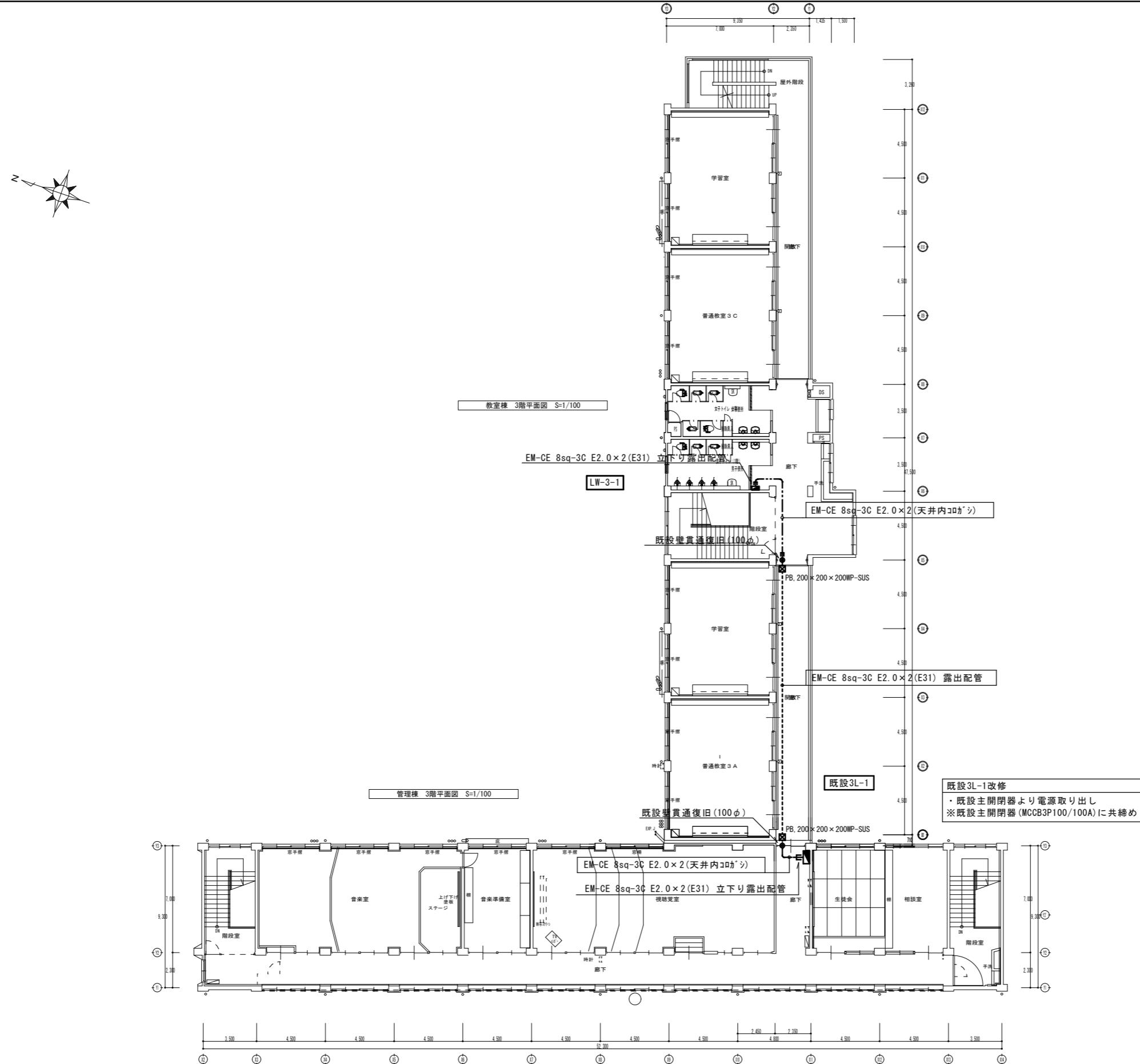
1階電灯盤送り (1L M-1) 電源取り出し工事	(1階生徒便所用分電盤 LW-1-1) 鋼板製鍵付 露出型	照明器具姿図												
		<p>A-LED LEDダブルライト LRS1-05(公共施設型番)</p> <p>LED内蔵<ワンコア(ひと粒)タイプ>、電源ユニット内蔵、一般光色タイプ 5000K、Ra85、拡散タイプ 光源遮光角15度、光源寿命40000時間(光束維持率85%) 器具光束: 6101lm、消費電力: 4.2W、電圧: 100-242V 反射板(上部): プラスチック(ホワイト) 反射板(下部): 鋼板(ホワイトつや消し仕上) 枠: 鋼板(ホワイトつや消し仕上)、埋込穴φ100</p> <p>B-LED LEDダブルライト LRS1-08(公共施設型番)</p> <p>LED内蔵<ワンコア(ひと粒)タイプ>、電源ユニット内蔵、一般光色タイプ 5000K、Ra85、拡散タイプ 光源遮光角15度、光源寿命40000時間(光束維持率85%) 器具光束: 10451lm、消費電力: 7W、電圧: 100-242V 反射板(上部): プラスチック(ホワイト) 反射板(下部): 鋼板(ホワイトつや消し仕上) 枠: 鋼板(ホワイトつや消し仕上)、埋込穴φ150</p> <p>C-LED LEDウォールライト LBF3MP/RP-2-06(公共施設型番)</p> <p>LED内蔵、電源ユニット内蔵 防湿型・防水型 5000K、Ra83、光源寿命40000時間(光束維持率85%) 器具光束9901lm、消費電力10W、電圧100~242V 本体: ステンレス、カバー: ポリカーボネート(乳白) 天井直付型・壁直付型、保護等級: IP23</p>												
2階電灯盤送り (2L-1) 電源取り出し工事	(2階生徒便所用分電盤 LW-2-1) 鋼板製鍵付 露出型													
3階電灯盤送り (3L-1) 電源取り出し工事	(3階生徒便所用分電盤 LW-3-1) 鋼板製鍵付 露出型													
令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図		設計・監理 一級建築士事務所 野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>NON SCALE</th> <th>SCALE</th> <th>SCALE</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電灯分電盤改修設備工事</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>DW.</td> <td>CK.</td> <td>NO. DATE</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>E-04 03-09</td> </tr> </tbody> </table>		NON SCALE	SCALE	SCALE	電灯分電盤改修設備工事			DW.	CK.	NO. DATE			E-04 03-09	
NON SCALE	SCALE	SCALE												
電灯分電盤改修設備工事														
DW.	CK.	NO. DATE												
		E-04 03-09												



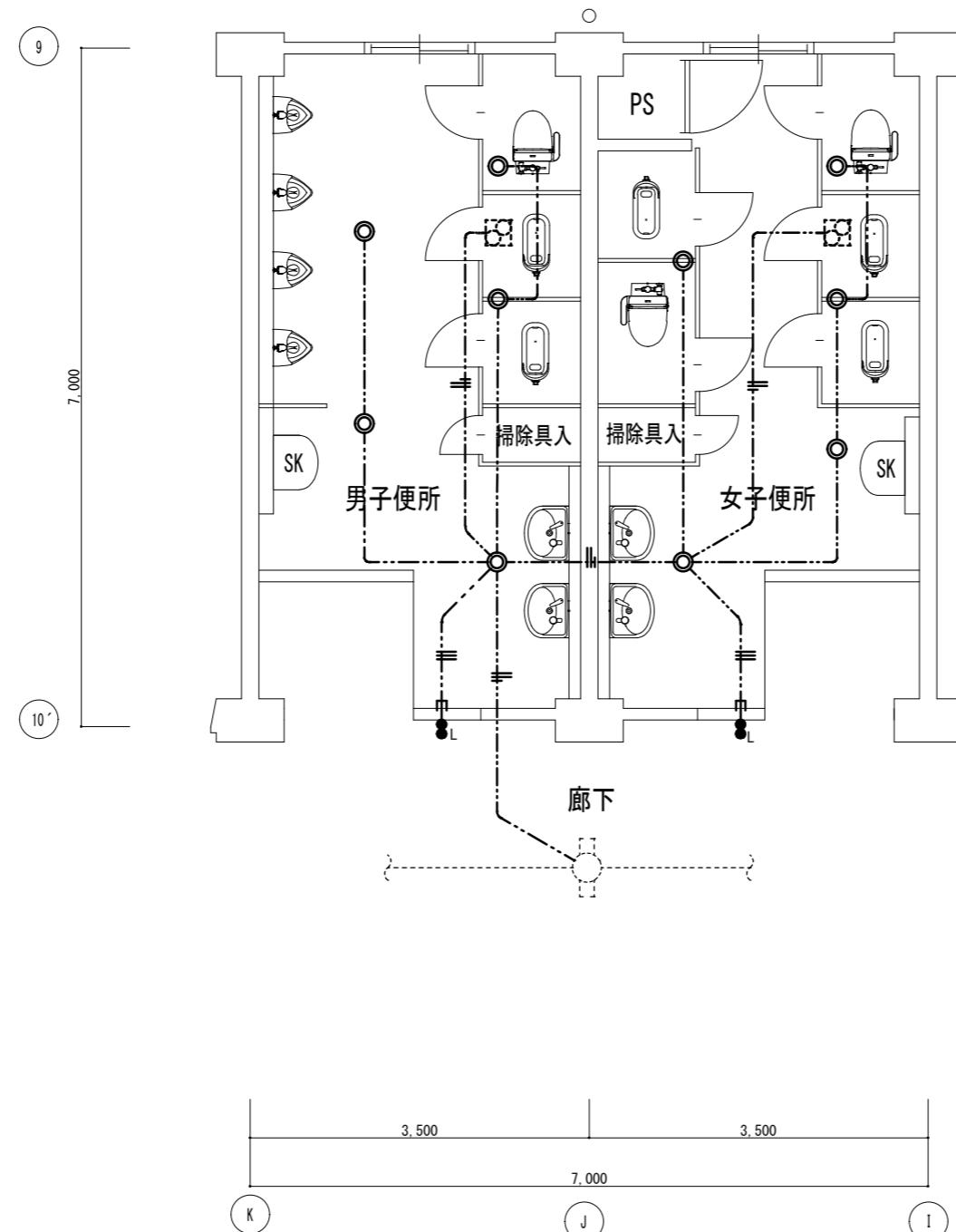
令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所	
1階平面図				野中建築設計事務所	
DW.	CK.	NO. E-05	DATE 03-09	1級建築士第147931号 野中健一 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408	



		令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所 野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一	
		1:200 SCALE	SCALE	SCALE	SCALE		
2階平面図							
DW.	CK.	NO.	E-06	DATE	03-09	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-200 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408	



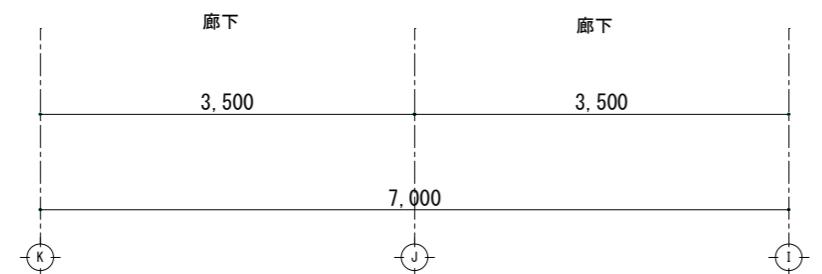
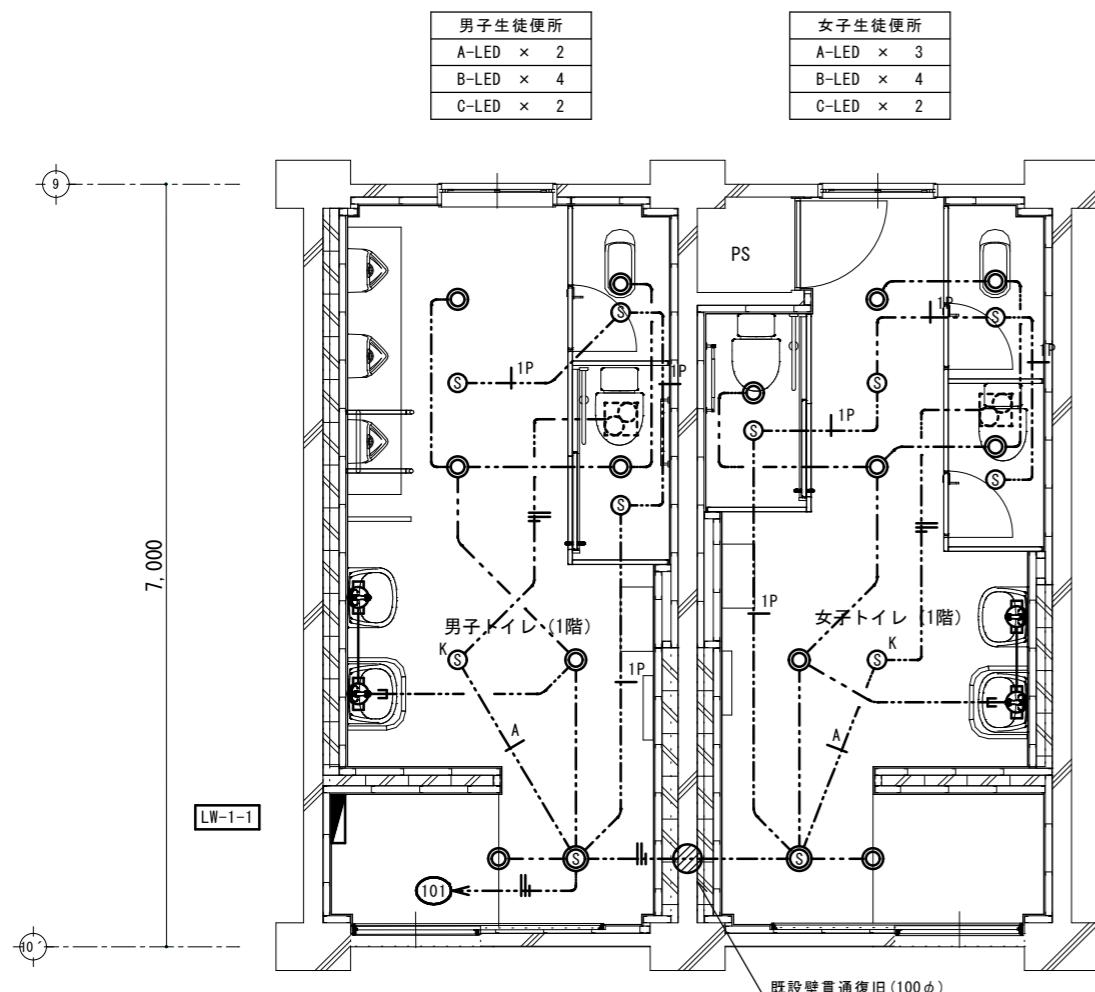
令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所 野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一
1:200 SCALE	SCALE	SCALE	SCALE	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408
3階平面図	DW.	CK.	NO. E-07	DATE 03-09



生徒用便所撤去図（1階～3階共通）

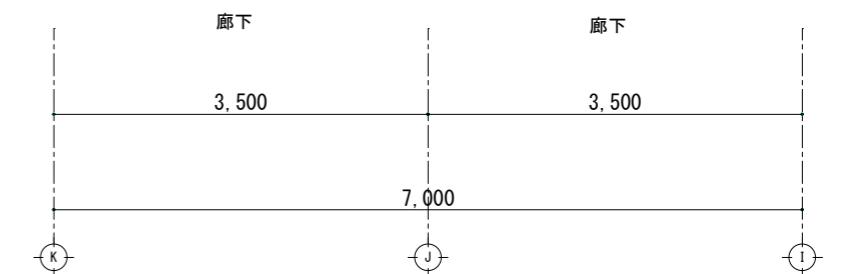
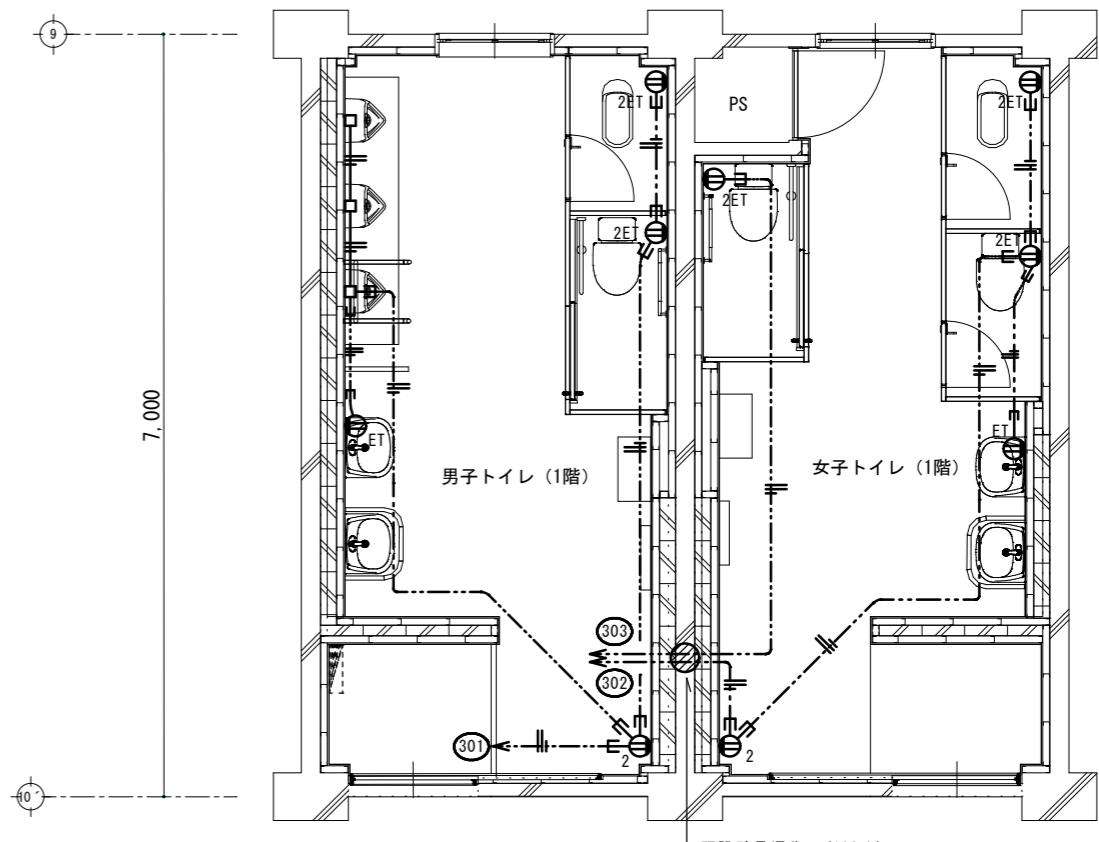
注記) 図中明記なき配管配線は下記に準ずる。	
-----	VVF 1.6-2C×1 (天井内コマガシ)
-■-----	VVF 1.6-3C×1 (天井内コマガシ)
-■-----	VVF 1.6-3C(1E)×1 (天井内コマガシ)
-■---E	VVF 1.6-3C×1 (E19)壁面立下り
○	天井埋込ダウンライト
●L	埋込スイッチ 1P15A×1+PLS4A×1
1. 図中記載の全ての機器及び配線を撤去する。	
2. 壁面埋込の配管は配線抜き取り撤去とする。	
3. 施工に先立ち現地調査を行ない、設計図に記載のない既設の機器、不使用で不要なもの、設計図の内容と異なるもの等がある場合は、対応方法を監督員と協議すること。	

	令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408
	現況平面図（和知中）		SCALE	SCALE	
	DW.	CK.	NO. E-08	DATE 03-09	



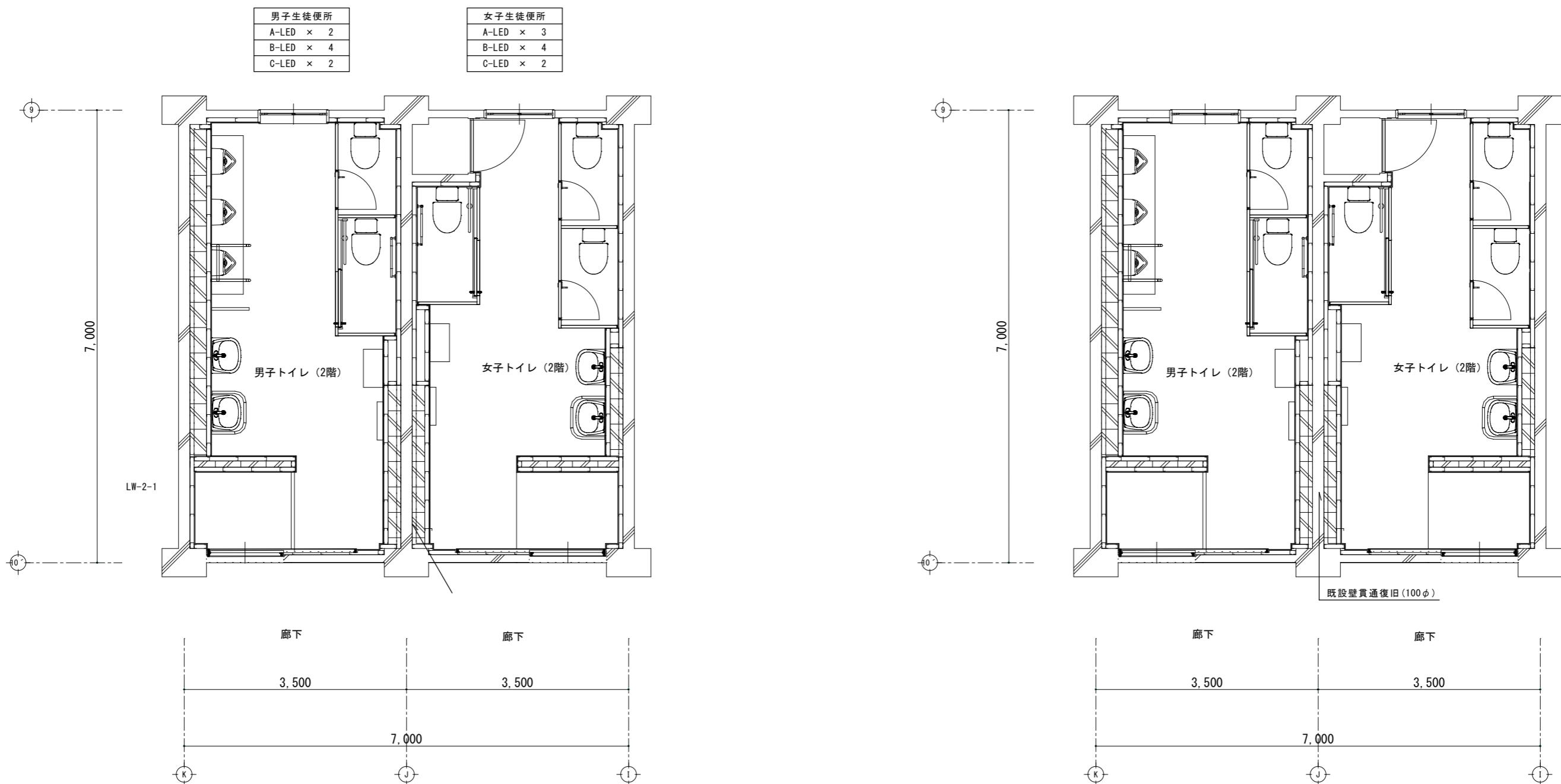
生徒用トイレ1階電灯設備図 1/50

注記) 明記なき配管配線は、下記に準ずる。	
【照明設備】	
-----	EM-EEF1.6-2C (天井内コロカシ)
-----	EM-EEF1.6-2C (PF16) (隠べい)
-----	EM-EEF1.6-3C(1E) (天井内コロカシ)
-----	EM-EEF1.6-3C(1E) (天井内コロカシ)
-----	EM-CPEE1.2-1Pr (天井内コロカシ)
-----	EM-CPEE1.2-1Pr (天井内コロカシ)
【コンセント設備】	
-----	EM-EEF2.0-3C(1E) (天井内コロカシ)
-----	EM-EEF2.0-3C(1E) (PF16) (隠べい)
・二重天井内及び壁立下り部分はケーブル配管工事とする。	
・図中 (S) 表示は、既設壁貫通処理(復旧共)を示す。	
機器凡例	
(S)	熱線センサ-自動スイッチ(親機) (WTK24818:パナソニック相当品)
(S)	熱線センサ-自動スイッチ(子機) (WTK2910K:パナソニック相当品)
(SK)	熱線センサ-自動スイッチ(換気扇用子機) (WTK29318:パナソニック相当品)



生徒用トイレ1階コンセント設備図 1/50

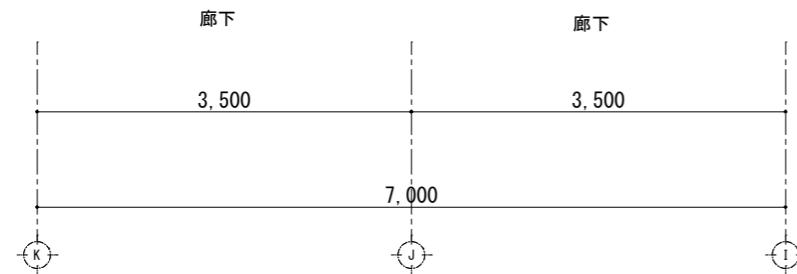
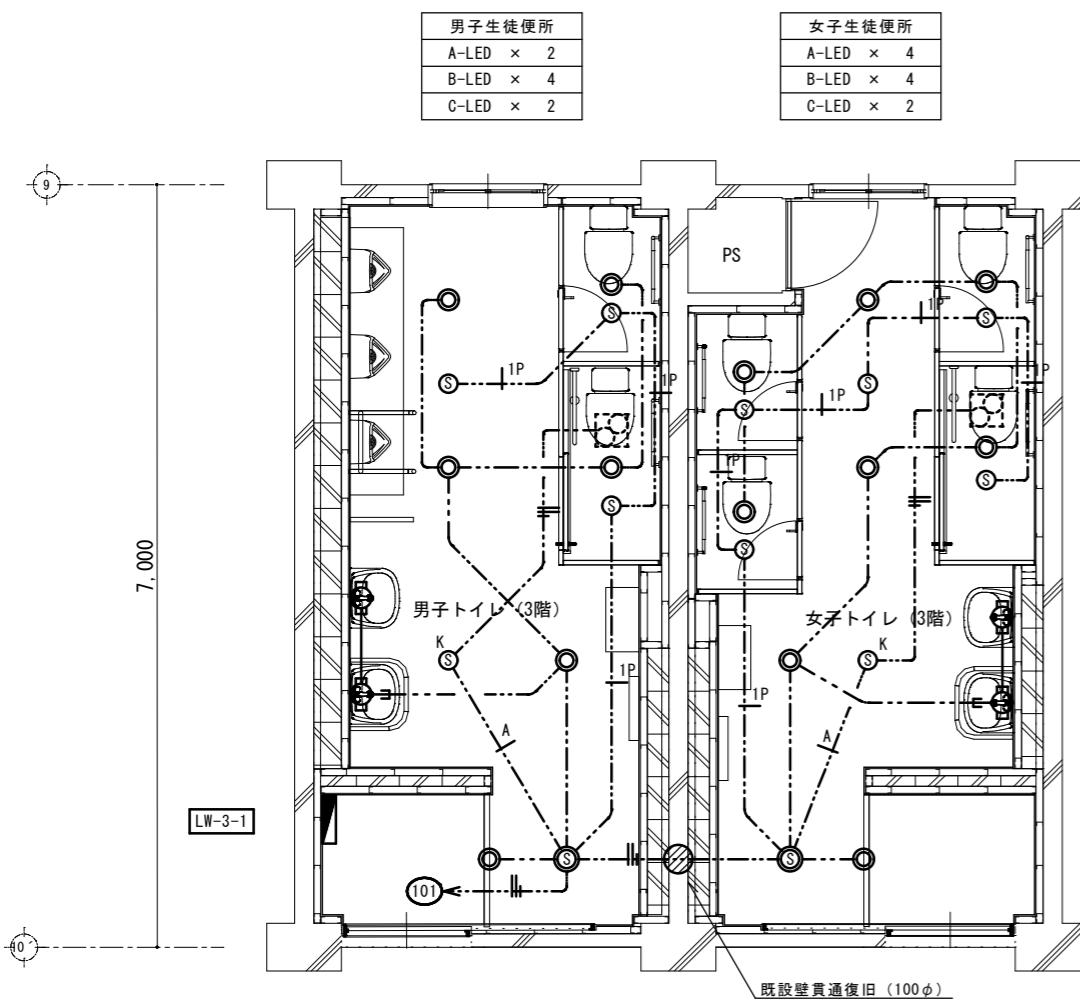
令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図 改修1階便所平面図	設計・監理 一級建築士事務所		
	1:50 SCALE	SCALE	SCALE
	DW.	CK.	NO. DATE
		E-09	03-09
			〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



生徒用トイレ2階電灯設備図 1/50

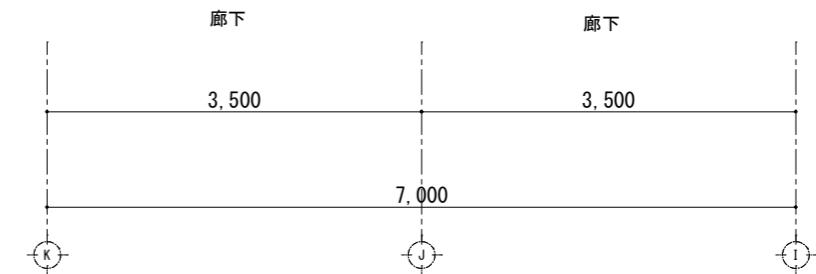
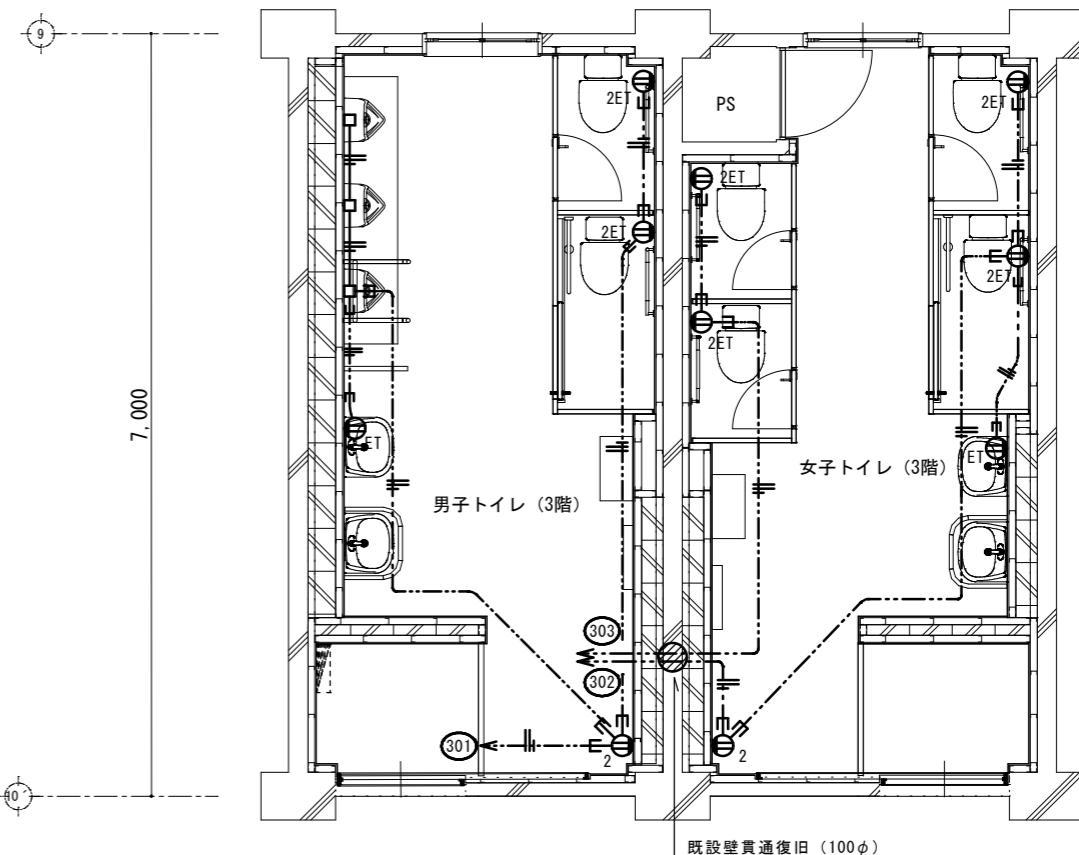
生徒用トイレ2階コンセント設備図 1/50

改修1階便所平面図	令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-0 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408
	1:50	SCALE	SCALE	SCALE	
	DW.	CK.	NO.	DATE	
			E-10	03-09	



生徒用トイレ3階電灯設備図 1/50

注記) 明記なき配管配線は、下記に準ずる。	
【照明設備】	
-----	EM-EEF1.6-2C (天井内コロカシ)
-----	EM-EEF1.6-2C (PF16) (隠べい)
----A----	EM-EEF1.6-3C(1E) (天井内コロカシ)
----A----	EM-EEF1.6-3C(1E) (天井内コロカシ)
----P----	EM-CPEE1.2-1Pr (天井内コロカシ)
----P----	EM-CPEE1.2-1Pr (天井内コロカシ)
【コンセント設備】	
----K----	EM-EEF2.0-3C(1E) (天井内コロカシ)
----K----	EM-EEF2.0-3C(1E) (PF16) (隠べい)
・二重天井内及び壁立下り部分はケーブルコロカシ工事とする。	
・図中 (○) 表示は、既設壁貫通処理(復旧共)を示す。	
機器凡例	
(○)	熱線センサー自動スイッチ(親機) (WTK24818:ハナソニック相当品)
(○)	熱線センサー自動スイッチ(子機) (WTK2910K:ハナソニック相当品)
(○K)	熱線センサー自動スイッチ(換気扇用子機) (WTK29318:ハナソニック相当品)



生徒用トイレ3階コンセント設備図 1/50

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図	設計・監理 一級建築士事務所		
	野中建築設計事務所		
	1級建築士第147931号 野中健一		
改修1階便所平面図	1:50 SCALE	SCALE	SCALE
DW.	CK.	NO. E-11	DATE 03-09
			〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-0 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

機械設備工事特記仕様書 No.1

【工事概要】
1 工事場所 京都府船井郡京丹波町市場丸ヶ野4番地

2 建物概要

建物名	構造	階数	延床面積 (m ²)	消防法令別表第一耐震安全性の分類	備考
				○甲 ○乙	
				○甲 ○乙	
				○甲 ○乙	

3 工事科目 ●印をついたものを適用し、各一式とする。

建物名称	工事科目	内 容	大きさ	部 数
空気調和設備	○	○	○	
換気設備	○	○	○	
排煙設備	○	○	○	
自動制御設備	○	○	○	
衛生器具設備	●	○	○	
給水設備	●	○	○	
排水設備	●	○	○	
給湯設備	○	○	○	
消火設備	○	○	○	
ガス設備	○	○	○	
厨房機器設備	○	○	○	
浄化槽設備	○	○	○	
医療ガス設備	○	○	○	
撤去工事	●	○	○	

【特記事項】

1 一般事項
1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官公廳營繕部の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）平成三十一年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）平成三十一年版（以下「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）平成三十一年版」による。
2) 工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は該当図面及び標準仕様書による。

2 特記事項
項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、●印を適用する。

章	項 目	特 記 事 項
一	※設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承認を受ける。 ◆京都市ホームページ参照 <http://www.pref.kyoto.jp/zaisan/kankyo.html>
	※機材の承諾	機材の承諾に際しては、原則として国土交通省大臣官房官公廳營繕部建築課営繕技術管理室監修の機械設備工事機材承諾図様式集（最新版）によるものとする。
	※機材の品質・性能証明	使用する機材が、（公社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1.4.2(3)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができます。 ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	※現場代理人	本工事の施工に当たっては、請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	※電気保安技術者	※適用する ○適用しない
	○技能士（一級）	※配管（配管工事） ○建築板金（ダクト製作及び取付け） ○冷凍空気調和機器施工
	※工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	※官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかにい、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	※工事用仮設物	構内につくることは、○できる ○できない
	※足場・作業構台	別契約の関係者・受注者が定置したものは、無償で使用できる。
	※監督職員事務所	設置する（○本工事 ○別途）
	※監督職員事務所に備え付ける図書	下記の図書を監督職員事務所に備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編） ・機械設備工事監理指針 ・建築設備耐震設計施工指針 ・工事写真撮影ガイドブック機械設備工事
	※建設副産物の処理及び建設発生土の処理	○建設副産物の処理 ○引き渡しを要するもの ○再生資源利用を図るもの ○特別管理産業廃棄物 ○PCB使用機器 ○臭化リチウム ○
	○建設発生土の処理	○構外指定地に搬出処理 ※（一財）城陽山砂利採取地整備公社 右記のほか、現場説明書による （運搬及び処分費は、○本工事 ○別途） ○構内指定場所に敷き均し
	再生資源利用（促進）計画・実施書の提出	詳細は現場説明書「II特記事項 14 建設副産物の取扱い 2) 再生資源利用（促進）計画・実施書について」による。 1) 「建設発生土処理計画書」及び「建設副産物等処理計画書」を監督職員に提出する。 2) 関係法令等に従い、適正に発棄物等を処理し、「建設発生土処理報告書」及び「建設副産物処理報告書」により監督職員に報告する。 3) 冷媒については関係法令に従い適切に破壊処分を行う（家電リサイクル法対象機器を除く）。 (積込：※本工事 ○別途、処分費：※本工事 ○別途、運搬費：※本工事 ○別途)
	○アスベストの処理等	1) 次の資機材のアスベスト含有の有無による。 ○ダクトパッキン ○含有 ○不含 ○要調査(分析資料数：) ○配管エルボ部保温材 ○含有 ○不含 ○要調査(分析資料数：) ○焼成熱材 ○含有 ○不含 ○要調査(分析資料数：) ○アスベスト成形材 ○含有 ○不含 ○要調査(分析資料数：) アスベスト成形材の処理等 施工調査 アスベスト成形材の撤去に当たり、あらじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形材使用部位の確認・アスベスト成形材の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形材使用数量の確認・施工範囲等の確認 確認範囲 ※成形材の製造年等の確認 ○X線解析法 2) アスベスト含有調査は以下のとおりとする。 (ただし、調査費用は、※本工事 ○別途 とする。) ※JIS A 1481-2 「建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法」又はJIS A 1481-3 「建材製品中のアスベスト含有方法-第3部：アスベスト含有率のX線回折定量分析方法」による。 3) アスベスト含有資機材は関係法令に従い適切に処理する。 調査の結果アスベスト含有が確認された場合の処理方法は監督員との協議による。

章	項 目	特 記 事 項
一	※工事関係書類	營繕工事契約関係書類提出書類書式集・一覧表により提出。 ◆京都府k-ja-9 参照 <http://www.pref.kyoto.jp/eizen/index.html>
	※履行報告	月報 ※2部 ○3部 每月末に〆め、翌月の5日までに提出する。
	※工事写真	1) 國土交通省大臣官房官公廳營繕部監修「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編(最新版)」による。 2) 工事完成時、整理の上、1部提出する。 3) デジタルカメラで撮影可とする。
	※完成図書	名 称 内 容 大きさ 部 数 ○完成図 金文字製本 A4版 1部 ○完成図 ○背貼り製本（版） ○A4ファイル止め 2部 ○施工図 ○背貼り製本（版） ○A4ファイル止め 2部 ○機器完成図等 機器製作図 ファイル止め A4版 2部 保守指導案内書（機器取説書を含む） 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書 ○諸官庁提出書類 副 本 1 式 ○原図 完 成 図 1 部 ○完成写真 アルバム綴り 2部 電子納品について、現場説明書による。
	※著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。 標準仕様書によるほか、別表1による。
	※付属品及び備品	標準仕様書によるほか、別表1による。
	※総合試運転調整（測定共）	○風量調整（測定共） ○水量調整（測定共） ○室内外空気の温湿度測定
	（測定結果は報告書にて提出）	○室内気流及びじんあいの測定 ○騒音の測定 ○飲料水の水質の測定 ○雑用水の水質の測定
	○耐震施工	1) 機器の固定は、国土交通省国土技術政策組合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。 2) 下記の設計用水平震度（KHN）により、機器製作固定を行なう。 設 置 場 所 ○特定の施設 ○一般的の施設 重要機器 一般機器 重要機器 一般機器 上層階、屋上及び塔屋 2.0 (2.0) 1.5 (2.0) 1.5 (2.0) 1.0 (1.5) 中 間 階 1.5 (1.5) 1.0 (1.5) 1.0 (1.5) 0.6 (1.0) 1 階 及 び 地 下 階 1.0 (1.0) 0.6 (1.0) 0.6 (1.0) 0.4 (0.6) 設 置 場 所 ○特定の施設 ○一般的の施設 水 槽 水 槽 上層階、屋上及び塔屋 2.0 1.5 中 間 階 1.5 1.0 1 階 及 び 地 下 階 1.5 1.0
	注 1	耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設を、乙類の建物は一般的の施設を適用する。屋外に設置する機器は建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。
	注 2	（ ）内の数値は、防震支障の機器の混合に適用する。
	注 3	設計用鉛直震度は、設計用水平震度の1/2とする。
	注 4	上層階の定義は、6階建築以下の場合は最上階、7～9階建の場合は上階2階。
	注 5	重要機器（水槽類）は、下記に示すものとする。（水槽類にはオイルタンク等を含む。） 〔 〕
	注 6	「建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」による形鋼振れ止め支持を行なう場合は、S種とする。ただし、取付け金物については標準図に準ずる。
	●一般用弁	標準仕様書第2編2.2.2.1(ア)～(シ)によるほか、下記による。 1) 水道直結部及び図面特記部の耐震は10K以上、その他は5K以上とする。 2) 離水・給湯用の青銅弁は、給水用青銅弁を使用する。
	○フレキブルジョイント	機器間に取付けるフレキブルジョイントは、鋼板に対してはペローズ形、FRPに対しては合成ゴム製とする。
	○伸縮管継手（鋼管用）	鋼管用伸縮管継手は下記による。 ○ペローズ形 ○スリーブ形
	○溶接接合	溶接部の非破壊検査は、 ○適用しない ○適用する（○放射線透過検査 ○浸透深傷検査又は磁粉深傷検査）
	○地中埋設部及び埋設表示用テープ	1) 給 水 管 地中埋設管 ○要 ○不要 埋設表示用テープ ○要 ○不要 2) 消 火 管 地中埋設管 ○要 ○不要 埋設表示用テープ ○要 ○不要 3) ガ ス 管 地中埋設管 ○要 ○不要 埋設表示用テープ ○要 ○不要 4) 油 管 地中埋設管 ○要 ○不要 埋設表示用テープ ○要 ○不要 5) ブライアン管 地中埋設管 ○要 ○不要 埋設表示用テープ ○要 ○不要 用途表示のあるテープ（幅は150mm以上）、2倍長以上重ね合わせて使用する。
	○防食処理	土中埋設の排水用塩ビパイピング鋼管は、防食処置を行なう。
	●保温	1) 保溫材の使用は、下記による。 給水管・排水管 ●ポリチレンフォーム保溫材 ○ 排煙ダクト・煙道・排気筒 ○ロックワール保溫材 ○ その他 ○グラスワール保溫材 ○ 2) 影張管及び膨張水槽からの補給水管の保温は、冷涙水管に準する。 3) 鋼板製タンクの保温 ○必要 ○不要 4) 保溫を施す膨張水槽等の蓋の保温 ○必要 ○不要 5) エア抜管の保溫は2.0mmとし、仕様は当該配管の項に準する。また、保溫を行う範囲はエア抜弁までとする。 6) 露出配管の保温外装種別は、下記による。 ・屋内 ○合成樹脂カバー1 ○合成樹脂カバー2 ○ ・屋外 ○ステンレス鋼板 7) 弁、ストレーナ等の金属製カバー外装種別は、下記による。 ・屋内 ○カラーベニア板 ○ステンレス鋼板 ○ ・屋外 ○カラーベニア板 ○ステンレス鋼板 ○ 8) 車庫内のダクト及び配管の保温は、機器室による。 9) 合成樹脂製支持受 ○硬質ウレタンフォームに準するもの ○ビーズ法ポリチレンフォームに準するもの
	○塗装	標準仕様書による地下配管は塗装(指定色塗装)を行なう。ただし保溫を行う配管ダクトを除く ○屋外(○ダクト ○配管) ○屋内P.S・E.P.S(○ダクト ○配管) ○屋内機器室・電気室(○ダクト ○配管)
	○吹出口及び吸込口	ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛板製とする。ただし、グラスワール製とする場合はJ IS A 4009（空気調和及び換気設備用ダクトの構成部材）によるものとし、厚さ0.6mm以上の亜鉛板で補強を施したものとする。 ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによらない場合は監督職員との協議による。
	○スリーブ製ダクトの板厚	スチールス製ダクトの板厚は JIS A 4009_2017による
	○ボックス	P.F管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。
	○容量等の表示	機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。
	○誘導電動機	電動機出力が0.75kW以上の低圧三相か二相形誘導電動機の規格は、J I S C 4213 (低圧三相か二相形誘導電動機-低圧トランシーバーモータ)による。
	○開放形膨張タンク等	開放形膨張タンク、補給水タンク及び消火用充水タンクの材質は次による ○鋼板製 ○ステンレス鋼板製
	○電線及び電線管	電線及び電線管については標準仕様書第4編第1章第5節による

章	項 目	特 記 事 項
一	●はつり	1) 既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2) 復旧はモルタル補修までとする。
	○インサート及びアンカー	あと施工アンカー等を行う場合は、改修標準仕様書第2編第5章による。 施工後確認試験 ○行なう（国土交通省大臣官房官公廳營繕部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年度）による。） ○行わない
	○防煙ダンパー及び防火防煙ダンパー	復帰方式は ○遠方復帰式（電気式（定格入力 DC 24V O. 6A以下）） ○手動復帰式
	○消音内貼	ダクト及びチャンバー、消音エルボの内貼り（箇所示図）は下記による。 ・消音内貼り部分の外部保温は ○不要 ○必要 ・チャンバーの寸法は、外形寸法を示す。 (ただし、ダクト及び消音エルボは、内形寸法を示す。) ・点検口は内貼り仕様又は断熱戸とする。
	○ドレン抜き	外壁に面

章	項目	特記事項	
空気調和設備	○鋼板製煙道	厚さ ○3.2mm ○4.5mm ○ばい煙濃度計の取付座 ○ばいじん量測定口 ○伸縮継手 ○排除口	
	○ばい煙濃度計	○ファン付 ○ファンなし (電源は熱源機器付属制御盤より取り出し、配管配線共本工事に含む)	
	○瞬間流量計	○固定形 個 ○着脱可能形 (測定期タッピング 個 本体 個)	
	○保温 (図面特記部分は除く)	1) 冷媒管の保温外装は下記による。 ・室内 隠れ部 ○不要 ○必要 露出部 ○保温化粧ケース(塩化ビニル樹脂製) ○ ・室外 ○ステンレス鋼板 ○保温化粧ケース (○樹脂製 ○アルミ合金製 ○ステンレス鋼板製 ○溶融亜鉛メッキ鋼板製) ・保温化粧ケースの下部カバー ○必要 ○不要 2) ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3) 加湿用給水水槽の保温は膨張タンクに準する。 4) ドラフ内の油管はプラスチックテーブ1/2重ね1回巻きとする。	
	●ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーポート工法(○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法) ●スパイラルダクト	
	○ダクトの分岐方法	給気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式	
	○厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。	
		ダクトの長辺 450mm以下 450mmを超える1200mm以下 1200mmを超える1800mm以下 1800mmを超えるもの	板厚 0.6mm 0.8mm 1.0mm 1.2mm
	○排気フード	1) 排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ○ステンレス鋼板(補強共) ○亜鉛鉄板 2) 排気フード週りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 ○本工事 ○別途工事 3) グリスフィルターの準備 ○不要 ○必要	
	○保温	浴室・厨房(多湿箇所)の外気取入ダクトの保温 ○不要 ○必要 外気取入ダクトの保温(空調を行っている室について) ○不要 ○必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温(空調を行っている室について) ○不要 ○必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温(空調を行っている室について) ○不要 ○必要 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による。	
排煙設備	○排煙対象部分	○廊下 ○事務室 ○図示 ○最大面積 m ²	
	○ダクトの種別	○高圧1ダクト ○高圧2ダクト	
	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法	
	○ダクトの材料	○亜鉛鉄板製 ○普通鋼板製	
	○排煙口	1) 形状 ○ストリットフェース形 ○バネル形 ○ダンパー形 2) 排煙口の開放 ○手動 (○機械式 ○電気式) ○煙感知器連動 3) 復帰装置 ○手元復帰式 (○手動式 ○電気式) ○遠方復帰式 4) ダンパー本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管は別途工事とする。	
自動制御	○保温	床下及び暗渠内の保温 ○不要 ○必要(図示)	
		※図面による。	
衛生器具設備	●小便器用節水装置	電気供給方式 ●AC電源 ○乾電池 ○水流発電充電池	
	●自動水栓	電気供給方式 ●AC電源 ○乾電池 ○水流発電充電池	
	○大便器用洗浄弁	手動スイッチ ○無し ○有り	
	○水石けん入れ	○手洗器一体型 ○手洗器分離型 ○	
	○身障者用器具	1) 大便器洗浄弁 ○センサー式 ○タッチスイッチ式 2) 洗面器の水栓は自動水栓とする。	
給水設備	●給水方式	○水道直結方式 ●高置タンク方式 ○増圧ポンプ方式(水道用直結加压形ポンプユニット) ○ポンプ直送方式(小型給水ポンプユニット)	
	●配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○ステンレス鋼管(SUS304) (呼び径605mm以下は拡管式、呼び径755mm以上は溶接接合) ○ヒビリ管(HI VP) ○ポリ粉体ライニング鋼管(SGP-P A, SGP-F P A) ●塩ビライニング鋼管(SGP-V A, SGP-F V A) ○	
	地中配管[室内]	○ステンレス鋼管(SUS316) (呼び径605mm以下は拡管式、呼び径755mm以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン管(50φ以下)(※2種 ○1種) (ポリエチレン管の接合方法は ○電気融着 ○メカニカル) ○ヒビリ管(HI VP) ○ポリ粉体ライニング鋼管(SGP-P D, SGP-F P D) ○塩ビライニング鋼管(SGP-V D, SGP-F V D) ○	
	地中配管[屋外]	○ステンレス鋼管(SUS316) (呼び径605mm以下は拡管式、呼び径755mm以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン管(50φ以下)(※2種 ○1種) ○ヒビリ管(HI VP) ○ポリ粉体ライニング鋼管(SGP-P D, SGP-F P D) ○塩ビライニング鋼管(SGP-V D, SGP-F V D) ○	
	○緊急遮断弁装置	○要 ○不要 駆動方式 ○電気式 ○機械式	
	○量水器	○現地表示式(直読式) ○遠隔表示式	

章	項目	特記事項	
給水設備	○水栓柱	○合成樹脂 (70×70×1300H) ○ステンレス製 () ○アルミニウム合金製 () 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。	
	○管の埋設深さ	1) 一般敷地 ○300mm ○ 2) 構内車両通路 ○600mm ○ 3) 寒冷地では凍結深度以上とする。	
	○加入金・負担金	○不要 ○必要(○別途 ○本工事)	
	○本管引込工事	○本工事 ○別途工事	
	●排水方式	汚水と雑排水 [屋内] ○分流式 ○合流式 ○分流式 ○合流式 ○有り(○雑排水 ○汚水 ○雨水 ○湧水 ○净化槽2次側) ○なし	
	●放流式	汚水 雑排水 雨水ポンップアップ 通水ポンップアップ	●直放流水管 ○净化槽 ○ ●直放流水管 ○净化槽 ○別途梯・側溝 ○直放流水管 ○雨水側溝 ○雨水梯 ○直放流水管 ○雨水側溝 ○雨水梯
	●配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内雑排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 ●鋼管(SGPW) (○ねじ接合 OMDジョイントによる接合) ●ビニル管(VP) ○耐火二層管 ○	屋内汚水排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 ●ビニル管(VP) ○RF-VP ○耐火二層管 ○
	通気管	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) ○鋼管(SGPW) (○ねじ接合 OMDジョイントによる接合) ●ビニル管(VP) ○耐火二層管 ○	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(RS-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) ○ビニル管(VP) ○ビニル管(VU)
	地中配管[屋内]	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(RS-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) ○ビニル管(VP) ○ビニル管(VU)	地中配管[屋外] ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(RS-VU) ○ビニル管(VP) ○ビニル管(VU) ○コンクリート管
	地中配管[屋外]	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(RS-VU) ○ビニル管(VP) ○ビニル管(VU)	鋼管類のポンップアップ排水用の配管は、塩ビライニング鋼管(SGP-V A, SGP-F V A) (地中配管はSGP-V D, SGP-F V D) とし、継手はフランジ又はハウジング形継手とする。
給湯設備	○満水試験継手	○必要(図示箇所に取付ける) ○不要	
	○負担金	○不要 ○必要(○別途 ○本工事)	
	○本管接続工事	○本工事 ○別途工事	
	○給湯方式	○中央式 ○局部式	
	○配管材料	○鋼管(壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。) ○ステンレス鋼管 ○耐熱性塩ビライニング鋼管 ○保温付き被覆鋼管	
消火設備	○保温	ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第2編3, 1, 5の表2, 3, 5による。	
	○消防設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー [○] ○泡消火 ○不活性ガス消火 () ○連結送水管 ○	
	○表示灯	屋内消火栓箱には、消火ポンプ運転表示灯取付用口を設ける。	
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○配管用炭素鋼管(白) 手動配管 ○圧力配管用炭素鋼管(白) ○	
	屋内外地中配管	○外面被覆鋼管(SGP-V S)	
設備	○保温	消防用充水タンクの保温を (膨張タンクによる) ○施工しない 消防用呼水タンクの保温を ○施工しない ○施工する(膨張タンクによる) 屋外露出管の保温を ○施工しない ○施工する(給水管の保温仕様に準ずる) 屋内露出管の保温を ○施工しない ○施工する(給水管の保温仕様に準ずる) トレンチ内の保温を ○施工しない ○施工する(給水管の保温仕様に準ずる)	
	○ガスの種類	○都市ガス (発热量 ○45,000kJ/N m ³ ○ KJ/N m ³) ○液化石油ガス (○50kg 本立 ○20kg 本立)	
	○ガスメーター	親メーター ○貸与品 ○購入 子メーター ○貸与品 ○購入	
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○配管用炭素鋼管(白) 屋内外地中配管 ○ポリエチレン被覆鋼管 ○ガス用ポリエチレン管 ○	
	都市ガスの場合、供給者仕様による。		
備	○地中埋設管の接合法	○SGM工法 ○ネジ工法 ○PE管工法	
	○ビット内施工法	○溶接工法	
	○負担金	○不要 ○必要(○別途 ○本工事)	
	○本管接続工事	○本工事 ○別途工事	
	設さく井	○バーカッショナ式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式 ○孔口保護管 ○ケーシング材質 ○配管用炭素鋼管(黒管) ○配管用ステンレス鋼管	

章	項目	特記事項	
地中熱交換設備	○掘削工法	○回転振動式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式 ○ロータリーバーカッショナ式	
	○機器	安全装置の適用は図面による。	
	○形式	○ユニット形 ○現場施工形	
	○処理方法	○小規模合併処理(別紙参照) ○合併処理(別紙参照)	
	○医療ガラス	※図面による。	
	○保温材	保温材は、配管・ダクト等により分離する。	
	○支持金物等	ダクト及び配管等の支持金物及び吊り金物は本工事にて撤去する。	
	●発生材の処理	●金属類 (●機器類 ●ダクト ○配管 ○その他の金属) の処理は (○物品管理者に引き渡し ●構外搬出適切処理) とする。 ○特別管理産業廃棄物 ○ ○ の処理は (○別途 ○構外搬出適切処理) とする。 ●上記以外のもの ○ ○ の処理は (○別途 ●構外搬出適切処理) とする。	
	撤去工事		

別表 1 付属品・予備品
 ○工具箱(ドライバー、モンキーレンチ、組スパンナー、ハンマー)
 ○マンホールフック ○バイプレンチ ○ポンプブライヤー ○ラバーカップ(大、小)
 ○イージーキャビネット 箱 ○キーボックス
 ○盤類予備品(ランプ及びヒューズの100%)

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

SCALE SCALE SCALE

機械設備工事 特記仕様書(2)

DW. CK. NO. DATE

M-02 03-09

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

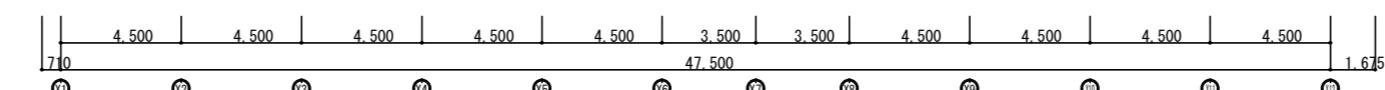
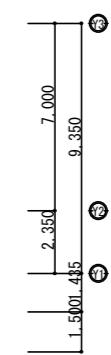
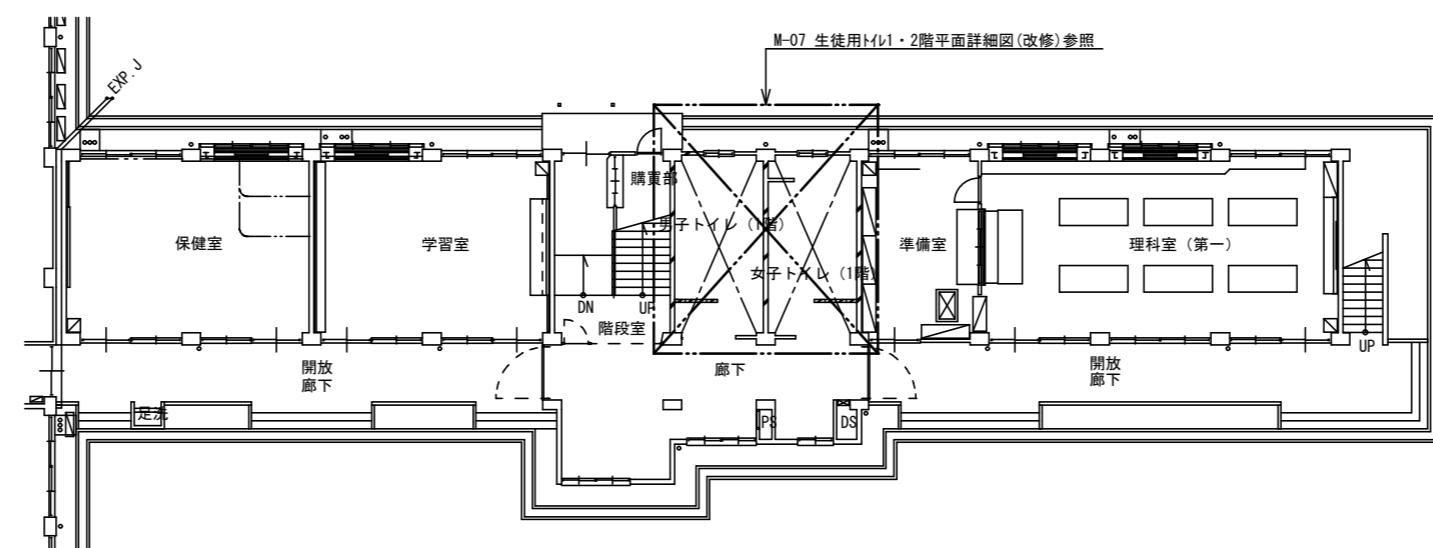
1級建築士第147931号 野中健一

T 622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

TEL 077-62-0288 FAX 077-62-0408

器具リスト											
器具名	品番	器具名	附 屬 品	備 考	1 階		2 階		3 階		T O T A R
					男 子 便 所	女 子 便 所	男 子 便 所	女 子 便 所	男 子 便 所	女 子 便 所	
洋風便器	CS597BS	TOTO	SH596BAYR, TCF5534AU, YH702	他附属品一式共	1	2	2	3	2	4	14
和風便器	C755VU	TOTO	TV550S, TSF290BR, YH702	他附属品一式共	1	1					2
小便器	UFS900R	TOTO	AC100V, 節水タイプ	他附属品一式共	3		3		3		9
手洗器	L210C	TOTO	TLG04101J, TLDP2105J, TL4CFU, TL250D	他附属品一式共	1	1	1	1	1	1	6
手洗器	L210C	TOTO	TENA41A, TLDP2201J, TL250D	他附属品一式共	1	1	1	1	1	1	6
小物収納パネル	UTR421S	TOTO	掃除用流しセットアクセサリー		1	1	1	1	1	1	6
モップ掛けパネル	UTR422S	TOTO	掃除用流しセットアクセサリー		1	1	1	1	1	1	6
手すり	T114CL9R	TOTO	L型		1	1	1	1	1	1	6
手すり	T114CU22R	TOTO	小便器用		1		1		1		3
手すり	2460-34	カクダイ	洗面器・手洗器用		1	1	1	1	1	1	6
手すり	T114CP22R	TOTO	腰掛便器用		1	1	1	1	1	1	6
ハンドグリップ	YHB203	TOTO			1	1					2
化粧鏡	YM4560F	TOTO	耐食鏡, 450×600		2	2	2	2	2	2	12

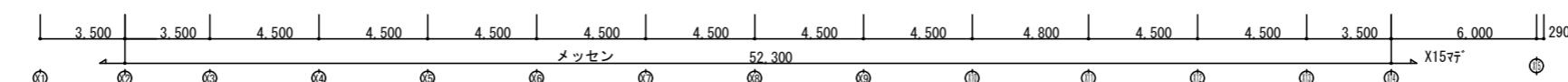
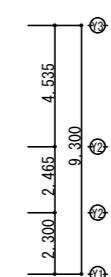
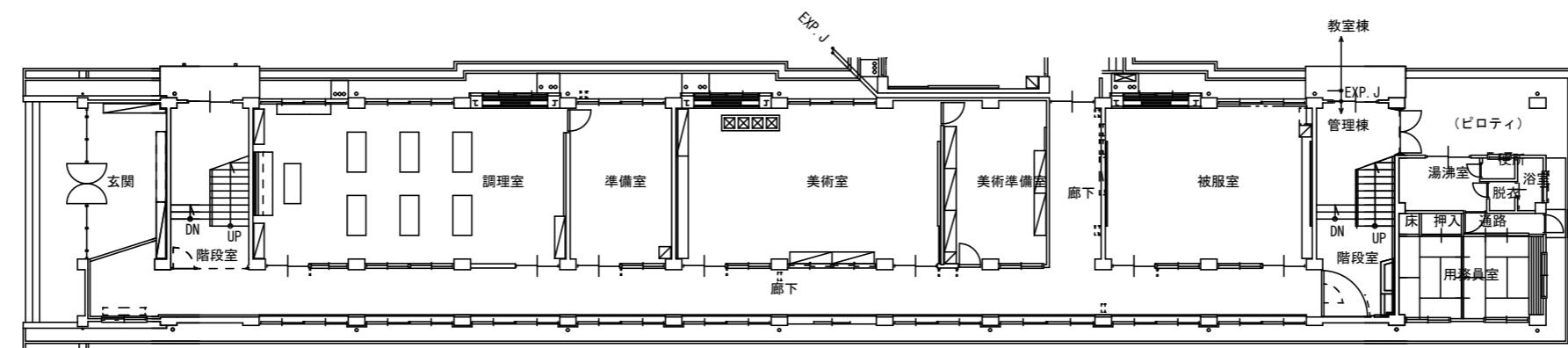
	令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所 野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408
	SCALE	SCALE	SCALE		
	機械設備工事 器具リスト(衛生設備)				
	DW.	CK.	NO. M-03 DATE 03-09		



管理棟 教室棟

教室棟 1階平面図 S:1/200

(改修)



管理棟 1階平面図 S:1/200

(改修)

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

機械設備工事 1階平面図(改修)(衛生設備)

DW.

CK.

NO.

M-04

DATE

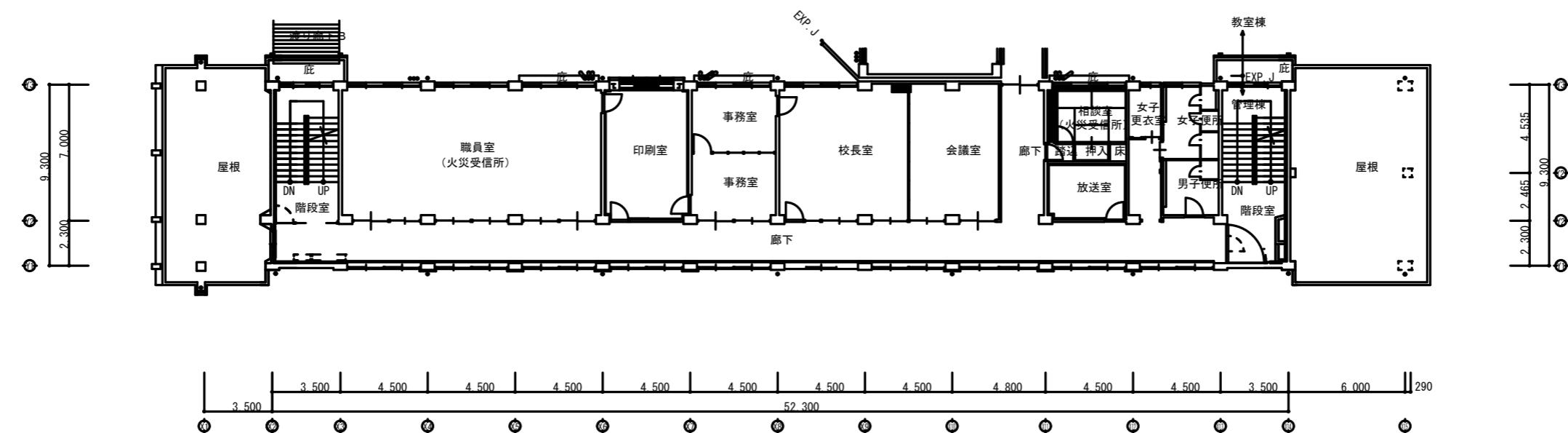
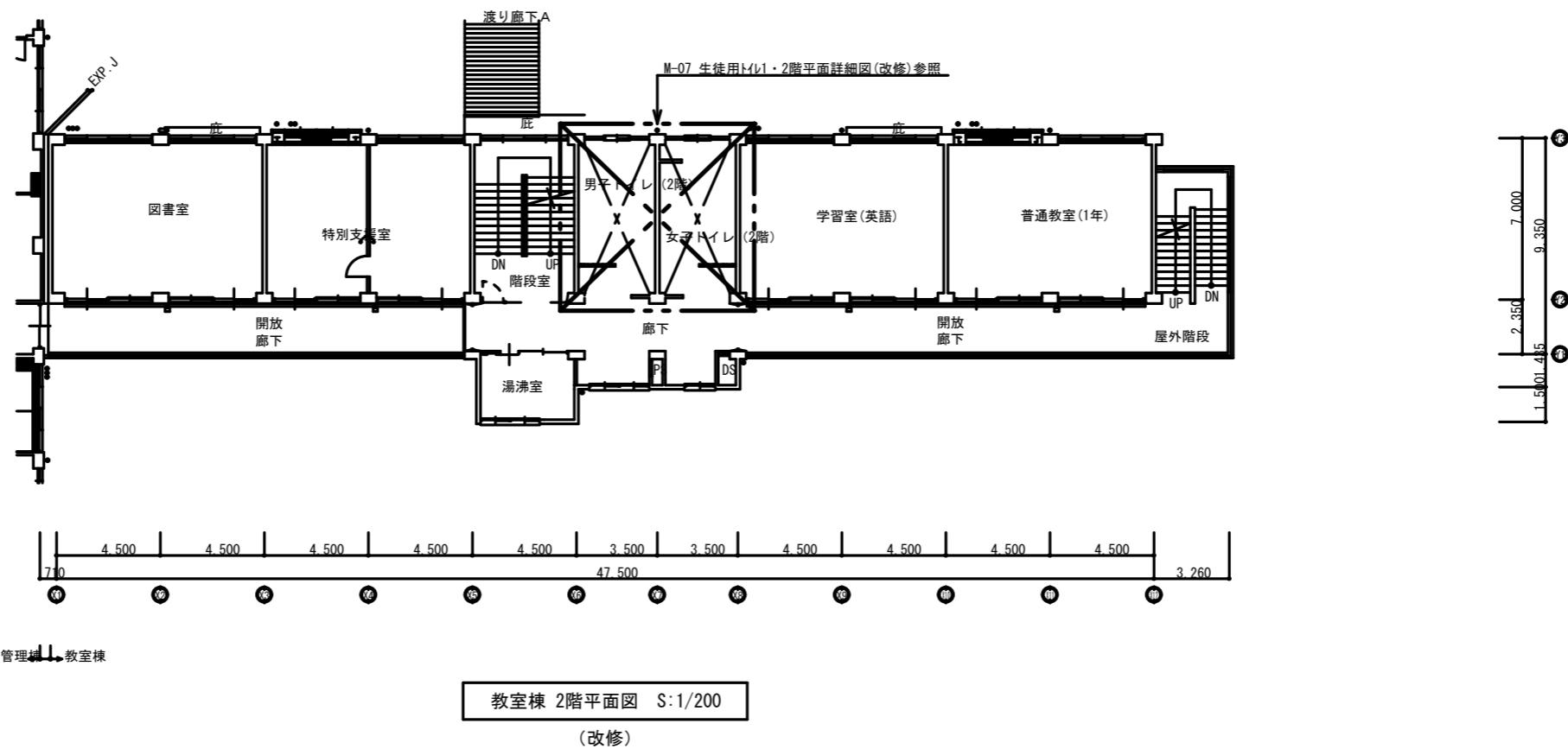
03-09

設計・監理 一級建築士事務所
野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



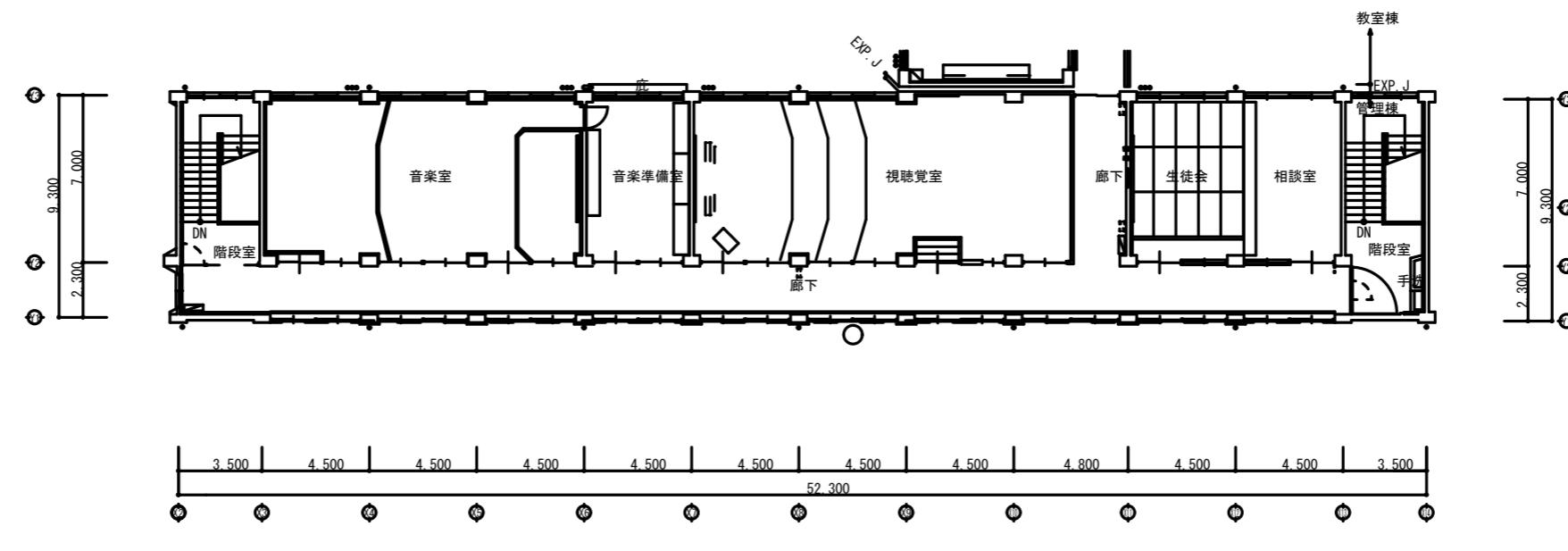
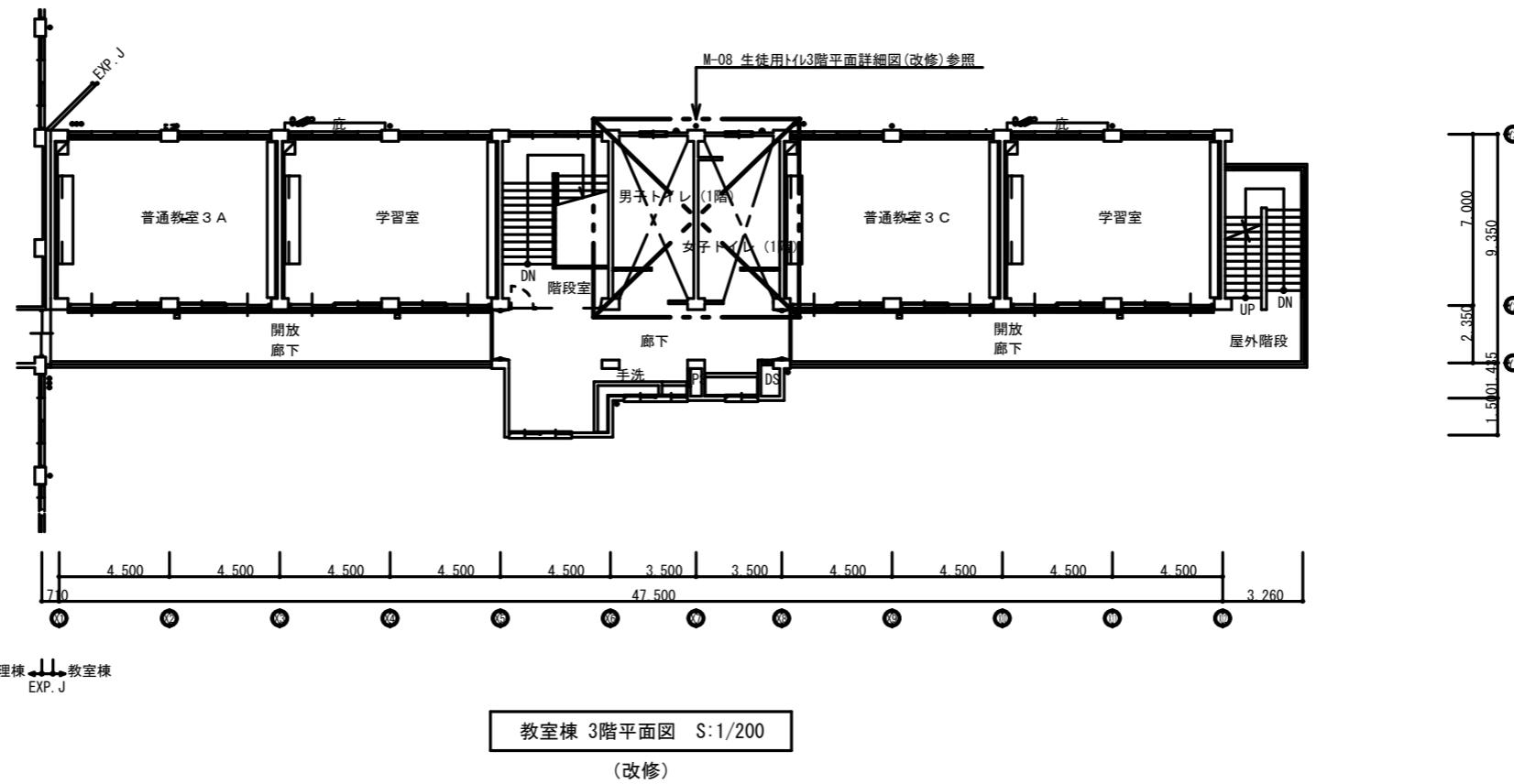
管理棟 2階平面図 S:1/200

(改修)

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

機械設備工事 2階平面図（改修）（衛生設備）

設計・監理 一級建築士事務所
野中建築設計事務所
1級建築士第147931号 野中健一
〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



管理棟 3階平面図 S:1/200

(改修)

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

機械設備工事 3階平面図 (改修) (衛生設備)

DW.

CK.

NO.

DATE

M-06

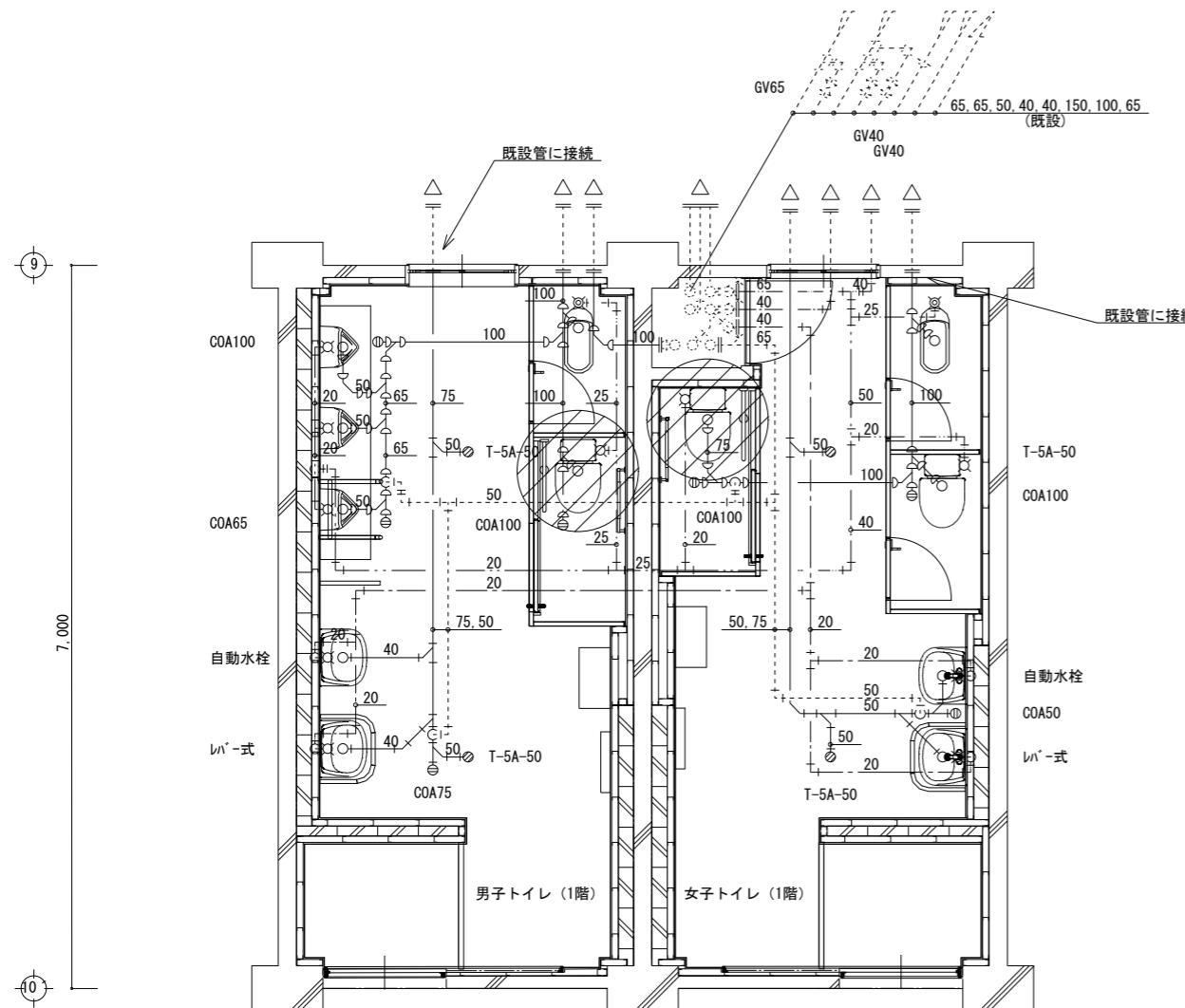
03-09

設計・監理 一級建築士事務所
野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

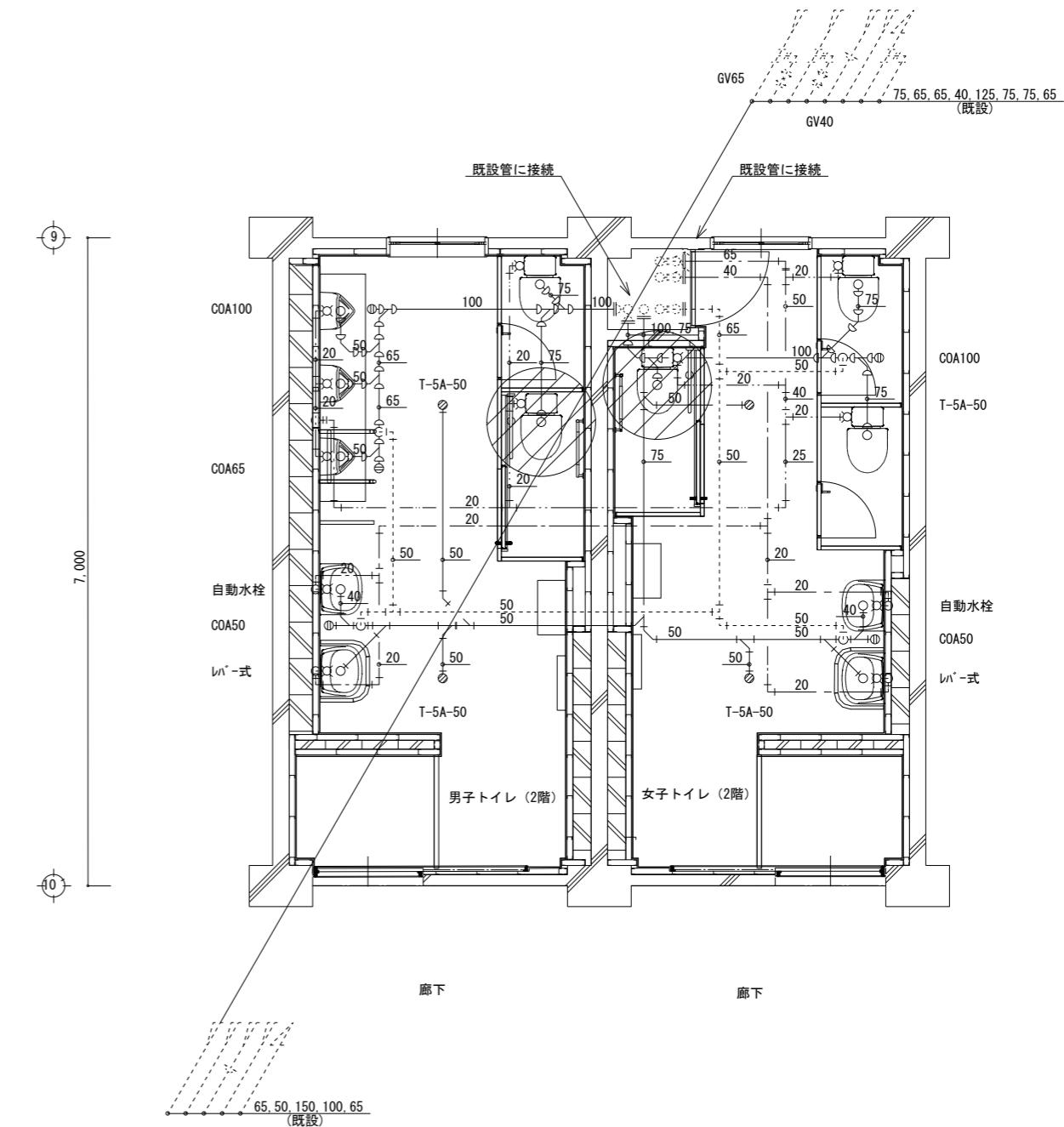
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



生徒用トイレ1階平面詳細図 S:1/50

(改修)

注記事項:1.1階のみ全面バ'-式改修(建築工事)とする。
2. ◎の範囲の大便器及び洋式便器は温水洗浄便座付とする。



生徒用トイレ2階平面詳細図 S:1/50

(改修)

注記事項:1.既設躯体の貫通はゲイメントカッターにて行い、穴明け(補修共)は全て本工事にて行う事。(2・3階のみ)
2. ◎の範囲の大便器及び洋式便器は温水洗浄便座付とする。

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

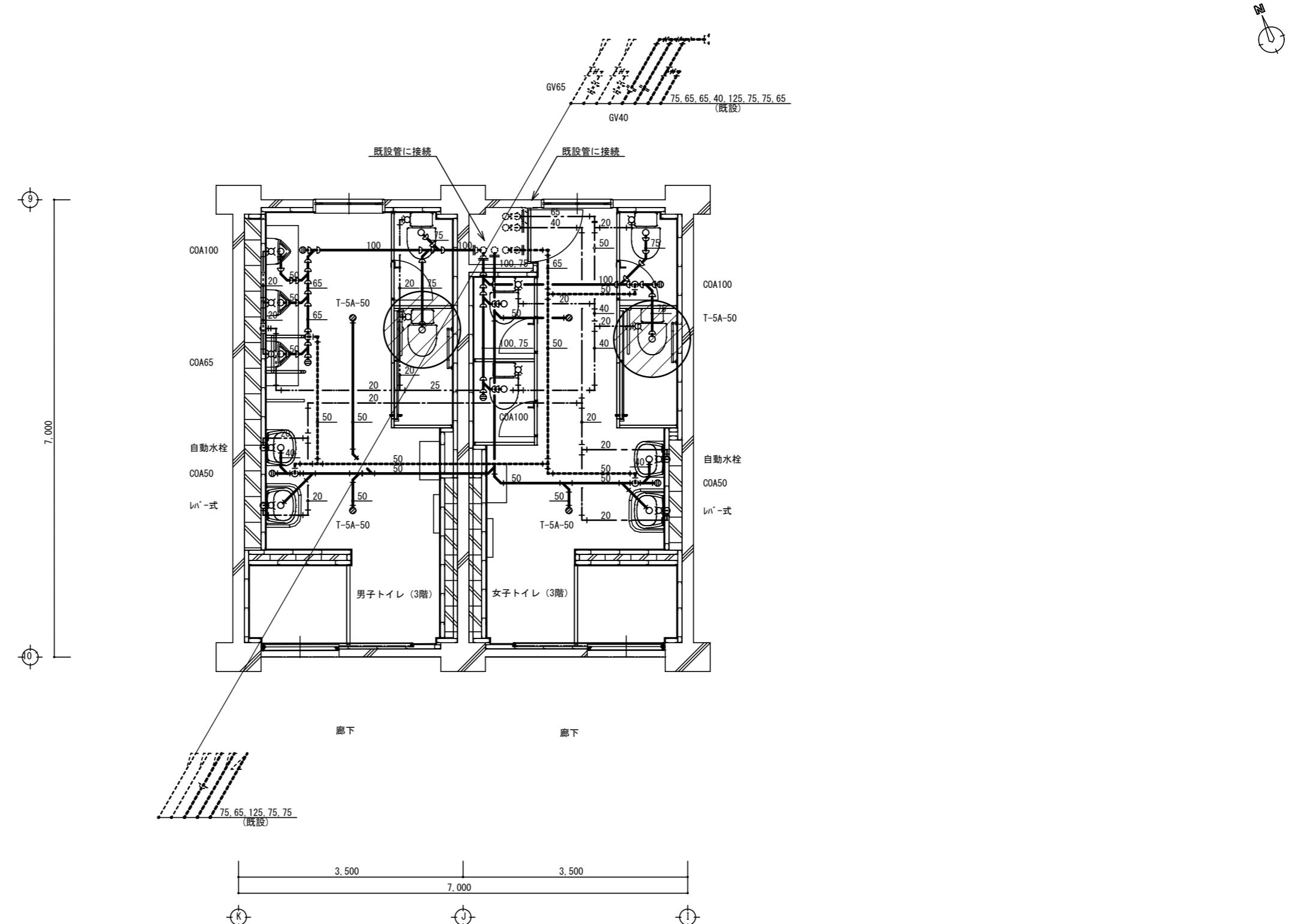
機械設備工事 生徒用トイレ1・2階平面詳細図(改修)(衛生設備)

DW. CK. NO. DATE
M-07 03-09

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



生徒用トイレ3階平面詳細図 S:1/50

(改修)

注記事項: 1. 既設躯体の貫通はガイドメントカバーにて行い、穴明け(補修共)は全て本工事にて行う事。(2・3階のみ)
2. ○の範囲の大便器及び洋式便器は温水洗浄便座付とする。

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

SCALE 1:50

機械設備工事 生徒用トイレ3階平面詳細図(改修)(衛生設備)

DW.

CK.

NO.

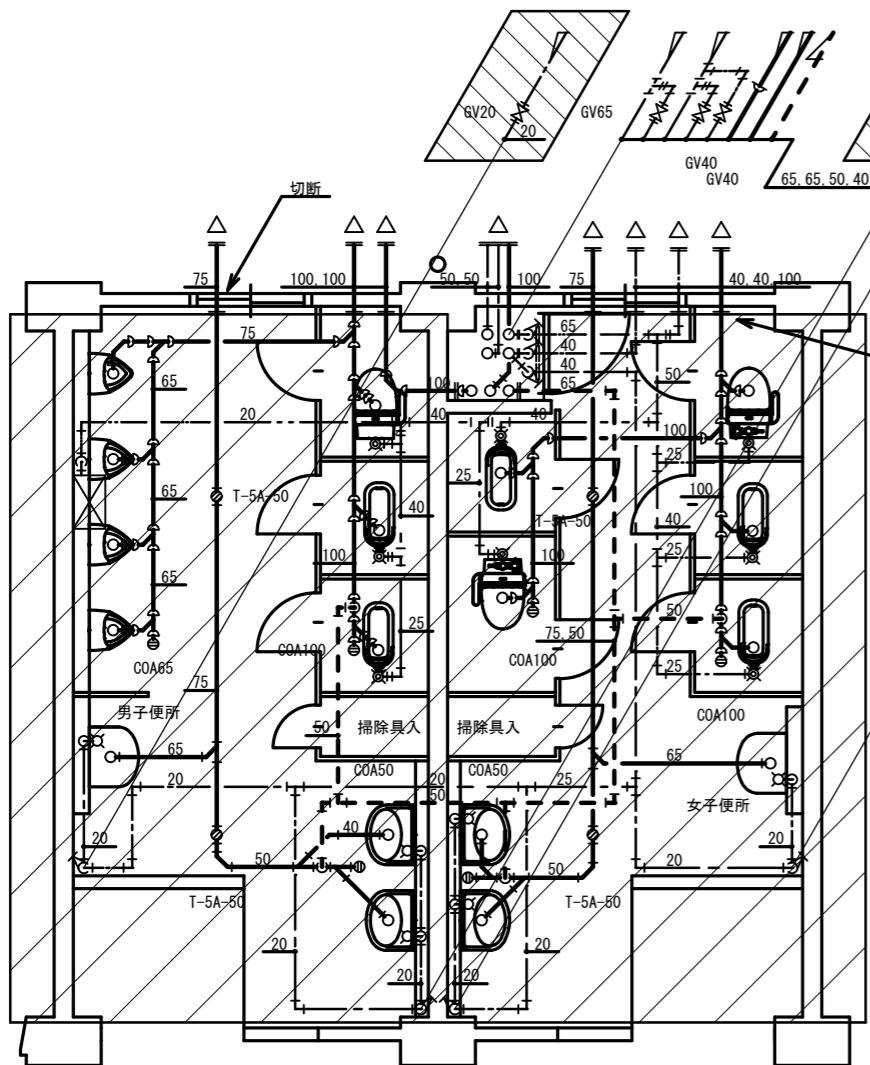
M-08

DATE

03-09

T 622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



廊下

廊下

3,500

3,500

7,000

K

J

I

生徒用便所1階平面詳細図 S:1/50

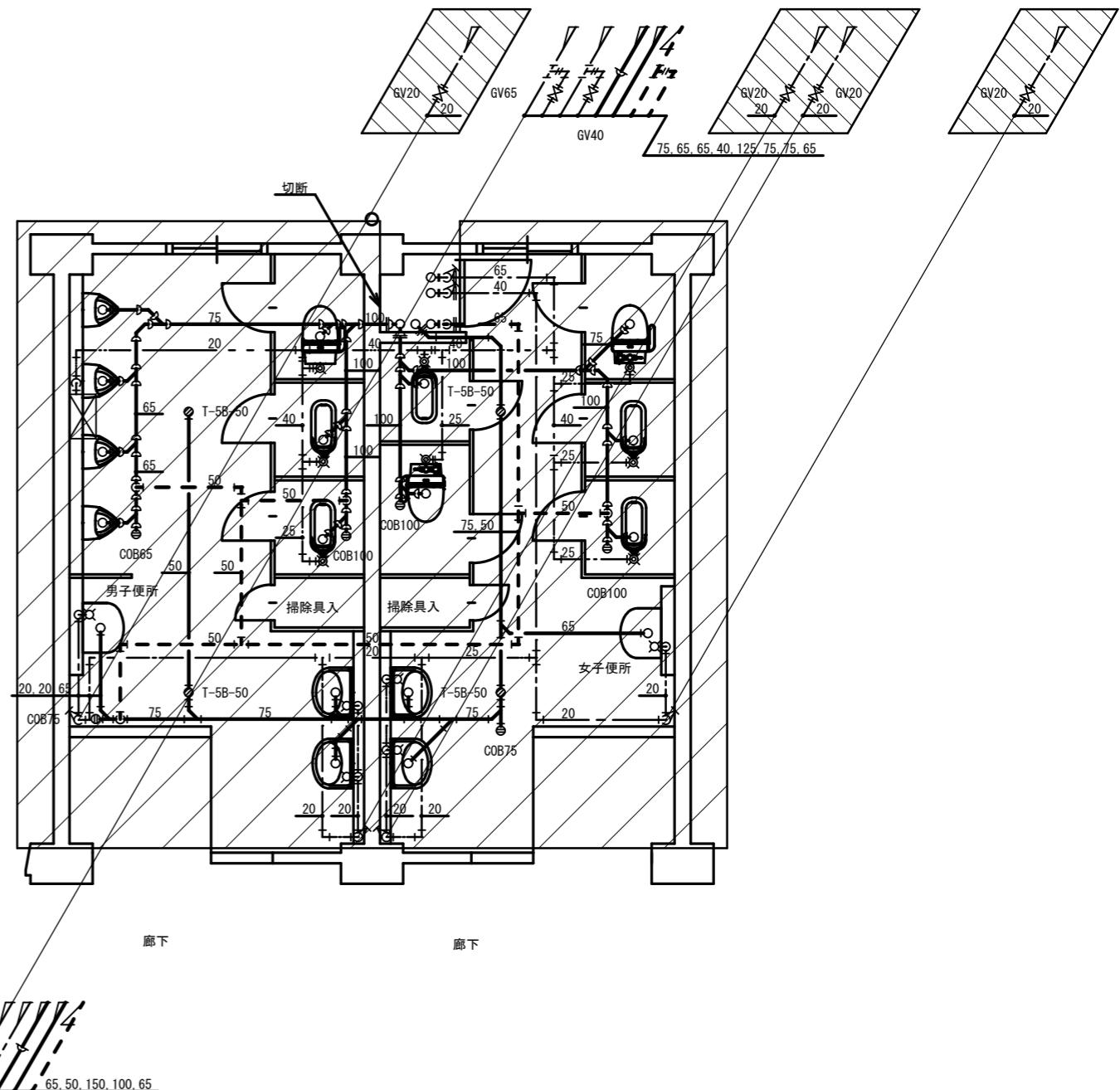
(現況)

注記事項: 1. 既設機器・配管(露出・イハ)部共の撤去は全て本工事とする。(図中 部分)

2. 1階の既設土間コン・取り壇し・がう処分は全て建築工事とする。

3. 本参考図は解体工事において、特に留意すべき主要部分のみを記載しているものである。

図中明記なくとも、一般的に建築物に付属している諸設備については撤去を行い、適切に処分する事。



生徒用便所2階平面詳細図 S:1/50

(現況)

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

機械設備工事 生徒用便所1・2階平面詳細図(現況)(衛生設備)

DW. CK. NO. M-09 DATE 03-09

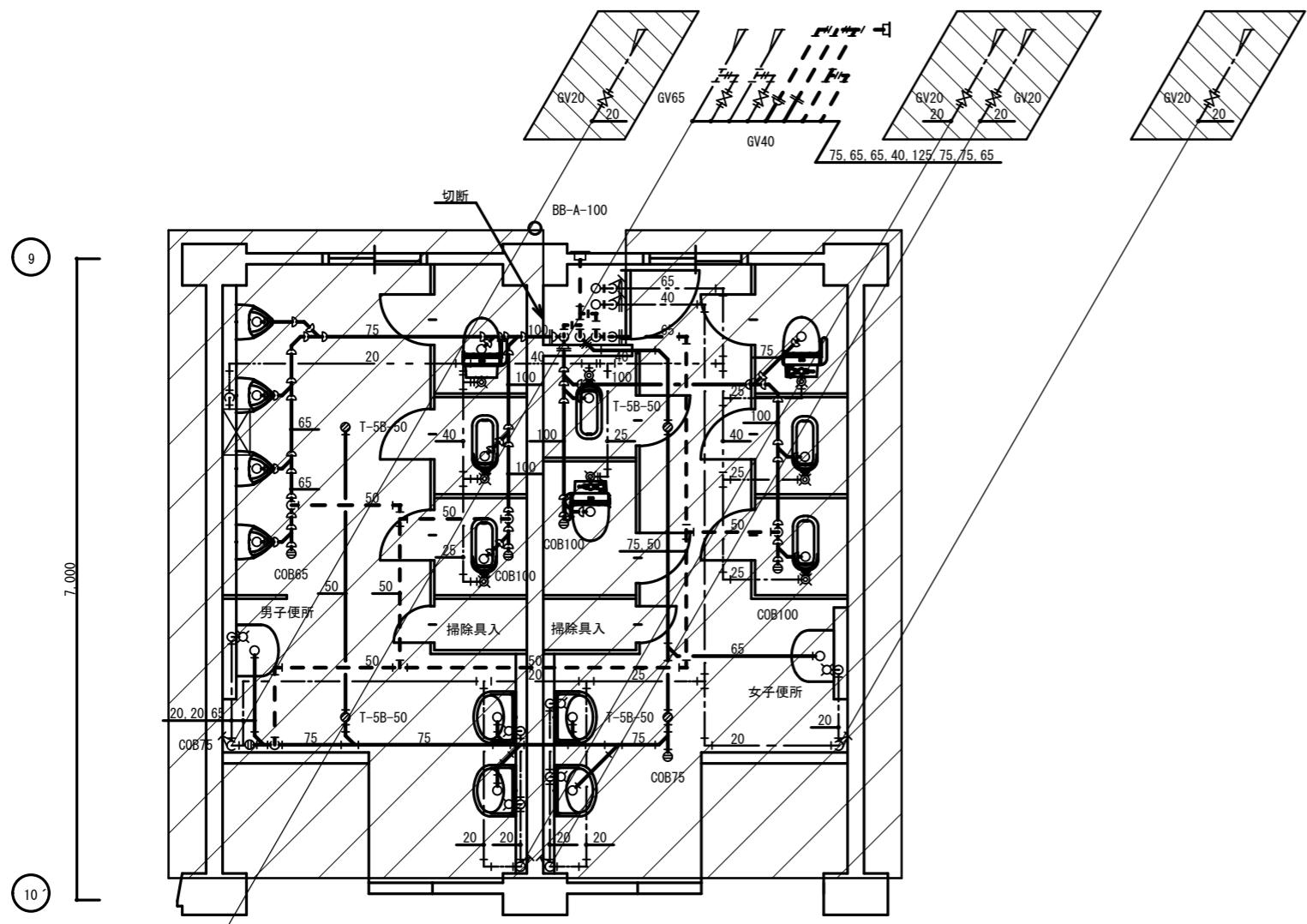
設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

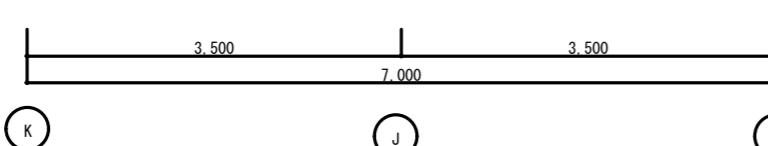
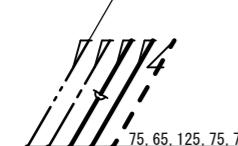
〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



⑩

⑨



生徒用便所3階平面詳細図 S:1/50

(現況)

名称	1階		2階		3階		合計
	男子便所	女子便所	男子便所	女子便所	男子便所	女子便所	
洋風便器 (F V式)	1	2	1	2	1	2	9
和風便器 (F V式)	2	3	2	3	2	3	15
小便器 (ハイタンク式)	4			4		4	12
ハイタンク	1			1		1	3
手洗器	2	2	2	2	2	2	12
掃除用流し	1	1	1	1	1	1	6
化粧鏡	2	2	2	2	2	2	12

注記事項

1. 既設機器・配管（露出・インペイ部共）の撤去は全て本工事とする。（図中 部分）

2. 本参考図は解体工事において、特に留意すべき主要部分のみを記載しているものである。

図中明記なくとも、一般的に建築物に付属している諸設備については撤去を行い、適切に処分する事。

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

機械設備工事 生徒用便所 3階平面詳細図（現況）（衛生設備）

DW. CK. NO. M-10 DATE 03-09

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

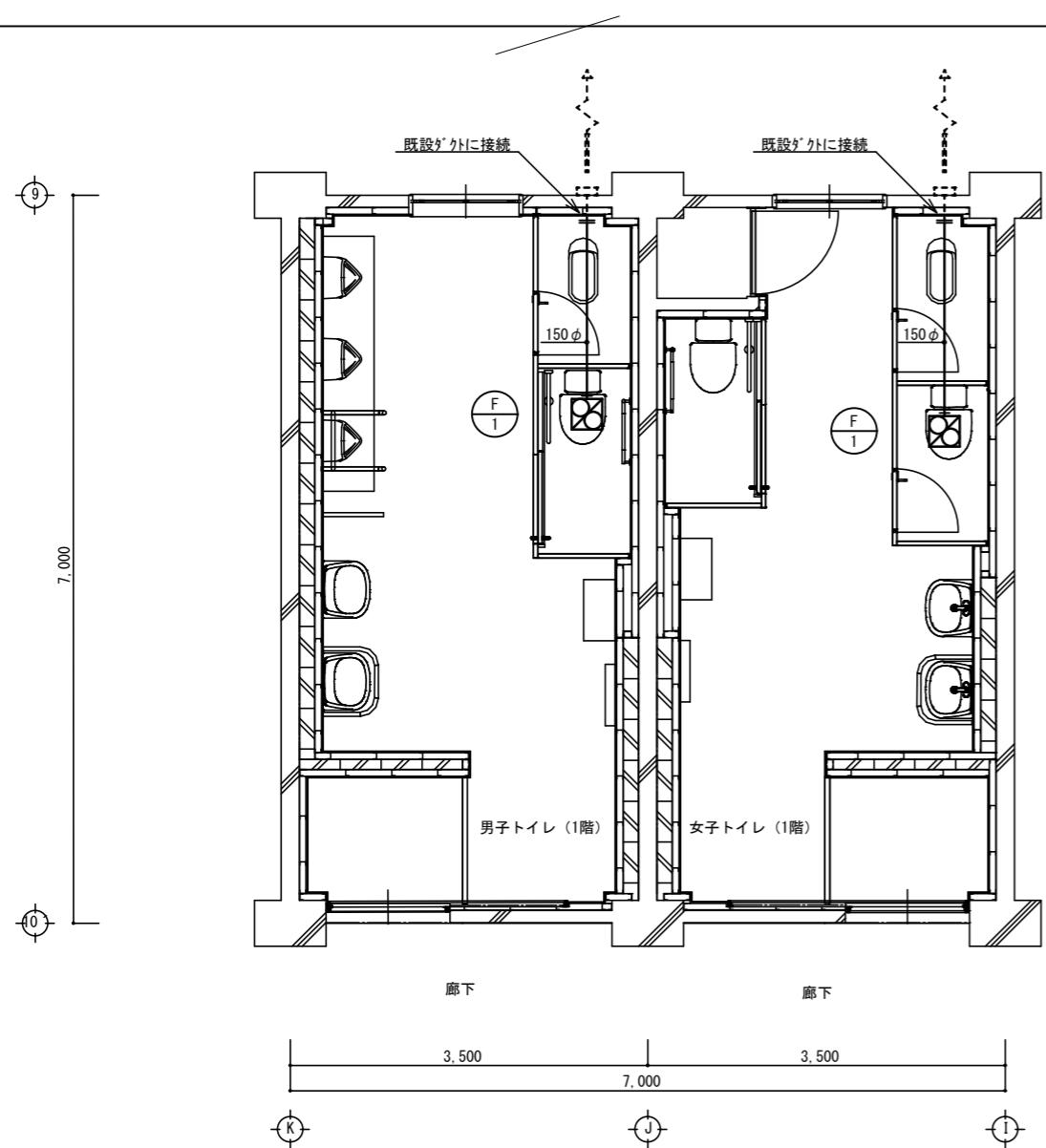
〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

機器リスト：換気					
記号	機器名称	機器仕様	電源	台数	備考
F-1	換気扇	天井埋込形ダクト用 低騒音形 インテリア格子タイプ 450 CMH × 40 Pa × 82W × 41 dB SUS製深形フード150φ共	1φ100V	6	VD-23ZX12-C (三菱電機 同等品)



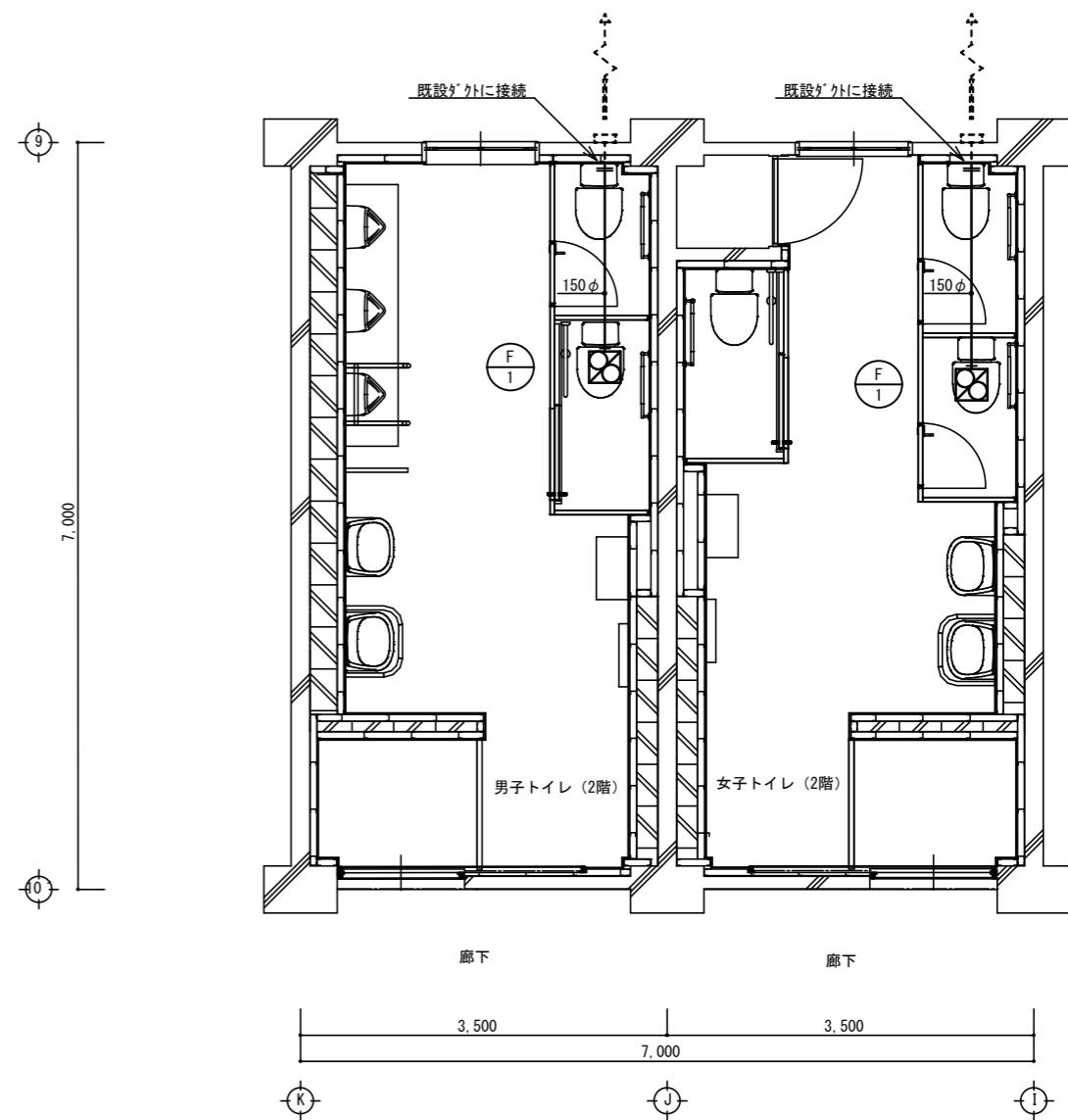
注記事項

1. 屋外露出部分のベンドキャップ・ガラリ等はSUS仕様（防虫網・水切付）とする。
2. 換気扇の能力特性はJIS C 9603による。
3. 換気扇の能力特性はJIS B 8330による。



生徒用トイレ1階平面詳細図 S:1/50

(改修)



生徒用トイレ2・3階平面詳細図 S:1/50

(改修)

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

機械設備工事 生徒用トイレ1～3階平面詳細図(改修)(衛生設備)

DW.	CK.	NO. M-11	DATE 03-09
-----	-----	-------------	---------------

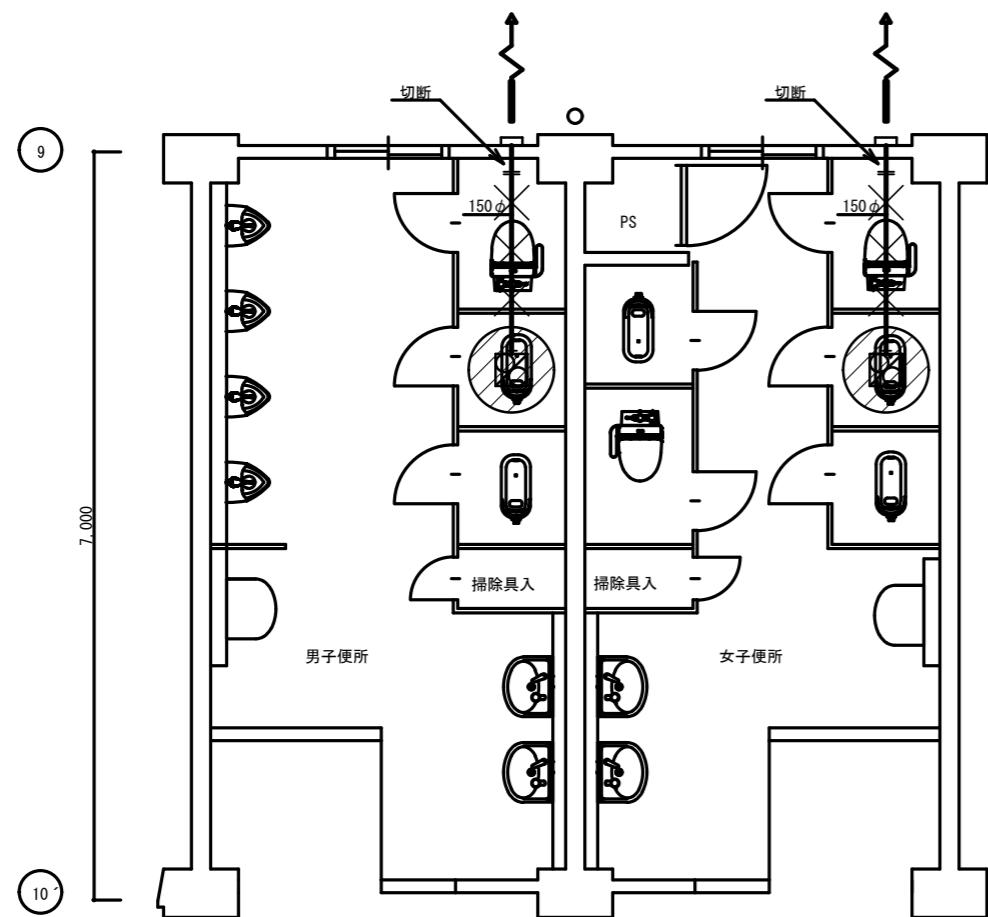
設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

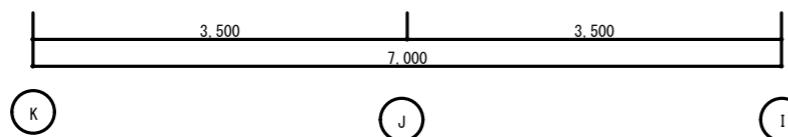
1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



廊下 廊下



生徒用便所1~3階平面詳細図 S:1/50

(現況)

撤去リスト：換気

名称	1階		2階		3階		合計
	男子便所	女子便所	男子便所	女子便所	男子便所	女子便所	
天井扇	1	1	1	1	1	1	6

注記事項

1. ②撤去機器、~~※※※~~を示す。

令和4年度 京丹波町立和知中学校トイレ改修工事 設計図

機械設備工事 生徒用便所1~3階平面詳細図(現況)(換気設備)

DW. CK. NO. DATE

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

一級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408